独立行政法人国立美術館の平成21年度に係る業務の実績に関する評価

全体評価

評価結果の総括

- (イ)平成21年度の独立行政法人国立美術館の活動は、当初の目標を期待どおり達成した。<u>調査研究の成果、その延長線上にある展覧</u> 会事業、収集事業、普及事業は質の高さを維持していると評価できる。
- (ロ)他の美術館を取り巻く状況に見ると、これまでのように<u>単に入館者の増加を目標にするのではなく、新たな発想、例えば入館者の満足度、展覧会の質などを指標とする時期</u>となっている。国立美術館もその活動の中で、国内の美術館に、ある基準となるような方向性を示すことが望まれる。

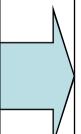
<参考> ・業務の質の向上:A

・業務運営の効率化: A

'財務、人事、施設整備:A

評価結果を通じて得られた法人の今後の課題

- (イ) <u>一国を代表する美術館のコレクション形成を目指す</u>ため、 まだまだ不十分な<u>収蔵環境の改善</u>が求められる。(項目別-P24)
- (ロ)現在の高い水準の調査研究の質を、<u>我が国のナショナルセンターとして</u>常に美術館全体また大学での美術研究をリードするだけの<u>質の高さを維持していくことが</u>求められる。 (項目別-P15)
- (ハ)情報技術が急速に拡大する今日、文化活動の根幹を担いうる優秀な研究者等の養成が、我が国の美術館及び美術界にとって不可欠である。(項目別-P42)



評価結果を踏まえ今後の法人が進むべき方向性

- (イ)<u>収蔵施設の狭隘化・老朽化対策</u>については、中期的な 視野で対応することが期待される。
- (ロ)我が国の近現代美術を対象とする研究機関として、<u>調査</u> 研究の更なる拡充に備え、研究環境の整備が必要である。 そのために<u>外部競争資金などの獲得実績を的確に把握し、</u>より一層活用することが望ましい。
- (ハ)法人全体としての人材育成システムの検討が必要であり、 キュレーター研修の充実などを図るべきである。

特記事項

事業仕分け第2弾の結果において、美術品収集(収集・保管・展示)については「事業規模は拡充」とされているものの、「適切な制度のあり方を検討するとともに、国からの負担を増やさない形での拡充を図る」とされていることから、政府の対応等も含め今後の動向を評価委員会として注視していく。

文部科学省独立行政法人評価委員会文化分科会国立美術館部会委員名簿

<正委員>

池田弘一 アサビビール株式会社相談役

竹内 順一 公益財団法人永青文庫館長、東京芸術大学名誉教授

<臨時委員>

安藤 紘平 映画監督、早稲田大学教授

前 田 富士男 中部大学人文学部教授

宮島 博和 公認会計士

山 梨 俊 夫 神奈川県立近代美術館館長

(以上6名)

独立行政法人国立美術館の平成21年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表

百口夕	中期	目標期間	中の評価	の経年変	变化	陌口夕	中期	目標期間	中の評価	の経年	变化
項目名		19年度				項目名		19年度			
(大項目名)国民に対して提供するサービスその 他の業務の質の向上に関する目標を達成する ためにとるべき措置	А	А	А	А		(小項目名)ナショナルセンターとしての人材育成	В	В	В	В	
(中項目名)美術振興の中核的拠点としての 多彩な活動の展開	Α	Α	Α	Α		(小項目名)フィルムセンターの取組状況	Α	Α	Α	S	
(小項目名)展覧会への取組(常設展)	Α	Α	Α	Α		(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成 するためにとるべき措置	Α	Α	Α	Α	
(小項目名)展覧会への取組(企画展)	Α	Α	Α	Α		(中項目名)業務の効率化の状況	Α	Α	Α	Α	
(小項目名)国立新美術館の取組	В	Α	Α	Α		(大項目名)財務、人事、施設整備に関する目標を 達成するためにとるべき措置	Α	Α	Α	Α	
(小項目名)情報の発信	Α	А	S	S		(中項目名)財務の状況	Α	А	Α	Α	
(小項目名)教育普及活動の実施状況	Α	Α	Α	Α		(中項目名)短期借入金の限度額	Α	А	Α	Α	
(小項目名)調査研究の実施状況	В	В	Α	Α		(中項目名)重要な財産の処分等に関する計画	Α	Α	Α	Α	
(小項目名)観覧環境の提供	В	Α	Α	Α		(中項目名)剰余金の使途	Α	Α	Α	Α	
(小項目名)国立新美術館の開館	В					(中項目名)人事の状況	Α	Α	В	Α	
(中項目名)我が国の近·現代美術及び海外の 美術を体系的・通史的に提示しうるナショナル コレクションの形成・継承	Α	А	А	А		(中項目名)施設整備の状況	А	А	Α	А	
(小項目名)収蔵品の収集	А	А	Α	Α		(中項目名)関連公益法人	Α	А	А	Α	
(小項目名)収蔵品の保管・管理	В	А	Α	Α							
(小項目名)収蔵品の修理	А	А	Α	Α							
(小項目名)収集・保管のための調査研究	Α	Α	Α	Α							
(中項目名)我が国における美術館のナショナル センターとして美術館活動全体の活性化に寄与	В	А	Α	Α							
(小項目名)ナショナルセンターとしての国内外の 美術館等との連携・協力	В	Α	Α	Α							

当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

備考(法人の業務・マネジメントに係る意見募集結果の評価への反映に対する説明等)

法人の業務・マネジメントに係る意見募集を実施した結果、意見は寄せられなかった。

【施策目標】芸術文化の振興

【参考資料1】予算,収支計画及び資金計画に対する実績の経年比較

(単位:百万円)

区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
収入						支出					
運営費交付金	4,984	6,779	6,042	5,790	5,773		6,011	7,274	13,417	16,133	14,787
展示事業収入	733	744	1,485	1,311	1,294		1,197	1,181	1,267	1,112	1,189
受託収入	38	42	18	33	4	管理部門 1	-	420	441	331	346
寄附金収入	6	29	11	35	17	3-7-11-1 J	-	761	826	781	843
消費税等還付税額	0	0	0	0	0	業務経費	4,814	6,093	5,757	5,771	5,399
施設整備費補助金	0	0	6,393	9,250	7,205	一般管理費	979	816	1,960	1,607	1,467
文化芸術情報電子化推進費補助金	0	0	0	0	1,049	展覧事業費	2,981	2,183	2,906	2,964	2,735
						調査研究事業費	209	201	233	201	198
						教育普及事業費	410	489	658	999	999
						国立新美術館 2	235	2,404	0	0	0
						施設整備費補助金	0	0	6,393	9,250	7,150
						文化芸術情報電子化推進費補助金	0	0	0	0	1,049
計	5,761	7,594	13,949	16,419	15,342	計	6,011	7,274	13,417	16,133	14,787

- 1 平成18年度より管理部門と事業部門を分けて記載 2 国立新美術館設立等準備事業費(平成18年度は国立新美術館開館準備等事業費等)

区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
費用						収益					
経常費用	4,105	5,886	6,097	5,930	5,704	運営費交付金収益	3,605	5,231	4,802	4,485	4,297
収集保管事業費	359	316	339	323	341	資産見返運営費交付金戻入	86	109	140	145	156
展覧事業費	1,131	1,468	1,901	1,861	1,714	資産見返寄付金戻入	0	0	0	1	1
調査研究事業費	313	444	382	296	322	資産見返物品受贈額戻入	38	21	14	15	
教育普及事業費	525	714	788	1,154	1,156	入場料収入	646	601	921	774	786
新館設置対応費	128	554	0	0	0	その他事業収入	86	139	563	533	500
受託事業費	36	41	18	33	4	受託収入	38	42	18	33	4
一般管理費	1,488	2,217	2,509	2,083	1,992		0	0	0	0	10
減価償却費	125	131	156	164	172		5	16	16	10	41
臨時損失	0	1	4	16	3	施設費収益	0	0	11	127	66
						雑益	1	4	2	6	7
						臨時利益	0	1	8	8	18
計	4,105	5,886	6,097	5,930	5,704	計	4,505	6,164	6,495	6,137	5,901
			-			純利益	400	278	398	207	197
						目的積立金取崩額	43	0	0	0	6
						総利益	443	278	398	207	203

(干!ユ・ロノココ)

区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
資金支出						資金収入					
業務活動による支出	5,174	7,315	7,213	6,972	6,681		5,761	7,557	7,628	7,111	7,340
投資活動による支出	237	430	6,355	8,486	7,858		4,984	6,779	6,042	5,790	5,773
財務活動による支出	0	0	4	3	1	入場料収入	648	605	919	774	785
国庫納付金の支払額	0	1,499	0	0	0	その他事業収入	90	136	605	479	575
翌年度への繰越金	3,096	1,409	1,765	1,777	2,435		6	27	12	35	18
						受託収入	33	10	50	33	33
						補助金等収入	0	0	0	0	156
						投資活動による収入	0	0	6,300	8,362	7,858
						前年度よりの繰越金	2,746	3,096	1,409	1,765	1,777
計	8,507	10,653	15,337	17,238	16,975	計	8,507	10,653	15,337	17,238	16,975

【参考資料2】貸借対照表の経年比較

(単位:百万円)

	17 00 No. 1 DC									(- 1-2-	<u>· 🗀 / J J / </u>
区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
資産						負債					
流動資産						流動負債					
現金及び預金	3,096	1,409	1,765	1,777	2,435		0	33	187	232	572
たな卸し資産	6	6	18	12	11	未払金	1,604	1,124	1,096	1,753	1,978
前渡金	0	1	0	0	2	未払費用	0	3	3	0	0
前払費用	2	5		6	5	前受金	0	6	38	24	44
未収入金	16	59	111	1,041	1,237	預り施設費	0	0	0	0	56
立替金	1	7	13	4	2	預り寄付金	1	14	8	33	10
仮払金	3	0	1	0	0	預り金	14	22	19	19	21
固定資産						固定負債					
有形固定資産						資産見返運営費交付金	781	1,142	1,055	1,023	951
建物	30,995	63,345		59,983	57,791	建設仮勘定見返運営費交付金	0	0	1	1	1
構築物	645	1,394	1,336	1,266	1,191	建設仮勘定見返施設費	0	0	0	0	22 32
機械装置	21	26		196	371	資産見返寄付金	0	0	27	26	32
車両運搬具	9	22	17	13	8	資産見返物品受贈額	143	123	109	94	79
工具器具備品	757	995		811	702						
土地	8,147	8,147	14,447	22,247	29,047						
美術品·収蔵品	45,687	47,349		50,569	53,129						
建設仮勘定	0	0	114	71	95	負債合計	2,543	2,467	2,543	3,205	3,766
無形固定資産						純資産					
ソフトウェア	26	45	33	25	21	資本金	45,949	81,019	81,019	81,019	81,019
電話加入権	5	3	3	3	3	資本剰余金	39,044	38,668	44,327	52,570	59,805
特許権仮勘定	0	0	1	1	1	利益剰余金	1,880	659	1,057	1,264	1,461
投資その他の資産						(うち当期未処分利益)	(443)	(278)	(398)	(207)	(203)
敷金·保証金	0	0		33	0	純資産合計	86,873	120,346	126,403	134,853	142,285
資産合計	89,416	122,813	128,946	138,058	146,051	負債·純資産合計	89,416	122,813	128,946	138,058	146,051

【参考資料3】利益(又は損失)の処分についての経年比較 (単位:百万円)

12 374114113					<u> </u>
区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
当期未処分利益	443	278	398	207	203
当期総利益	443	278	398	207	203
利益処分額	443	278	398	207	203
積立金	443	278	398	207	203
独立行政法人通則法第44条第 3項により主務大臣の承認を受けた額	0	0	0	0	0
美術作品購入·修 理積立金	0	0	0	0	0
設備積立金	0	0	0	0	0

備考:今中期目標期間については、通則法第44条第3項の目的積立金の申請を平成18~19年度に行ったものの、認定されなかった。理由として「独立行政法人の経営努力認定について(平成18年7月21日 (平成19年7月4日改訂)総務省行政管理局)」の(3)「独立行政法人の経営努力認定の基準」、「経営努力認定の対象案件の利益の実績が原則として前年度実績額を上回ること(ただし、前年度実績が 前々年度の実績を下回っている場合には、その理由を合理的に説明することが必要。)。」に対する合理的説明が認められなかったことにより、全額積立金への計上となっている。 また、平成20年度においては207百万円、平成21年度においては203百万円の利益が生じた。これは、主として入場料収入等が収入予算額を上回ったことにより生じた利益であるが、両年度とも前年度より も利益が下がっており、「独立行政法人の経営努力認定について」に対する合理的な理由を見つけることが難しいため、目的積立金の申請を行わないこととした。

【参考資料4】人員の増減の経年比較(過去5年分を記載) (単位:人)

	707 WT 1 PC	<u> </u>		+~ /	(TE:71)
職種	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
定年制研究系職員	60	61	61	61	61
定年制事務系職員	70	70	70	70	70

独立行政法人国立美術館の平成21年度に係る業務の実績に関する評価

段階的評定の区分及び定量的な評価を行う際の各段階別評定の達成度の目安については、次の考え方とする。

S:特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。)

A:中期計画通り、または中期計画を上回って履行し、中期目標に向かって順調、または中期目標を上回るペースで実績を上げている。 (当該年度に実施すべき中期計画の達成度が100%以上)

B:中期計画通りに履行しているとは言えない面もあるが、工夫や努力によって、中期目標を達成し得ると判断される。 (当該年度に実施すべき中期計画の達成度が70%以上100%未満)

C:中期計画の履行が遅れており、中期目標達成のためには業務の改善が必要である。(当該年度に実施すべき中期計画の達成度が70%未満)

F:評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を行う必要がある。(客観的基準は事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断された場合に限り Fの評定を付す。)

評定 A

中期計画通り、または中期計画を上回って履行し、中期目標に向かって順調、または中期目標を上回るペースで実績を上げている。

中項目の評価	評定
1.美術振興の中核的拠点としての多彩な活動の展開	Α
2. 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示しうるナショナルコレクションの形成・継承	Α
3.我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与	Α

【中項目評価】

1. 美術振興の中核的拠点としての多彩な活動の展開

<u>評定 A</u>

中期計画通り、または中期計画 を上回って履行し、中期目標に向 かって順調、または中期目標を上 回るペースで実績を上げている。

評価のポイント

国の文化基盤を形作る極めて重要な役割を十分果たし、収支、運営面においても良好な成果をあげていると認められる。より一層の斬新なアイデアと工夫により、各館がそれぞれの役割を意識しながら、美術または映像の芸術領域など、現代文化の先導的な水準に適合する活動が期待される。

	中期目標				評価建準	Ē				*******	+==	評価委員会によるコメント
中期個	年度恒	指標以ば評価質目	S	Α	В	С	F		主な実績及び自己	造判面	評定	
	機会の提供、美術創造活動の活性化の推進など、現代 対拠点として、現代の美術を取り巻く状況の変化に対応し						賞機会の提供、美術創	造活動の活性化の推進な	などに積極的に取り組む	こととする。		
の鑑賞機会をより多くの国民に提供す 展覧会は、次の観点から実施するもの 国家的規模で行う主導的な限額会の3 全国の美術館に方向性を示す先導的な 新しい芸術表現を取り入れた先端的お 酸会を開催する際は、企画的から脱 前の満足度を踏まえた事業評価を行い マクの展覧会においては、実施目的、内 標を設定し、その達成に努めること。	ひとし、中期目標期間全体としてバランスのとれたものとた 実施 な展覧会の実施	なるようにすること。 七もに、専門家からの意見や人 的に行うこと。 を踏まえた適切な人館者数の										
多様な鑑賞機会の提供 -1利用者のニーズ、学術的動向 踏まえ、各館において魅力ある	(1)多様な鑑賞機会の提供 -1 国立美術館は 利用者のニーズ、研究成果を踏まえ、各 おいて魅力ある質の高い所蔵作品展、企画展及び上映会と	宝典施 (常設展)	(1)多	蒙な鑑賞機会 所蔵作品	展						A	・各館とも展示替をしばしば行 所蔵作品を生かした特定のテー
質の高い常設展・企画展や企画上	する。所蔵作品展については、各館の所蔵作品の特色を生 展示を行うとともに、あわせて作家の特集展示やテーマ性の			++	館名	Auto :	開催日数	展示替回数	入館者数	目標数		設けたり、様々な角度から小企
やを実施する。 - 2常設展は、国立美術館の各館	小企画展を開催する。企画展については、日本のみならず	海外の			代美術館(本館	,	293	4	225,201	203,000		を実施するなど、充実した常記 なっている。特に、東近美の作
特色を十分に発揮したものとす	美術館と協力しながら、近現代作家の個展、メディアアート等 い芸術表現を視野に入れた企画展を開催する。	野新 し		東京国立近1 京都国立近1	代美術館(工	云태)	216 237	4	77,209	52,000		作品の前で語るアーティスト・
とともに、最新の研究結果を基	また、前年度に引き続き、各館の企画・連携の在り方を		<u> </u>	京都国立近1 国立西洋美	** ******		280	12	121,630 404,681	194,000 250,000		や「テーマで歩こう」、西美
、美術に関する理解の促進に寄 することを目指す。	、各館における展覧会企画等の連絡調整を行うとともに、平 年9月に5館の共同により開催する展覧会の作品選定等具			国立四件美1 国立国際美			56	0	15.951	10,000		年事業にちなみ同館の出発点
3企画展は、積年の研究成果に	準備に着手する。		-	国业国际天1	計	+	1.082	24	844.672	709,000		松方コレクションやル・コル
づき、時宜を得たものを企画し	映画については、保存・復元の成果を最大に活用しつ? 家や時代、国やジャンル等さまざまな切り口による上映会を		L		ΠI		1,082	24	844,072	709,000		ェに視点をおく展観、「京都」
学術水準の向上に寄与するとと に、利用者のニーズに対応しつ	て、多様な鑑賞機会の提供を図る。また、前年度に引き続き		冬 館	の特徴								う地域性を「コンテクスト化.
、特に次の観点に留意して実施	産業の枠外で製作された日本映画の上映を行う。 なお、入館者に対するアンケート調査を行い、そのニー	プか法		東京国立近代	美術館							うと試みる京近美の展観、国際
る 。	足度を分析し、結果を展覧会事業等に反映させるよう努める			 								長澤英俊関連展観などを評価
国際的視野に立ち、海外の主要 可館と連携し、確固たる評価を得	(東京国立近代美術館)		Ā	蔵作品展「	近代日本の美	美術」では,	絵画・彫刻・水彩	ジ・素描・版画・写]	真など,約 10,000	点のコレクションから,	毎回	なかでも、萬鉄五郎関連の「
1る世界の美術を紹介するととも	本館·工芸館 目標入館者数計:64万4千人		17	o~220点の	作品を選び	, 20 世紀初	頭から現代に至る	日本の近・現代美術	の流れが概観でき	るよう展示している。		・立つ人・・」展は、高い質の
我が国の作家や芸術的動向を海	<本館>			また,所蔵作	作品展と併設	として 4F 特算	集コーナー ,3F Å	仮画コーナー・写真	コーナー , 2F ギャラ	ラリー4 では , 「木に潜む)ŧ	る出色の小企画展であった。
-紹介する展覧会等に積極的に取 目む。	所蔵作品展では、近代日本美術の流れを通史的に展観す う同館の役割を踏まえつつ、鑑賞者が関心をもちやすいようめ		の	」「油彩技法	まから見た近	f代日本絵画	」など特定の作家	『に絞った展示や特定	€のテーマによる小	企画を 9 回実施すること	によ	る出色の小正画版であった。
最繁会テースの設定やその担示	のある展示を行う。また、所蔵作品研究の成果に基づき、須田		IJ	,編年順の原	所蔵作品展と	は異なった	視点を導入し,新	i鮮さと会期ごとの変	E化を印象づけるよ	う努めた。		【よりよい事業とするための意
一学について新しいた白州を二十	郎、坂本繁二郎といった作家の特集展示や、「人体」「庭」「水浴などのテーマに基づく小企画を実施する。	音図:	7	さらに,ギャ	ラリー内各	所に展示され	れた関連作品をた	どって鑑賞する新企	画「テーマで歩こう	う」を立ち上げ,めりは「	ງທ	・小企画展としての所蔵作品
に努める。	企画展は、時代(戦前・戦後)、地域(国内・海外)、ジャンル				よう充実を							要性があらためて認識された-
	画・彫刻・写真等)のパランスを考慮しつつ編成する。具体的に 60年代から今日に至るヴィデオアート等の流れを、「ヴィデオ					-				回実施した。アンケート	で	あった。これを踏まえ、今後(
)領域の芸術表現を積極的に取り	ながら」展と斯界を代表するウィリアム・ケントリッジの個展(京	都国						るこのトークは,き			,	美術館としての責務は、近・野
	立近代美術館との共同企画)により紹介するとともに、代表作はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか	(我々 を含む)							当とリンクする内容	Fのコラム「近代美術の眼	ξ.1	術全体を俯瞰する骨太な基準の
3。 過土の押まれていた作宏・作品	ゴーギャン展、日本の現代美術の重要作家である河口龍夫の	個	€ 1	里戦 り むこと	」により,所	風作品機のん	広報を積極的に行	うた。				や、さらには個々の作品を歴史
動向の発目 も声響 価に奴める	展、近代日本画家小野竹喬の個展、近代韓国の代表的彫刻 圭の個展を開催する。	家権鎮	,-	[芸館]								地域性などで見直す「新しいこ
なお、企画展の開催回数は概ね	目標入館者数計:55万人9千人				ス.染織 落	★竹丁	・金T・ジュエリ	ー・人形・グラフィ	·ック・デザイン等	の各分野にわたる約 2,90	00点	クスト化」という次なる課題に うべきではないだろうか。そ
下のとおりとする。 東京国立近代美術館)	ア 所蔵作品展 目標入館者数計:20万3千人 「近代日本の美術」展 4回展示替え									L芸とデザイン-アール・		ければ、単に漫然と作品を展え
CITAL TO A FILLED /	たいロヤリ大州川成 4日成小日へ	1									1	
本館 年3回~5回程度 工芸館年2回~3回程度	6回程度の小・中規模の特集展示 イ 目標入館者数計:35万6千人		_	ヴォーから3	現代まで」「	近代工芸の	名品-陶芸」等工	芸の歴史や特定のテ	ーマに沿った展示	を実施した。		ことに陥り、若者を引きつける

工芸作品の名称は難しい漢字が使われたり、読みが独特であったりと、一般的になじめないものも多いが、会場のキャプ ションの作家名と作品名にフリガナをふり、あわせて作品をより身近に感じてもらえるように素材や技法についての表記を 行うなど,来館者サービスの充実に努めた。

イ 京都国立近代美術館

目標入館者数:28万人

目標入館者数:1万人

(イ)「ゴーギャン展」

(ウ)「河口龍夫展」

(工)「権鎮圭展」

フィルムセンター

(京都国立近代美術館)

年3回程度

(国立西洋美術館)

(国立国際美術館)

(国立新美術館)

年5番組~6番組程度

年6回~7回程度

年5回~6回程度

年6回~7回程度

(公募展を除く。)

(ア)「ヴィデオを待ちながら・映像、60年代から今日へ」

(60日間(うち平成21年度59日間))

期間: 平成21年3月31日(火)~6月7日(日)

目標入館者数:2万2千人(うち平成21年度2万1千人)

期間: 平成21年7月3日(金)~9月23日(水・祝)(74日間) 共催: NHK、NHKプロモーション

期間:平成21年10月14日(水)~12月13日(日)(53日間)

期間:平成21年10月10日(土)~12月6日(日)(50日間)

日本画,洋画,版画,彫刻及び陶芸,染織,金工,木竹工,漆工,ジュエリー等の工芸,写真等約9,700点の中から展示 替え(年 12 回)により,企画展に合わせた「写真--東松照明による「京都」」「日本画--再興日本美術院の作家たち」など の小企画展を開催した。

可能な限り展示替えを行うことによって、「コレクション」の有効活用に配慮し、単に「コレクションの名品」だけの展 示のみならず,企画展との連動によって,タイムリーな作品紹介,さらには作品が有するコレクション上の位置づけ及び美 ことに陥り、若者を引きつける魅力 ある美術館にはならないだろう。ま た、常設展は単に入館者の増大とい う目標のみならず、満足度を高める 工夫も必要である。

・こうした努力とともに、常設展に 特化した積極的な広報活動が不可欠 である。

- 4各館で展覧会を開催するにあたっては、実施目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家育からの意見を聞くともに、人館者に対するアンケート調査を実施。そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常力のあるものとなるよう努める。一ち各館の連携による共同企画展の実施について検討し推進する。地方における鑑賞機会の充実、所蔵作品の効果的活用を図る観点から、地方に対してを反映させた地方、巡回展を積極的に行う、

また、公立文化施設等と連携協力して、所蔵映画フィルムによる優秀映画鑑賞会を実施する。

入館者数については、各館で行う展 覧会ごとに実施目的、想定する入館 者層、実施内容、学術的意義、良好 な観覧環境の確保、広報活動、過 去の入館者等の状況等を踏まて入 館者数の目標を設定し、その達成 に努める。

映画フィルム・資料の所蔵作品を活用した上映、展示等の活動に重点的に取り組む。

共催:武蔵野美術大学 会場:本館ギャラリー4 目標入館者数:9千人

(オ) ウィリアム・ケントリッジ展」 期間: 平成22年1月2日(土)~2月14日(日)(38日間) 共催: 京都国立近代美術館

目標入館者数:1万4千人 (カ)「生誕120年 小野竹喬展」 期間:平成22年3月2日(火)~4月11日(日)

(37日間(うち平成21年度27日間)) 共権:毎日新聞社、NHK、NHKプロモーション 目標入館者数:3万人(うち平成21年度2万2千人) < 工芸館>

所蔵作品展では、年間を通して企画性のある特集展示を行う。 具体的には、春に恒例の花を主題とした「近代工芸の名品 花」や、 近年の収集で充実してきた「欧米の近代工芸とデザイン」、夏休み企 面としての「ことも工芸館」等の展覧会を開催する。

なお、夏季の「こども工芸館、では、小・中学校教職員を対象とする 研修の実施や工芸館作成のセルフガイドを利用した護賀授業のため の指導業等を配布するほか、教育現場からの意見も取り入れて、各 成長段館にあった鑑賞補助教材を作成し、児童・生徒による工芸鑑 曾の一個の権地に努める。

企画展では、現代工芸の装飾をめくる新たな動向を検証し将来の 展望を図る特別展や、平成20年度に収蔵した「染野天妻陶芸コレケ ション、を山口支萩美術館・浦上記念館と協力して特長、戦後の 伝統的な陶芸作品を紹介する。また、本館ギャラリー4を会場に、戦 後のグラフィッケ・デザイン界を牽引してきた早川良雄の回顧展を開 端する

目標入館者数計:8万5千人

ア 所蔵作品展所蔵作品展 目標入館者数計:5万2千人 「近代工芸の名品」4回展示替え

「近代上芸の名品」4回展示替え イ 企画展 目標入館者数計:3万3千人

(ア)「沙野夫妻陶芸コレクション・リーチ・濱田・豊藏・壽雪 -」 目標入館者数:1万2千人 共催:朝日新聞社

(イ)「現代工芸への視点 - 装飾の力」 目標入館者数:1万2千人

(ウ)「早川良雄展」 会場:本館ギャラリー4 目標入館者数:9千人

<フィルムセンター>

ンルルなどン 上映会では、収集と研究の成果に基づいて映画人や製作園、 ジャンルなどのテーマ別に企画を実施する、所蔵作品を活用した上 映会をも肥く E日大使館等での連携により網で品を紹介さた 映会を開催する。また、フィルムセンターが近年発掘・復元した珍し い映画を広く公開する 発掘された映画たち、き開催するほか、若者 によるいわかる「自主映画、の発典であり、映画作家の登竜門として の性格を持つ映画祭でもある「第31回びあフィルムフェスティバル, を開催する。あわせてこども映画館等のイベントを通して、貴重な映 画体験、視聴覚体験の機会を提供する。

展覧会では、スチル写真やポスターの所蔵コレクションを活用しつつ、文学という切りで導入した「映画の中の日本文学 Part?」や、フランス古典映画のオリジナル・ポスターによる「フランス神コスターの世界、を開催する。また、上映企画と関連させて「ドキュメンタリー作家 土本典昭、「生誕百年 映画女優 田中娟代、を開催する。

上映会·展覧会 目標入館者数計:13万3千人 ア 上映会 目標入館者数計:12万1千5百人

(大ホール)

(ア)「映画の中の日本文学 Part2」 目標入館者数:3千5百人

(イ)「発掘された映画たち2009」 目標入館者数:3千5百人

(ウ)「日本映画史横断 怪獣・SF 映画特集 Part 2」

日標入館者数:6千人
(エ)「EU フィルムデーズ2009」 日標入館者数:5千人

(オ) 「特集・逝ける映画人を偲んで2007 - 2008」

目標入館者数:1万8千人(カ)「第31回びあフィルムフェスティバル」

(カ)「第31回びあフィルムフェスティバル」 目標入館者数:5千人

(キ)「生誕百年 映画監督 山中貞雄」 日標入館者数・3千5百人

(ク)「生誕百年 映画女優 田中絹代」

目標入館者数:2万6千5百人 (ケ)「映画監督 大島渚」

目標入館者数:1万1千人 (コ)「映画監督 吉田喜重」 目標入館者数:1万1千人

(サ)「映画監督 篠田正浩」 目標入館者数:1万2千人

(小ホール)

(シ)「日本・ブルガリア外交関係再開50周年記念 日本・ドナウ 交流年2009ブルガリア映画特集」 日標入館者数:1千5百人

(ス)「日本インディペンデン画史シリーズ ぴあフィルムフェステ

術史的な意義等についても、よりわかりやすく周知させるよう努めた。

また,当館が中心となって申請し採択された科学研究費補助金(基盤研究A)の研究テーマ(「東西文化の磁場-日本近代建築・デザイン・工芸の超-,脱-境界的作用史の基礎研究」)を,研究成果発表の場となるよう「コレクション・ギャラリー」において関連の小企画展「19世紀末・京都の一動向 —田村宗立,伊東忠太を中心に」として実現し,併せて海外からも研究者を招へいしてシンボジウムを開催した。

ウ 国立西洋美術館

国立西洋美術館の所蔵作品展は,所蔵作品約4,600点の中から,約200点の絵画・彫刻を選んでおおむね時代順に配列し,中世末期から20世紀までの西洋美術の流れを辿ることのできる展示を行っている。平成19年9月以降,新館設備改修工事のため,規模を縮小して前庭と本館のみによる所蔵作品展を行ってきたが,平成21年2月に新館の工事が完了し,6月4日に前庭・本館・新館をあわせた本来の規模による常設展のリニューアル・オープンを果たした。また,平成21年度は開館50周年にあたり,これを記念して小企画展「ル・コルビュジエと国立西洋美術館」展「ローマ 未来の原風景by HASHI」展、「所蔵水彩・素描展・松方コレクションとその後」を所蔵作品展スペースの中で実施した。

このほか,企画展示館において開催した「かたちは,うつる」展も,所蔵作品のみによる企画であることから所蔵作品展の一環と位置づけて,同展開催中は本館・新館・企画展示館の展示のすべてを常設展観覧料で鑑賞できるようにした。

工 国立国際美術館

国立国際美術館の所蔵作品展は,所蔵作品約6,100点の中から作品を選び,特別展の展示室使用状況から年間で1回の開催とし,「長澤英俊 - オーロラの向かう所 - 」展との関連で開催した。長澤英俊がイタリアに在住し作品の制作を続けていることから,主に所蔵作品からヨーロッパの近代及び現代美術の流れが理解できるように6章にわたり展示を構成した。セザンヌやピカソなどからなる「1.近代絵画の巨匠たち」,デュシャンやマン・レイなどからなる「2.ダダとシュルレアリスム」,クリストなどからなる「3.フランスのヌーヴォー・レアリスムを中心に」,ホックニーなどからなる「4.イギリス現代美術の展開」,ベッヒャーやグルスキーなどからなる「5.現代写真 - ベッヒャー以降」,リヒターやデュマスなどからなる「6.ヨーロッパ現代美術の新展開」と,それぞれに区分し作品を展示した。また,近年の購入作品の中から未だ展示されていない作品については積極的に展示するよう心がけるとともに,特集展示として「工藤哲已」作品の展示を実施し,寄託作品の活用を図った。

展覧会への取組 (企画展) 【定性的に評価】

企画展

企画展は,利用者のニーズに応え,以下の観点に留意して実施した。

- イ 国際的視野に立ち,海外の主要美術館と連携し,確固たる評価を得ている世界の美術を紹介するとともに,我が国の 作家や芸術的動向を海外に紹介する展覧会等に積極的に取り組む。
- ロ 展覧会テーマの設定やその提示方法等について新しい方向性を示すことに努める。
- ハ メディアアート,アニメ,建築など我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ,最先端の現代美術への関心を促す。
- 二 過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に努める。
- ホ その他

館名	展覧会名	開催日数	入館者数	目標数	企画趣旨
東京国立近	ヴィデオを待ちながら - 映像 , 60 年代から今日へ	59	12,240	21,000	口 , 八
代美術館	ゴーギャン展	74	288,444	280,000	イ
(本館)	権鎮圭	50	11,683	9,000	ィ,ニ
	河口龍夫展 言葉・時間・生命	53	11,350	10,000	口 , 八
	ウィリアム・ケントリッジ 歩きながら歴史	38	12,718	14,000	口 , 八
	を考える そしてドローイングは動き始めた				
	生誕120年 小野竹喬展	27	33,464	22,000	口,二
	計	301	369899	356000	
東京国立近	染野夫妻陶芸コレクション - リーチ・濱田・豊	52	22,500	12,000	
代美術館	藏・壽雪 -				朩
(工芸館)	現代工芸への視点 - 装飾の力	64	10,569	12,000	
	早川良雄 - "顔"と"形状"-	38	11,402	9,000	
	計	154	44,471	33,000	
京都国立近	ラグジュアリー:ファッションの欲望	39	25,908	40,000	口,亦
代美術館	京都新聞創刊130年記念 京都学「前衛都市・モ	37	17,664	25,000	
	ダニズムの京都」 1895- 1930				
	無声時代ソビエト映画ポスター展	45	16,958	13,000	=
	生誕120年野島康三 ある写真家が見た日本近代	24	7,021	12,000	_
	ウィリアム・ケントリッジ 歩きながら歴史	40	12,777	14,000	口 , 八
	を考える そしてドローイングは動き始めた				
	ボルゲ - ゼ美術館展	52	94,315	170,000	1
	コレクション展【 1】	-	-	9,000	
	モホリ・ナジ展【 2】	-	-	4,000	
	マイ・フェイバリット - とある美術の検索目録	7	1,653	-	口,二
	/ 所蔵作品から【 3】				
	計	244	176,296	287,000	

- ・大入館者数を目指す共催展とは一線を画す独自性に満ちた企画展が顕著であった。そのいずれもが、各館の日頃の研究成果と結びついており、同時に野心的でもあった。なかでも、ゴーギャン、ウイリアム・ケントリッジ、装飾の力、フランク・ブラングィン、前衛都市・モダニズムの京都、杉本博司、やなぎみわ、長澤英俊、などのような特色ある展覧会、また、メディアアート、アニメ、連築などが国の得意な新領域の芸術表現を積極的に取り上げているのは、評価できる。
- ・地道ではあるが、フィルムセンターの 上映企画についても、「発掘された映画 たち」など多様に企画されていて評価に 値する。
- 【よりよい事業とするための意見】 ・各館の個性を発揮し、特色を生か した個別的な企画展の方針を打ち出 すことが、今後とも重要である。
- ・これからも映像なども含めた多様 なメディアを取り込んで、若い世代 を巻き込んだ文化推進活動を企画し てほしい。
- ・多数の入館者数が予想される大規 模な共催展においても、入館者の満 足度を考慮し、「質への転換」をは かる努力を望む。

イバルの軌跡 vol. 2 」
目標入館者数:2千5百人 (セ)「ドキュメンタリー作家 土本典昭」
目標入館者数:3千5百人 (ソ)「映画の教室2009」
目標入館者数:2千人
(タ)「アンコール特集:2008年度上映作品より」 期間:平成21年10月30日(金)~11月15日(日)(9日間)
金、土、日のみ上映 目標入館者数:2千5百人
(チ) 「川喜多賞受賞監督作品選集 川喜多かしこ生誕 100 年記
念海外巡回プログラム特別上映会。 目標入館者数:3千人
(ツ)「NFC 所蔵外国映画選集 アメリカ映画史研究 」
目標入館者数:1千5百人 イ 展覧会 目標入館者数計:1万1千5百人
(ア)「映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 2」(併設:「展覧会 映画遺産」)
目標入館者数:2千5百人
(イ)「ドキュメンタリー作家 土本典昭」(併設:「展覧会 映画遺産」)
目標入館者数:1千5百人 (ウ)「生誕百年 映画女優 田中絹代」(併設:「展覧会 映画遺
産」)
目標入館者数:4千人 (T)「フランス映画ポスターの世界 フィルムセンター所蔵新外映
(エ)「フランス映画ポスターの世界 フィルムセンター所蔵新外映 コレクションより」(併設:「展覧会 映画遺産」)
目標入館者数:3千5百人
(京都国立近代美術館) ・ 「京都に只属では、京都を中心とする近代美術の回籍 展望を試み
所蔵作品展では、京都を中心とする近代美術の回顧、展望を試み るとともに、企画展と連動したテーマ性の高い小企画をさらに充実さ
せ、関西を中心とした近代美術の調査・研究の成果を積極的に展示 する。また、現代美術については収蔵作品を基にした企画展示場及
び常設展示場をともに使用する全館展示の企画展を開催し、過去 20 年間の収集と研究の成果を公開する。
企画展では、「ラグジュアリー」展でファッションと美術の重なり合う領域の研究を、「野島康三展」で同館所蔵の野島康三の写真作品の日
域の研究を、「野島康三展」で同館所蔵の野島康三の写真作品の日 本と海外における位置付けの最新の研究成果を、「ウィリアム・ケント
本と海外における位置付けの最新の研究成果を、「ウィリアム・ケント リッジ展」では世界のメディアアートをリードするケントリッジの作品研 究を公開・展示する。
目標入館者数計:48万1千人
ア 所蔵作品展 目標入館者数計:19万4千人 コレクション展「近代の美術・工芸・写真」(311日間)7回展示替え 企画展と関連した小企画及びコレクション展単独での特集企画5
企画展と関連した小企画及びコレクション展単独での特集企画5 回程度
イ 企画展 目標入館者数計:28万7千人
(ア) 「ラグジュアリー:ファッションの欲望」 目標入館者数:4万人
(イ)「京都新聞創刊 130 年記念 京都学「前衛都市・モダニズムの 京都」」
目標入館者数:2万5千人
(ウ)「無声時代ソビエト映画ポスター展」 目標入館者数:1万3千人
(エ)「生誕120年野島康三展」目標入館者数:1万2千人
(オ)「ウィリアム・ケントリッジ展」
目標入館者数:1万4千人 (カ)「ポルゲーゼ美術館展」
目標入館者数:17万人 (キ)「コレクション展」
目標入館者数:9千人
(美術館施設改修工事の都合で変更の可能性有り) (ク)「モホリ・ナジ展」
目標入館者数:1万8千人(うち平成21年度4千人、美術館施設
改修工事の都合で変更の可能性有り) (国立西洋美術館)
平成21年度は国立西洋美術館の開館50周年を迎えることもあり、所蔵作品展では、本館の設計者ル・コルビュジエに関する「ル・
コルビュジエと国立西洋美術館」を開催する。この展示にあわせて
「Fun with Collection'09」を開催し、コルピュジエの建築理念や美 術館建築が分かりやすいプログラムを実施する。
企画展では、まとめて展示することのできなかった同館所蔵の名 作販画を「販売販画展(仮称)、で展示するとともに、販画名作のカ
作版画を「所蔵版画展(仮称)、「展示するとともに、版画名作のカ タログを制作する。また「古代ローマ帝国の遺産 - 栄光の都ローマ と悲劇の街ボンベイ・」では、古代美術と発掘を展示、これにあわ
こ こ
せて「ローマ、未来の原風景(仮称)」と題した写真展を新館で同時 開催する。「フランク・ブラングィン」展では、同館のコレクションの基 礎となる松方幸次郎の作品収集のアドヴァイザーを務めた画家の
画業を日本で初めて本格的に紹介する。これは50周年の最後を
飾る企画である。 目標入館者数計:75万5千人
ア 所蔵作品展 目標入館者数計:25 万人(288 日間)
イ 企画展 目標入館者数計:50万5千人
(ア)「ルーヴル美術館展 17世紀ヨーロッパ絵画」

(ア)「ルーヴル美術館展 17世紀3-ロッパ絵画」

			1 Adv 1 - 107		
館名	展覧会名	開催日数	入館者数	目標数	企画趣旨
国立西洋美	ルーヴル美術館展 - 17 世紀ヨーロッパ絵画 -	66	634,498	360,000	イ、ロ
術館	かたちは,うつる - 国立西洋美術館所蔵版画	37	23,653	25,000	
	展				
	古代ローマ帝国の遺産 - 栄光の都ローマと悲	75	195,477	100,000	イ
	劇の街ポンペイ -				
	フランク・ブラングィン展	32	29,892	20,000	イ、ロ
	計	210	883,520	505,000	
国立国際美	杉本博司 歴史の歴史	49	22,065	17,000	
術館	やなぎみわ 婆々娘々!	83	293,688	151,000	八
	慶應義塾創立 150 年記念 関連企画展	83	293,688	151,000	=
	慶應義塾をめぐる芸術家たち				
	ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち	81	280,528	150,000	1
	長澤英俊展 - オーロラの向かう所 -	56	11,340	10,000	1
	国立国際美術館新築移転 5 周年記念	64	57,196	19,000	
	絵画の庭 - ゼロ年代日本の地平から				
	計	416	958,505	498,000	
国立	アーティスト・ファイル 2009 現代の作家たち	32	18,933	15,000	ホ
新美術館	ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち	54	201,251	180,000	イ
	野村仁 変化する相 時・場・身体	54	14,037	20,000	八
	生誕 150 年 ルネ・ラリック 華やぎのジュエ	66	120,990	100,000	1
	リーから煌きのガラスへ				
	光 松本陽子/野口里佳	54	20,188	20,000	
	THE ハプスプルク 華麗なる王家と美の巨匠たち	70	390,219	250,000	1
	DOMANI・明日展 2009 未来を担う美術家	26	14,037	13,000	ホ
	たち		,	,	
	ルノワール - 伝統と革新	61	295,770	200,000	1
	平成 21 年度[第 13 回]文化庁メディア芸術祭	11	58,242	30,000	八
	アーティスト・ファイル 2010 - 現代の作家たち	25	16,100	12,000	ホ
	計	453	1,149,767	840,000	
合 計		1,778	3,582,458	2,519,000	

備考: 【 1~3】京都国立近代美術館の当初予定していた「コレクション展」及び「モホリ・ナジ展」は、美術館施設改修工事の期間とxめ、工事終了後「コレクション展」を「マイ・フェイバリット・とある美術の検索目録/所蔵作品から」展として変更し開催した

5 館合同企画展

国立美術館全体の所蔵作品を最大限に活かした 5 館合同の展覧会については , 視覚芸術の起源と深く関わるにも関わらず , 総合的に顧みられることが従来ほとんどなかった『影』をテーマに各館の所蔵作品によって展覧会を構成することとし , 作品の選定など平成 22 年度における開催のための事前の準備を行った。

展覧会名:「陰影礼讃 - 国立美術館コレクションによる」

会 期:平成22年9月8日(水)~10月18日(月)(36日間)

会 場:国立新美術館 出点数:約160点

巡回展

企画館	展覧会名	開催館	開催日数	入館者数
京都国立近代	国立美術館巡回展「明治・大正・昭和100年の名画	香川県立ミュージアム	27	1 ,082
美術館	国立美術館名作選」	徳島県立近代美術館	38	6,115
東京国立近代	飛騨高山美術館開館13周年記念特別展 東京国立近	飛騨高山美術館	50	4,240
美術館(工芸	代美術館工芸館名品展			
館)	東京国立近代美術館所蔵 工芸名品展	和光本館6階和光まール	12	4,382
計			127	26,819

企画館	タイトル	会 場 数	開催日数	入館者数
	平成21年度優秀映画鑑賞推進事業	188会場	347(延べ日数)	94,052
	日本アニメーション映画史	1会場	12	320
センター)	「生誕百年 映画監督 マキノ雅弘」巡回事業	7会場	57	8,369
				(全7会場の総入館者数)
	川喜多かしこ生誕100年記念 日本映画海外巡回特集上映	1会場	7	638

目標入館者数:42人(うち平成21年度36人)
(イ)「所蔵版画展(仮称)」 目標入館者数:2万5千人
(ウ)「古代ローマ帝国の遺産 - 栄光の都ローマと悲劇の街ボンペ イ - 」 目標入館者数: 10万人
(エ)「フランク・プラングィン展」
目標入館者数:7万人(うち平成21年度2万人) (国立国際美術館)
所蔵作品展では、現代美術の動向を発信するため、特に新収蔵 作品を有効的に活用した展示を行う。
企画展では、国際的に知られる写真家、杉本博司が収集した古美
術作品等と自身の写真の組み合わせによる異色の展覧会を開催するとともに、ルーヴル美術館展では、古代から19世紀前半までの幅
広いジャンルから子どもを主題にした表現を集約して紹介する。ま た、若手の美術作家やなぎみわの近作個展及びイタリア在住の彫刻
家長澤英俊の個展を開催するほか、現代日本絵画のこの10年余り
をとらえる大規模な絵画展を開催し、幅広い客層の関心に応じる。 目標入館者数計:50万8千人
ア 所蔵作品展 目標入館者数計:1万人 「コレクション」(56日間)展示替え無し
イ 企画展 目標入館者数計:49万8千人
(ア)「杉本博司 歴史の歴史」 目標入館者数:1万7千人
(イ)「ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち」 目標入館者数:15万人
(ウ)「やなぎみわ 婆々娘々!」
目標入館者数:15万1千人 (エ)「慶應義塾創立150周年記念 関連企画展 慶應義塾をめぐ
る芸術家たち」
目標入館者数:15万1千人 (オ)「長澤英俊展 - オーロラの向かう所 - 」
目標入館者数:1万人 (カ)「国立国際美術館新築移転5周年記念 現代日本の絵画」
目標入館者数:2万人(うち平成21年度1万9千人)
(国立新美術館) 自主企画展では、1960年代より独特の世界観·宇宙観に基づき、
写真・立体・インスタレーション等さまざまな分野にまたがって活躍を 続ける日本人作家・野村仁を取り上げた個展、光をテーマに絵画・写
真という二つの異なった分野で活躍している二人の女性作家、松本
陽子と野口里佳を取り上げた二人展、日本と世界の新しい現代美術 の現況について若手作家の先鋭な活動を毎年定期的にグルーブ展
で紹介する「アーティスト・ファイル」(2009、2010)を開催し、日本を中心とする現代の多様な美術動向を紹介する。
共催展では、広く近現代美術及び西洋美術を対象とし、新たな視
点による展覧会を実現する。 本年度は、現代工芸・デザインのパイオニア、ルネ・ラリックや印象
派の巨匠ル/ワールの技法と芸術に迫る回顧展を開催する。さらに、 ルーヴル美術館の所蔵品から子どもをテーマに古代から19世紀ま
での多様な芸術作品を一堂に集めた展覧会、ウィーン美術史美術 館とブダベスト美術館のコレクションを通じてハブスブルク家収集のヨ
「館とフタベスト美術館のコレクションを通じてハフスフルク家収集のヨ ーロッパ絵画、彫刻、工芸を紹介する展覧会を開催するなど、特に
海外の多様な美術作品を紹介する。 目標入館者数計:84万人
(ア)「アーティスト・ファイル2009 現代の作家たち」
目標入館者数:2万7千人(うち平成21年度1万5千人) (イ)「ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち」
目標入館者数:20万人(うち平成21年度18万人) (ウ)「野村仁 変化する相 時・場・身体」
目標入館者数:2万人
(エ)「生誕150年 ルネ・ラリック 華やぎのジュエリーから煌きのガラ スへ」 目標入館者数:10万人
(オ)「光 松本陽子/野口里佳」 目標入館者数:2万人
(カ)「THE ハプスブルク」
目標入館者数:25万人 (キ)「DOMANI・明日展 2009」
目標入館者数: 1万3千人 (ク) 「ルノワール展」(仮称)
期間:平成22年1月20日(水)~4月5日(月)
(66日間(うち平成21年度61日間)) 共催: 読売新聞社
目標入館者数:22万人(うち平成21年度20万人)
(ケ)「平成21年度(第13回)文化庁メディア芸術祭」 目標入館者数:3万人
(コ)「アーティスト・ファイル2010 現代の作家たち」 目標入館者数:2万7千人(うち平成21年度1万2千人)
国立美術館 目標入館者数計:336万1千人 所蔵作品展(展示):72万5百人
企画展(企画上映):264万5百人
-2 国立美術館における企画機能の強化については、これまで の検討を踏まえ、 各館相互における交換展・共同企画展の充実
や、 所蔵作品の相互貸出の推進に努めるとともに、 平成23年度
以降における新たな5館共同企画展の開催に向けた準備等を実施 することとする。また、さらなる企画機能強化のため、各館研究員の
協働や人材の活用等について検討する。 -3 国立美術館全体の所蔵作品を最大限に生かした5館共同の原
覧会については、時期を平成22年9月とすること、テーマを「影」とする
ことを決定したが、本年度は、開催に向けた具体的な作品選定や展示

		「MANGA IMPACT」展「日本の初期アニメーション映画」部門	2会場	4	1,020
L		「生誕百年 映画監督 山中貞雄」巡回事業	6会場	23	683
ſ	計		205会場	450	105,082

東京国立近代美術館フィルムセンター映画上映等

【上映会】

11 1 2 1						
タイトル	会場	上映回数	日数	入館者数	目標数	企画趣旨
映画の中の日本文学Part2	大ま-ル	30	15	3720	3500	
発掘された映画たち2009	大ま-ル	24	12	2,857	3,500	□⋅=
日本映画史横断 怪獣・SF映画特集Part2	大ま-ル	42	21	4,275	6,000	=
EUフィルムデーズ2009	大ま-ル	40	20	7,835	5,000	亦
特集・逝ける映画人を偲んで2007-2008【 4】	大ま-ル	97	49	14,364	18,000	Ξ
第31回ぴあフィルムフェスティバル【 5】	大ま-ル	47	17	7,607	5,000	□⋅=
生誕百年 映画監督 山中貞雄【 6】	大ま-ル	28	12	4,175	3,500	
生誕百年 映画女優 田中絹代	大ま-ル	207	71	27,907	26,500	
映画監督 大島渚【 7】	大ま-ル	66	22	9,495	11,000	
映画監督 吉田喜重【 8】			_		11,000	
アンコール特集: 1995-2004年度の上映作品より	大 ホ ー ル	36	12	6,466		朩
[9]						
映画監督 篠田正浩	大ま-ル	75	25	11,438	12,000	
日本・ブルガリア外交関係再開50周年記念 ブ	小ホール	18	9	1,619	1,500	1
ルガリア映画特集						
日本インディペンデント映画史シリーズ	小ホール	44	22	810	2500	$\square \cdot \bot$
ぴあフィルムフェスティバルの軌跡vol.2						
ドキュメンタリー作家 土本典昭	小ホール	36	18	2,190	3,500	_
映画の教室2009	小ホール	18	9	1,949	2,000	ホ
アンコール特集:2008年度上映作品より	小ホール	18	9	1,744	2,500	ホ
川多かしこ生誕100年記念事業 川喜多賞受賞監	小ホール	32	16	3,517	3,000	ィ・ニ
督作品選集						
NFC所蔵外国映画選集 アメリカ映画史研究	小ホール	18	9	1,709	1,500	イ・ニ
計		876	368	113,677	121,500	

- 備考:【 4】「第31回ぴあフィルムフェスティバル」【 5】の会期延長に伴い会期を53日から49日とした。
 - 【 5】海外招待作品プログラム等を充実させたため会期を4日間延長し,13日から17日とした。
 - 【 6】新たに判明した現存作品を加えて上映プログラムを充実させて上映回数を 24 回から 28 回とした。
 - 【 7】大ホール座席張替工事期間を確保するため会期を24日から22日とした。
 - 【 8~9】大ホール座席張替工事期間を確保するため会期を6日間減らす必要があったため,「映画監督 吉田喜重」を次年度に延期し,代替企画として「アンコール特集:1995-2004年度の上映作品より」を開催した。

計画の策定に入る。	T T	【展覧会】									
地方における鑑賞機会の充実を図るため、全国の公私立美術館		版 見 云	展覧:	Δ <i>4</i> 7		日数	入館者数	目標数	企画趣旨		
等と連携して、「国立美術館巡回展」等を実施するとともに、全国の公 立文化施設等を会場にして優秀映画鑑賞推進事業を実施する。		咖点次料		<u>5 日</u> D日本文学 Part2 (□ \$X 66	2,752				
ア国立美術館巡回展				D日本文子 Part2 (()升政	00	2,752	2,500	п, —		
「近代日本画・洋画の名作(仮称)」(担当館:京都国立近代美術館			映画遺産」)						_		
国立美術館が所蔵する近代日本画・洋画作品から、京都ゆかりの日本 画、洋画の代表作をあわせて展示し、我が国近代の美意識を探る。あ				本典昭 (併設:「原	展覧会	54	2,636	1,500			
わせて広く一般を対象とする「講演会・シンボジウム」を実施する。		映画遺産」									
(ア) 期間:平成21年9月12日(土)~10月12日(月・祝)				絹代 (併設:「展覧	覧会	87	5,050	4,000	□′ =		
会場: 香川県立ミュージアム (イ)期間: 平成21年10月24日(土)~12月6日(日)		映画遺産」)								
会場:徳島県立近代美術館		戦後フラ	ンス映画ポスター	の世界 東京国立近代	代美術	69	5,080	3,500	□. <u></u>		
イ 各館の巡回展		館フィルム	センター所蔵《新	外映コレクション》。	より(·				
巡回展「東京国立近代美術館工芸館所蔵名品展」			覧会 映画遺産」								
東京国立近代美術館工芸館の所蔵作品の中から近代工芸の名品 を展示し、昭和初期から現代に至る変遷や今日の動向を紹介する。		DIRX : 700	計	•		276	15,518	11,500			
期間:平成21年7月~8月(予定)			n I			210	13,310	11,300			
会場:飛騨高山美術館(岐阜県)											
ウ 優秀映画鑑賞推進事業											
国民の映画文化や映画芸術への関心を高め、映画フィルム保存(重要性についての理解を促進するため、文化庁との共催事業として、											
教育委員会、公共文化施設等と連携・協力して、全国各地で映画の											
巡回上映を実施する。	1										
プログラム:88作品22プログラム(1プログラム4作品) 日本映画史を彩る名匠たちの代表作やスターが活躍するヒット作。	1										
日本映画史を彩る名匠だちの代表でやスターが活躍することでで、 時代劇、青春映画など、それぞれのジャンルを代表する名作、時代で											
画した話題作などで構成する。同時に、地域の特色を持った構成を	1										
工夫する。	1										
期間: 平成21年7月13日(月)~平成22年3月14日(日) 会場:全国150会場以上	1										
工 巡回上映											
(ア)「川喜多かしこ生誕100年記念」日本映画海外巡回特集上映											
期間: 平成21年5月(予定)											
会場:香港電影資料館(中国) 共催:財団法人川喜多記念映画文化財団、											
独立行政法人国際交流基金											
(イ)「生誕百年 映画監督 マキノ雅弘」巡回事業											
期間:平成21年4月~平成22年3月(予定)											
会場:全国5会場											
共催: コミュニティシネマ支援センター (ウ) 「アニメの源へ 日本のアニメーション映画(1924~1952)」											
(ワ) アーメの源へ 日本のアーメーション映画(1924~1952)」 日本のアニメーション映画特集を、ロカルノ(スイス)等で上映す											
る。											
国立美術館は、展覧会ごとに実施目的、想定する入館者層、実											
施内容、学術的意義、良好な観覧環境の確保、広報活動、過去の人											
館者等の状況等を踏まえて入館者数の目標を設定し、その達成に努める。											
<i>9</i> , 5,											
	Į I										
		1 S:特に優れた§	実績を上げている。	(客観的基準は事前に	こ設けず、法	去人の業剤	らの特性に応じて	・評定を付す。)			
									『善の勧告が必要と 》	断	
		2 F:評価委員会	として業務運営の改	(客観的基準は事前に (落観の基準は事前に					悪の勧告が必要と判	断	
		2 F:評価委員会 された場合に限りFの	として業務運営の改	z善その他の勧告を行う	う必要があ	5る。(客観	的基準は事前に	設けず、業務は	書の勧告が必要と判	断	
	東京国立近代美術	2 F:評価委員会	として業務運営の改	図書その他の勧告を行う 3回未満	う必要があ 実績	5る。(客観		設けず、業務は	番の勧告が必要とタ	l断 A	
		2 F:評価委員会 された場合に限りFの	として業務運営の改	z善その他の勧告を行う	う必要があ 実績	5る。(客観	的基準は事前に	設けず、業務は	善の勧告が必要と判	l断 A	
	東京国立近代美術館 (本館)	2 F:評価委員会 された場合に限りFの 3回以上	として業務運営の改	双善その他の勧告を行う 3回未満 2	う必要があ	5る。(客観	的基準は事前に 前年度実績:6回	こ設けず、業務記)	善の勧告が必要と判	l断 A	
	東京国立近代美術	2 F:評価委員会 された場合に限りFの	として業務運営の改	図書その他の勧告を行う 3回未満	う必要があ	5る。(客観	的基準は事前に	こ設けず、業務記)	善の勧告が必要と判	J断 A	
	東京国立近代美術館 (本館)	2 F:評価委員会 された場合に限りFの 3回以上	として業務運営の改	双善その他の勧告を行う 3回未満 2	う必要があ	5る。(客観	的基準は事前に 前年度実績:6回	こ設けず、業務記)	善の勧告が必要と半	断 A A	
	東京国立近代美術館 (本館)	2 F:評価委員会 された場合に限りFの 3回以上	として業務運営の改	双善その他の勧告を行う 3回未満 2	う必要があ 実績	5る。(客観	的基準は事前に 前年度実績:6回	こ設けず、業務記)	善の勧告が必要と判	勝「 A A	
	東京国立近代美術館 (本館)	2 F:評価委員会 された場合に限りFの 3回以上 1 2回以上	として業務運営の改評定を付す。)	双善その他の勧告を行う 3回未満 2 2回未満	う必要があまり	550。(客額 15:00(育 15:30(育 15:180	的基準は事前に 前年度実績:6回 前年度実績:3回	こ設けず、業務記)	善の勧告が必要と判	Ā-	
	東京国立近代美術 館 (本館) (工芸館) (フィルムセンター)	2 F:評価委員会 された場合に限りFの 1 3 回以上 1 2 回以上 5番組以上	として業務運営の改評定を付す。)	2 選手での他の勧告を行う 3 回未満 2 2 回未満 4 番組未満	う必要があまり、「実験を持ちます」を表現しています。	50。(客額 : 6回(f : 3 回(f : 18 回 年度実績:	的基準は事前に 前年度実績:6回 前年度実績:3回	こ設けず、業務記)	善の勧告が必要と半	Ā	
	東京国立近代美術館 (本館)	2 F:評価委員会 された場合に限りFの 3回以上 1 2回以上	として業務運営の改評定を付す。)	双善その他の勧告を行う 3回未満 2 2回未満	う必要が 績 実 実 実 実 前 績 様 様 様 様 様 様 様 様 様 様 様 様 様 様 様 様 様 様	500。(客観 1:00(f 1:18 回 年度実績 1:7 回	的基準は事前は 前年度実績: 6回 前年度実績: 3回 16回)	こ設けず、業務記)	善の勧告が必要と判	Ā-	
	東京国立近代美術館 (本館) (丁芸館) (フィルムセンター) 京都国立近代美館	2 F:評価委員会 された場合に限りFの 3 回以上 1 2 回以上 	として業務運営の改評定を付す。)	2回未満 2回未満 4番組未満 5回未満	う必要が 実 実 演 (実 前) 績 (実 前) 績 (実 前) 績 (実 前) 績 (実 前) 続 に 対 が に が に が に が に が に が に が に が に が に	500。(客観 1:00(f 1:18 回(f 年度実績: 年度実績: 年度実績:	的基準は事前は 前年度実績: 6回 前年度実績: 3回 16回)	こ設けず、業務記)	善の勧告が必要と判	Ā	
	東京国立近代美術 館 (本館) (工芸館) (フィルムセンター)	2 F:評価委員会 された場合に限りFの 1 3 回以上 1 2 回以上 5番組以上	として業務運営の改評定を付す。)	2 選手での他の勧告を行う 3 回未満 2 2 回未満 4 番組未満	う必要が、実に実前に続いた。 実に実前に続いた に 実に 実に 実に 実に 実に 実に 実に 実に に 実に に 実に に	55。(客観: 6回(file:18 回(file:18 回(file:18 回)	的基準は事前に 前年度実績: 6回 前年度実績: 3回 16回) 9回))	こ設けず、業務記)	善の勧告が必要と判	Ā	
	東京国立近代美術館 (本館) (丁芸館) (フィルムセンター) 京都国立近代美館	2 F:評価委員会 された場合に限りFの 3 回以上 1 2 回以上 	として業務運営の改評定を付す。)	2回未満 2回未満 4番組未満 5回未満	う必要が、実に実前に続いた。 実に実前に続いた に 実に 実に 実に 実に 実に 実に 実に 実に に 実に に 実に に	500。(客観 1:00(f 1:18 回(f 年度実績: 年度実績: 年度実績:	的基準は事前に 前年度実績: 6回 前年度実績: 3回 16回) 9回))	こ設けず、業務記)	善の勧告が必要と判	Ā	
	東京国立近代美術館 (本館) (工芸館) (フィルムセンター) 京都国立近代美館 国立西洋美術館	2 F:評価委員会 された場合に限りFの 3 回以上 1 2 回以上 	として業務運営の改評定を付す。)	2回未満 2回未満 4番組未満 5回未満 3回未満	う必要が実実実験に実前に	5 6 6 回 (的基準は事前に 可年度実績: 6回 可年度実績: 3回 16回) 9回))	設けず、業務d	善の勧告が必要と判	A	
	東京国立近代美術館 (本館) (丁芸館) (フィルムセンター) 京都国立近代美館	2 F:評価委員会 された場合に限りFの 3 回以上 1 2 回以上 	として業務運営の改評定を付す。)	2回未満 2回未満 4番組未満 5回未満	う必要が 実 実 実 (前 (前 (前 (前 (前 (前 (前 (前 (前 (前	5 a。(客翻	的基準は事前に 前年度実績: 3 回 16回) 9回)) 4回)	設けず、業務d		A A A A A A A A A A	
	東京国立近代美術館 (本館) (工芸館) (フィルムセンター) 京都国立近代美館 国立西洋美術館	2 F:評価委員会 された場合に限りFの 3 回以上 1 2 回以上 	として業務運営の改評定を付す。)	2回未満 2回未満 4番組未満 5回未満 3回未満	う必要 実 実 実 領 領 領 実 領 実 領 実 実 に 実 に 実 に に ま に に に に に に に に に に に に に	を	的基準は事前に 前年度実績: 3 回 16回) 9回)) 4回)	設けず、業務d		A	
	東京国立近代美術館 (本館) (工芸館) (フィルムセンター) 京都国立近代美館 国立西洋美術館	2 F:評価委員会 された場合に限りFの 3 回以上 1 2 回以上 	として業務運営の改評定を付す。)	2回未満 2回未満 4番組未満 5回未満 3回未満	う必要 実 実 実 領 領 領 実 領 実 領 実 実 に 実 に 実 に に ま に に に に に に に に に に に に に	5 a。(客翻	的基準は事前に 前年度実績: 3 回 16回) 9回)) 4回)	設けず、業務d		A	

(2) 羊紡創造活動の活性化の推進

国立新美術館は、全国的な活動を行っている美術団体等に展覧会会場の提供を行うとともに、新しい美術の動向を紹介すること などを通じて、美術に関する新たな創造活動の展開やアーティストの育成等を支援し、我が国の美術創造活動の活性化を推進する

また、メディアアート、アニメ、建築など世界から注目される新いい芸術表現の国内外に向けた拠点的な役割を果たすことを目指し その取組みを積極的に進めること。

2)美術創造活動の活性化の推進

国立新美術館は、全国的な活動を 行っている美術団体等に展覧会会場 の提供を行うとともに、新しい美術 の動向を紹介することなどを通じて 、美術に関する新たな創造活動の展 開やアーティストの育成等を支援し 我が国の美術創造活動の活性化に 資する。

また、メディアアート、アニメ 建築など世界から注目される新しい 芸術表現の国内外に向けた拠点的な 役割を果たすことを目指し、その取 組みを積極的に進める。

(2)美術創造活動の活性化の推進

- 国立新美術館は、美術団体等が行う展覧会(公募展)に 対して、会場を提供する業務を行う。
- ア 平成21年度及び平成22年度に施設を使用する美術 団体
- (ア)平成21年度に施設を使用する美術団体等に会場を提 供する.
- (イ)美術団体等が作品搬入や審査等を行う作品整理室及 び審査室等について、効率的使用が可能となるよう利用 餌敷を図る
- (ウ)使用についての手引き(資料や備品一覧)の検証を行 い、効率的かつ円滑な実施を図る。
- (工)施設及び備品等の維持管理及び保全に関する体制の 充宝を図る
- (オ)美術団体等が行う展覧会の入館者数等の報告管理に ついて、より連携を図る。
- (カ)美術団体等と連携して行う教育普及事業の充実を図
- イ 平成23年度以降の準備
- (ア)平成23年度に施設を使用する美術団体等を決定す
- (イ)平成24年度に施設を使用する美術団体等の募集の
- ウ 公募団体等関係者で構成する「バックヤード等公募展 関係等検討のためのワーキンググループ」を開催し、バック ヤード等の使用や展覧会開催に当たっての改善点等意見 の収集を引き続き実施する。

メディアアートなど、国際的にも注目される新しい芸術表 現を取り上げる展覧会等について、以下のとおり実施する。

- ア 東京国立近代美術館では、1960年代から今日に至る ヴィデオアートの流れを新たな切り口からとりあげる「ヴィ デオを待ちながら 映像、60年代から今日へ」展を開催 するとともに 映像作品の収蔵を図る
- イ フィルムセンターでは、「アニメの源へ 日本のアニメー ション映画(1924~1952)」(10番組、53作品)を、ロカル ノ(スイス)等で 上映する
- ウ 京都国立近代美術館及び東京国立近代美術館では、 国際的に活躍する南アフリカの映像作家ウィリアム・ケン トリッジのアニメーションを主体とするヴィデオインスタレ ーションによる大規模な個展「ウィリアム・ケントリッジ展」 を開催する。
- エ 国立西洋美術館は、開館50周年を記念して、ル・コル ビュジエ設計による本館を顕彰する所蔵作品展「ル・コル ビュジエと国立西洋美術館」を開催する(2009年6月4 日~8月30日)。社団法人日本建築学会とともに国立 西洋美術館本館の保存活用計画策定に関する調査を 引き続き宇施する
- オ 国立国際美術館は、展示場にてライヴ・パフォーマンス 「小杉武久 二つのコンサート」を実施する。
- カ 国立新美術館は、「アーティスト・ファイル」(2009、201 0)及び「野村仁展」においてヴィデオアート等の作品を 紹介するとともに、「文化庁メディア芸術祭」においてメデ ィアアートなどを紹介する。
- また、館内モニターを活用し、メディアアートの上映を推 進する。

国立新美術館の

取組

【定性的に評価】

(2)美術創造活動の活性化の推進

公募団体等への展覧会会場の提供(国立新美術館)

公墓展団体数:69 団体

年間利用室数:延べ3,500室/年

稼働率:100% 入館者数: 1,246,840人

- 1 公募団体等から寄せられた意見・要望も参考としつつ,公募展の効率的な開催準備と円滑な運営を図るため,以下のよう な取組みを行った。
- ・作品搬入出時の車両の入退館時間の指定や駐車場の割振りを団体ごとに実施。
- ・作品用エレベータの使用時間割振りや使用備品の事前配置等の徹底。
- 審査,展示等に必要な備品の充実。
- ・展示作品の素材や陳列方法等について、施設の管理運営上問題の生じる可能性のある公募団体等との事前協議の徹底。
- ・公募展運営サポートセンターにおいて,使用公募団体等に関する電話(国立新美術館公募展案内ダイヤル)への問い合わ せ対応の実施。
- ・公募展のポスター掲示や公募展開催案内チラシの作成及び配布による広報の実施。
- ・館ホームページの公募展紹介ページに、文字情報に加えポスター等の画像情報を掲載することにより広報を充実。
- ・平成21年度から国立新美術館ニュースへ公募団体からの寄稿を掲載することにより,広報の支援を実施。
- ・公募展と企画展の観覧料の相互割引について、実施団体の情報を館内で周知。
- 2 公募団体等が行う教育普及活動

館を使用する公募団体等での教育普及活動が活発化しており、講堂や研修室の利用が増加している。

- 3 平成24年度展示室(公募展用)使用団体の募集について
 - 平成19年度に展示室(公募展用)の使用決定を行った団体に対して認めた優先使用が平成23年度で終了することか
- ら,平成24年度の展示室(公募展用)の使用決定のため,以下の取組みを行った。
- ・展示室使用 69 団体に対し、今後の展示室の使用希望等についてヒアリングを実施。
- ・展示室の使用の方針案の館内での検討。
- ・展示室の使用の方針について館評議員会への諮問・答申を得て決定。
- ・展示室使用募集要項の作成,ホームページでの公開,関係団体への周知。
- ・展示室使用団体決定のための抽選会の実施準備

新しい芸術表現への取組

【東京国立近代美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
ヴィデオを待ちながら - 映像、60	59	ヴィデオアート	12,240	21,000	-
年代から今日へ					
ウィリアム・ケントリッジ ―歩きな	38	ヴィデオアー	12,718	14,000	京都国立近代美術館
がら歴史を考える そしてドローイ		ト,アニメーシ			
ングは動き始めた		ョン , 現代音楽			
計	97		24,958	35,000	

- ・平成 21 年度科学研究費補助金(基盤研究(B))「1960~70 年代のビデオアート:作品の所在調査とデータ・ベース構築」 を得て,調査と資料収集を実施した。
- ・「ヴィデオを待ちながら―映像,60年代から今日へ」展の研究・調査の成果に基づき、ヴィデオアート作品 20 本を購入した。

【東京国立近代美術館フィルムセンター】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
日本アニメーション映画史	全 12	アニメーション	320	-	ミュンヘン市博物館・映画博物館
「MANGA IMPACT」展「日本の初期	4	アニメーション	1,020	-	ロカルノ国際映画祭
アニメーション映画」部門					トリノ国立映画博物館
計			1,340	-	

公募団体からの要望に可能な限り応え ようとする姿勢が定着し、公募展サポー トセンターの円滑な機能が引き続き確保 され、公募展からメディアアート展まで多 様な芸術展覧の場として着実な成果を あげている。定例となった「アーティスト ファイル」のほか、とくに野村仁、松本陽 子、野口里佳などの現存作家を取り上 げ、また一方、立地性を生かしたメディ アアートの新たな発信地となっているこ とは評価に値する。

【よりよい事業とするための意見 ·「新しい芸術表現の取り組み」は、さら に外国作家へと射程をのばすことも今 後の課題として望まれる。

・立地性と入館者動員力という強みを生 かし、ミュージアムショップ自体が、例え ば、独自に「商品展観」を行い、或いはフ アッションショーを実施するなど、「見せ る」とともに「売る」という新基軸に挑戦す る、そうした場をサポートするのも新美と しての役割であると考える

【京都国立近代美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
ウィリアム・ケントリッジ 一歩きな	40	ヴィデオアート,アニメーション,現	12,777	14,000	東京国立近
がら歴史を考える そしてドローイン		代音楽			代美術館
グは動き始めた					
計	40		12,777	14,000	

・「ウィリアム・ケントリッジ―歩きながら歴史を考える そしてドローイングは動き始めた......」展に併せ,京都会館第2ホールを使い,作家自身のライブ・レクチャー/パフォーマンスを実施した。

【国立西洋美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
ル・コルビュジエと国立西洋美術館	7	建築	44,006	-	-
計	77		44,006	-	

・本展に関連したプログラムとして、講演会(4回)、建築ツアー(4回)、ワークショップ(2種)を実施した。また、東京芸術大学演奏芸術センターと連携して、建築家としてル・コルピュジエの事務所で働き、後に作曲家となったクセナキスの作品やその時代の楽曲をとりあげたレクチャーコンサート(2回)を行った。さらに常設展を楽しむための「FUN DAY」や「ファミリープログラム」も、今年度は本展の会期にあわせて行い、本館や出品作品に関連するプログラムを企画実施した。

【国立国際美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
やなぎみわ 婆々娘々!	83	ヴィデオアート , 写真等	293,688	151,000	朝日新聞社
計	83				

・現代音楽、サウンドインスタレーションの分野で先駆的活動を行ってきた小杉武久による「二つのコンサート」を当館メディア担当の客員研究員の協力を得ながら実施した。

【国立新美術館】

[国立利夫的語]					
展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
アーティスト・ファイル 2009 - 現代の	32	ヴィデオアート,ヴィデオインスタレーショ	18,933	15,000	_
作家たち		ソ			
野村仁 変化する相 - 時・場・身体	54	ヴィデオアート,サウンドインスタレーション	14,037	20,000	_
光 松本陽子/野口里佳	54	ヴィデオアート	20,188	20,000	_
DOMANI・明日展 2009 - 未来を担う美	26	ヴィデオインスタレーショ	14,037	13,000	文化庁
術家たち		ン			読売新聞社
平成 21 年度 [第 13 回] 文化庁メディ	11	ヷ [゛] ィテ゛オアート、アニメーション、マンガ,ゲ	5 ,242	30,000	文化庁
ア芸術祭		− ム,インタラクティウ [*] アート			CG-ARTS 協会
アーティスト・ファイル 2010 - 現代の	25	ヴィデオインスタレーショ	16,100	12,000	_
作家たち		ン,アニメーション			
計	202		141,537	110,000	

・「アーティスト・ファイル2010 - 現代の作家たち」関連事業として,同展出品作家斎藤ちさと氏によるワークショップ「傘をつかってアニメーションを作るう」を開催した。

・アニメーション表現などの新しい視覚表現を紹介するための試みとして、(A) 「館内ディスプレイによる映像上映プログラム」、(B) 「インター・カレッジ・アニメーション・フェスティパル(ICAF)2009」への共催まな(C) 「70KYO ANIMA!—BOOT UP」への共催を行った。(A) では ICAF2009での出品作品の先行上映を行った。(B) のICAF2009では国内の大学などの学生によるアニメーション作品145点に加え,韓国とヨーロッパの映像作品を4日間にわたり講堂において上映したほか、アニメーション作家、アニメーション作家グループらによるシンポジウムなどを開催した。(C) の「70KYO ANIMA!—BOOT UP」は六本木アートナイト2010のイベントのひとつとして開催した。

(3)美術に関する情報の拠点としての機能の向上

国民の美術に関する理解促進に寄与するため、国立美術館に関する情報公開を進めるとともに、国内外の美術に関する情報を収集・提供し、美術に関する情報拠点としての機能を高めることとする。

ICT (情報通信技術)を活用した積極的な情報発信やホームページの充実を行い、ホームページのアクセス件数の目標を設定し その達成に努めること

国内外の美術に関する情報の収集、記録の作成・蓄積及びデジタル化を進めるとともに、レファレンス機能を充実させること

3)美術に関する情報の拠点 としての機能の向上

国立美術館について、所 蔵作品 展覧会活動 その他 の活動状況を積極的に広く社 会に紹介し、国立美術館につ いての理解を得るよう努める とともに、国内外の美術に関 する情報の収集・提供・利用 の促進に努める。

> TCT(情報诵信技術) を活用した展覧会情報や 調査研究成果などの公表 等の積極的な情報発信や ホームページの充実を図 り、ホームページのアク ヤス件数の年間の平均が 前山期日煙期間の任門 平均を上回る実績となる よう努める.

-1 美術中子の他の関連誌 学に関する基礎資料、国内 外の美術館や展覧会に関す る情報及び資料を収集し、 展覧会活動の推進に役立て るとともに、図書室等にお いて芸術文化の情報サービ スを広く提供するよう 努め、その利用者数が前中 期目標期間の年間平均を上 回るよう努める。

-2 所蔵作品データ、所 蔵資料データのデジタル化 を一層推進し、ネットワー クを通じてより良質で多様 なコンテンツの提供を進め るとともに、本5年間の中 期目標期間中のインターネ ット上での公開件数の実績 が 前中期日煙期間の宝績 を上回るよう努める。

(3)美術に関する情報の拠点としての機能向上

国立美術館は、所蔵作品、展覧会活動、その他の活動 状況をホームページ等を活用し積極的に広く社会に紹介 し、国立美術館についての理解を得るよう努める。

また、所蔵作品情報については、前年度に実施した国 内彫刻家の著作権者の調査等に基づき、許諾を得たもの について独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検 索システムに掲載し、収録画像の増加に努めるとともに、本 年度は国内版画家の著作権者の調査を実施する。

これらにあわせて、独立行政法人国立美術館所蔵作品 総合日録検索システム 東京国立近代美術館・国立新美 術館図書検索システム、国立新美術館アートコモンズなど の連携情報システム(国立美術館版「想 - IMAGINE」)の開 発を進め、本版として公開する。

国立美術館の情報資源と国立国会図書館デジタルアー カイプポータル(PORTA)及び国立情報学研究所による WebcatPlus、文化遺産オンライン等に掲載の文化情報資 源を 国立情報学研究所の「想-IMAGINE」において連携 するための調査研究を継続して実施する。

ア 国立西洋美術館においては、開館50周年を記念して 「国立西洋美術館50年史」を発行する。 また 西洋美術振興財団との連携による所蔵作品名

作選の英語版の発行及び民間出版社との連携による 「国立西洋美術館ガイドブック」、「国立西洋美術館展覧 会50年の記録。を発行する

なお、世界遺産登録に向け、引き続き地域住民との 連携を図るため台東区住民等を対象とした国立西洋美 術館本館見学会を実施する。

イ 国立新美術館では、インターネットによる展覧会情報シ ステム「アートコモンズ」の利便性向上とともに、引き続き 国内美術展カタログの海外への寄贈事業の充実に努め

法人本部のホームページについて内容の充実を図り 国立美術館の活動について周知広報を強化する。

また、各館の日本語版・英語版ホームページの内容の充 実に努め、展覧会情報や調査研究成果の公表等、積極的な 情報発信に努める

(東京国立近代美術館)

- ア 研究紀要14号(平成21年度刊行予定)の全文を、平 成22年3月を目途にホームページで公開する。
- イ 英語版ホームページの展覧会情報、イベント情報の拡 充に努める.

(京都国立近代美術館)

- ア 京都国立近代美術館は研究誌「CROSS SECTIONS」第 2号を刊行し、日頃の研究成果、館独自の活動を公表す
- イ 展覧会図録を寄贈している京都府立図書館、大阪府立 中央図書館、滋賀県立図書館、兵庫県立図書館、奈良 県立図書情報館では、前年度に引き続き各図書館のホ ームページに、寄贈した図録を蔵書リストとして掲載·更 新する.

(国立西洋美術館)

- ア 日本語版・英語版ホームページの展覧会情報、イベン ト情報など各種情報の充実に努める。
- イ 50周年記念サイトを通じて50周年記念に関する広報を 積極的に行う
- ウ 日本語版・英語版収蔵作品データベースの学術情報・ 展示情報の充実に努める。

(国立国際美術館)

- ア 所蔵作品、展覧会情報、講演会、教育普及事業等のイ ベント情報を掲載する。
- イ 情報コーナーのパソコンによる所蔵作品閲覧の充実を
- ウ 現状より見やすく、検索しやすいホームページ構成に ついてデザイン改訂も視野に入れた調査研究を実施し 美術館活動等の情報発信の強化に努める。

(国立新美術館

- ア ホームページのリニューアルを行い、より魅力ある情報 発信に努める。
- イ 引き続き、英語版ホームページに加え、多言語による情 報提供の充実を図るとともに、国立新美術館ニュースなど をホームページへ掲載し、研究成果を発信する。

定性的に評価

情報の発信

(3)美術に関する情報の拠点としての機能の向上

情報通信技術(ICT)を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等

ア ホームページアクセス件数

館名	アクセス件 数	目標数(第1期平均)
本部	13,233,953	74,434
東京国立近代美術館(本館・工芸館・フィルムセンター含む)	13,915,620	4,341,163
京都国立近代美術館	1,902,503	222,502
国立西洋美術館	9,456,467	720,126
国立国際美術館	3,503,807	366,054
国立新美術館	8,280,313	-
計	50,292,663	5,724,279

注 国立新美術館は、第2期中期計画の平成18年度から設置のため、目標数を設定していない。

イ 各館のICT活用の特徴

(ア)本部

法人ホームページにおいて、引き続き国立美術館5館の開催展覧会および各種催事等トピックスの一覧を掲出した。 また、国立美術館キャンパスメンバーズについてメンバー校の一覧を整備するなど広報に努めた。

独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに新収蔵作品の文字画像データを追加するとともに、作品画 像掲載を進めるため,許諾を得た彫刻作品531点について画像を新規登録した。また,版画についての著作権者情報 を整備するとともに,著作権許諾申請手続を開始した。

(イ)東京国立近代美術館

平成 19 年度より稼働のコンテンツ・マネジメント・システム(CMS)を用いて,ホームページ・コンテンツの追加更新を迅速化 し,平成21年度は特に企画展等の英文情報の充実化を進めた。

また、河口龍夫展ではTwitter上に展覧会ページを立ち上げるとともに、「ヴィデオを待ちながら」展においてはブロモーショ ン映像をYouTubeに掲載した。平成22年4月から開催予定の「建築はどこにあるの?」展においては、参加建築家それぞれが 制作の各段階での状況を書き込んでいく特設プログを開設した。

フィルムセンターでは、事業関連の情報を提供する「NFCメールマガジン」とウェブサイトの両者に新たに新着図書情報を掲載 することにし、日常の図書充実の成果をインターネット上で示せるようにした。NFCD(フィルムセンターデータベース)については , ウェブ化開始以来の懸案であった人物データのコンバートのテストを進めた。

また、映画関連資料へのアクセス希望に対しては、図版提供をすみやかに行うためデジタル・データの形で提供しているが これまでにデータ化された写真等の画像を共有ファイル内に集積し、今後円滑に活用できるように「画像集積所」の環境整備を 開始した。

(ウ)京都国立近代美術館

コレクションギャラリーの小企画、テーマ展示に関する小解説をホームページに毎回掲載し、情報発信の充実に努めた。

法人全体の国立美術館所蔵作品総合目録検索システムと並行して、独自に所蔵品データベースを構築し、通常の作品 検索手段を提供すると共に「所蔵作品展にどの作品が出ているか」が誰にでも分かるような作品情報の公開に努めた(「所 蔵作品展」ページの画像一覧)。この所蔵作品展情報を最新の状態に保つため、ウェブ版データベースの土台となる業務用 の収蔵作品管理システムにおいて、作品所在情報の適切な更新に努めた。加えて、科学研究費補助金を獲得し、個々の作品 に関する展覧会歴,掲載文献,英文解説等の詳細情報の遡及入力を行った。また国立美術館版「想-IMAGINE」との自動 連携について国立情報学研究所と検討を重ね、試験データの公開を実施した。

また,ホームページの50周年記念サイトで記念事業に関する広報を積極的に行う一方,ホームページ本体の日本語 版・英語版においても展覧会,講演会,プログラムなど各種情報の充実に努めた。英語版ページは海外でも好評で,欧州発 信の美術サイトでは世界の美術館ウェブサイト・ランキングの上位に選ばれた(Kunstpedia, Museum Website Ranking 2009)

(オ)国立国際美術館

展覧会等の情報を利用者に分かりやすく提供するため、展覧会の内容や館の周知、特に関連イベント情報、施設利用案 内情報の充実に努めた。

また,展覧会毎に英語版を作成し,海外への情報発信にも努めた。

(力)国立新美術館

展覧会情報収集提供事業(アートコモンズ)では,収集した展覧会情報と関連する美術情報(国立美術館の所蔵する 作品情報や図書情報)と結びつけるため、国立情報学研究所の協力の下、「国立美術館版 想-Imagine」の構築を国立 美術館本部と共に行った。

交通案内等の基本的な情報の充実により美術館への来館の利便を図り、また、国立新美術館の多彩な事業をわかりや すく利用者に伝えるため、ホームページのリニューアルを行い、平成21年4月から実運用を開始した。

携帯電話や携帯情報端末でホームページのほぼ全文を閲覧可能な「携帯電話向けページ」を開設した。さらに携帯電 話からの閲覧を促進するため、一部の印刷物に携帯版ホームページのアドレスを符号化した二次元バーコード(QR コー ド)の掲載を行った。

月1回のメールマガジンの発行を平成21年12月から開始し,約1,100名が受信登録を行った。

·HPのリニューアルなどによる充実には 目覚ましいものがあり、アクセス数は飛 躍的に増加している。作品データのデジ タル化も意欲的且つ継続的になされ、と 〈に「想 - imagine」「アートコモンズ」の 構築、国立情報学研究所との連携や国 際化の要求に応えた英語発信など、新 たな方策の研究が熱心に遂行されてい ると認められる。また、フィルムセンター の画像データのデジタル化も進捗してい

S

【よりよい事業とするための意見】 情報発信は現代社会で不可欠のサー ビスであり、社会的な需要もたえず増加 している。一方では、この領域でのシス テム設計、運用、セキュリティ、メンテナ ンスなどには、多額な費用を要するため 美術館として本来的な他の業務の制 約にならないよう予算のバランスに配慮 し、適正に実施されるためのチェック体 制も担保されなければならない。

情報の最大集約館という自覚のもと、 さらなる他館との情報交換が望まれる。 美術史その他関連諸学に関する資料、国内外の美術館 や展覧会に関する情報及び資料を収集し、各館の情報コ ーナー、アートライブラリー、資料閲覧室等において、情報 サービスの提供を実施する。

ア 東京国立近代美術館は、近現代美術関連資料を本館 アートライブラリ、近現代工芸開連資料を工芸館図画閲覧 医、映画関連の図書資料をイノルムセンター図書室にお いて収集し、公開する活動を継続的に進める。また、図書 検索システムと既に導入している外部書誌データベース 並びに電子ジャーナルアーカイブ等との連携機能強化の ため、リンクリゾルバの活用ついて検討する。

イ 国立西洋美術館は、近年導入した最新電子ツールの 紹介などを通じてレファレンス・ガイドの充実に取り組む。 また、レファレンス・ツールの利用者増に備えて閲覧室の サービス環境を充実させる。

ウ 国立国際美術館は、情報コーナーにおける国内外の 美術図書の充実に取り組むとともにパソコンによる所蔵作 品閲覧の充実を図る。

エ 国立新美術館は、貴重図書等の特別閲覧サービスの 充実及び普及に努める。

所蔵作品データのデジタル化及び公開を推進する、特に 国内彫刻家に焼き、国内版画家などの著作権許諾手続き を進め、独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索 システムの掲載画像の増加に努める。あわせて、同システム において、作家及び作品に明する解説文の閲覧が可能と なるようコンテンツの充実を図る。また、引き続きネットワーク 一元管理を実施した上で、各館の所蔵作品管理システム の統合について検討を進める

美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実

ア 図書資料等の収集

館名	収集件数	累計件数	利用者数	目標数
東京国立近代美術館(本館)	5,315	110,944	2,827	1,853
東京国立近代美術館(工芸館)	1,594	19,044	307	317
東京国立近代美術館(フィルムセンター)	903	29,832	3,206	3,085
京都国立近代美術館	1,132	18,412	-	_
国立西洋美術館	1,792	44,450	511	119
国立国際美術館	780	33,373	-	_
国立新美術館	13,979	97,296	38,591	_
計	25,495	353,351	45,442	5,374

- 注1 京都国立近代美術館は4階,国立西洋美術館は1階,国立国際美術館は地下1階に図録等が閲覧できる情報コーナーを設け,入館者が自由に閲覧できるようにしており、その場所については、利用者数の把握はしていない。
- 注2 国立新美術館は,第2期中期計画の平成18年度から設置のため,目標数を設定していない。

イ 特記事項

(ア)東京国立近代美術館

東京国立近代美術館ニュース⁷現代の眼₂576 号(平成 20 年 6-7 月)において,当館と国立国会図書館,国立情報学研究所との共同事業について,特集記事「連携する美術情報」で解説し,広報した。

フィルムセンターでは、平成 20 年度に引き続き、戦前期の重要な映画雑誌である「キネマ週報」の復刻(ゆまに書房刊行)に際し、139 号から 223 号まで 85 冊の原本提供を行った。(今回復刻される 259 冊のうち平成 21 年度内に第 4 回~第 5 回分を配本)

また,日常の図書収集活動について来館者に周知するため,図書室内に新着図書コーナーを新たに設置するとともに,インターネットの上でも新着図書情報の積極的な発信を開始した。

(イ)国立西洋美術館

平成 21 年度導入した最新の電子レファレンス・ツール(学術雑誌アーカイブJSTORや欧州競売カタログ総覧データベース等) について、全国美術館会議の研修会等で積極的に紹介した。併せて専門図書館協議会関東地区協議会やアート・ドキュメンテーション学会等において、国立西洋美術館研究資料センターの活動について紹介を行った。

また,平成20年度から整理・公開方法を検討してきた一過性資料(新聞記事切抜き,文献複写,チラシ,小冊子等)について,諸外国の主要美術館の図書室で採用されている方法にしたがい,作家毎に資料を整理する「アーティスト・ファイル」として公開を開始した。

(ウ)国立国際美術館

国内外の現代美術に関連する図書資料等を中心に収集を継続して行った。特に近年は企画展や所蔵作家関連文献に加え,国際展に関する文献などの積極的な収集に努めている。

(工)国立新美術館

日本の展覧会カタログを中心に網羅的,遡及的収集に努めた。国内約300,国外約60の美術館・博物館と展覧会カタログの相互寄贈関係を構築したほか,複数の個人から展覧会カタログの大口寄贈を受けた。

ウ 所蔵作品データ等のデジタル化

> 1/1 weg i.e. m > 1-4 00 > 2 1/1 / 1/1									
			画像ラ	データ			テキス	トデータ	
館	名	テ シ タル	テ'シ'タル	公開件数	目標公開	テッタル化	テッタル化	公開件数	目標公開
		化件数	化累計		件数	件数	累計		件数
東京国立	本館	285	10,168	4,071	1,394	170	10,449	9,826	9,144
近代美術	工芸館	280	3,263	125	23	104	3,707	2,906	2,561
館	フィルムセンター (映画関連資料)	-	-	-	-	9,488	109,457	-	-
京都国立证	丘代美術館	71	6,421	1,321	517	310	9,811	8,510	5,612
国立西洋	美術館	71	5,065	202	202	53	4,553	4,369	4,058
国立国際	美術館	152	6,119	1,538	2,356	96	7,006	6,055	5,101
	計	859	31,036	7,257	4,492	10,221	144,983	31,666	26,476

注「公開件数」は,所蔵作品総合目録における画像及びテキストデータの公開件数である。なお,国立西洋美術館は「国立西洋美術館所蔵作品データベース」で画像データ4,084点を公開している。フィルムセンターについては,映画フィルムを除いた映画の関連資料についての件数を掲載している。

エ インフォメーションデータセンター (IDC)の確立

国立美術館5館全体で採用している VPN (Virtual Private Network: 暗号化された通信網) を用いてグループウェア 及びテレビ会議システムを稼働させた。

平成 20 年度に情報資源の多面的・効果的提供システムとして国立情報学研究所と共同開発した国立美術館版「想-IMAGINE」の試行版を,データ等の更新を行い国立美術館の所蔵作品,図書,展覧会に関わる情報資源の連携検索システムの本版として公開した。

独立行政法人国立美術館の情報資産を安全に運用するために「国立美術館情報資産安全対策基本方針」「国立美術館 情報資産安全管理規則」を策定した

1	S:特に優れた実	ミ績を上げている 。(客観的基準は事	前に設	けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。)		
された	た場合に限りFの	評定を付す。)		E行う』 		,	
1	上	上5,724,279件 未満	未満	2	美頭: 50,292,005仟 前午及美頭: 47,200,300仟) (前中期平均: 5,724,279件)	A	
		5.372未満		L	〔前中期平均:5,374人〕	А	
					タル化の割合 94.9%]	/ i	
5	2 され 数 1	2 F: 評価委員会と された場合に限りFの 数 5,724,279件以 1 上 5,374人以上	2 F:評価委員会として業務運営の改された場合に限りFの評定を付す。)数 5,724,279件以 4,006,995件以上5,724,279件 未満 3,762人以上 5,372未満 目標となる前中期期間中の公開件数	2 F: 評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を された場合に限りFの評定を付す。) 数 5,724,279件以 4,006,995件以 4,006,995件 1 上 上5,724,279件 未満 5,374人以上 3,762人以上 3,762人未満	2 F:評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を行うがされた場合に限りFの評定を付す。) 数	数	2 F:評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を行う必要がある。(客観的基準は事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断された場合に限りFの評定を付す。) 数

(4)国民の美的感性の育成

美術作品や作家についての理解を深め、鑑賞者の美的感性の育成に資するよう、国立美術館における美術教育に関する調査研究の成果を踏まえ、ギャラリートーク、ワークショップ等に取り組むこととする。

学校や社会教育施設等との連携により、子どもから高齢者までを対象とした幅広い学習機会を提供すること、 ボランティアや支援団体を育成し、相互の協力により美術館における教育普及事業の充実を図ること、 フィルムセンターにおいては、映画フィルム等の所蔵作品の活用を図った教育普及構態の充実を図ること、

(4)国民の美的感性の育成 国立美術館における美術

ボランティアや支援団体 の育成と相互協力による 教育普及事業の充実を図 る。また、ボランティア の参加人数及び活動日数 の増加に積極的に取り組 む。

映画フィルム・資料の所 蔵作品を活用した教育普 及活動に重点的に取り組

(4)国民の美的感性の育成

引き続き、年齢や理解の程度に応じたきめ短かい多様な事業 を展開するととに、美術教育に携わる教員等に対する美術館を 活用した鑑賞教育に関する研修や学校で活用できる教材「アート カードの貸し出しなどの事業を行り美術の一層の普及を図る。ま た、学校や社会教育施設に対して、これら事業の広報に努める。 若年層の鑑賞機会の拡大を図るため、高校生以下及びり減 着年層の鑑賞機会の拡大を図るため、高校生以下及びり減

未満の観覧料無料化の普及広報に努める。 (東京国立近代美術館)

< 本館 >

所戴作品展、企画展ともに、幅広い層にあわせたレベルと内容 の教育普及プログラムを実施する、特に小・中学生、高校生への 鑑賞教育は、生涯にわたって美術と美術館に親しむための基礎 的な学びの機会として位置づけ、学校と連携しつつ実施し、調査 研究を進める。

ア 企画展に関する講演会やシンポジウム、ギャラリートークの実

- イ 所蔵作品展に関するアーティスト・トーク(5回)、キュレーター・トーク(15回)、解説ポランティアによる所蔵品ガイドやハイライト ツアー(300回程度)の実施
- ウ 企画展に関する教員のためのレクチャー付き内見会(1回)、 小・中学生のためのセルフガイドの会場配布と学校への送付 エ 小・中・高等学校や大学からの要請に応じた。児童・生徒学 生へのギャラリートーク、教員研修の実施、鑑賞教材の貸出(ア トカード)
- オ 夏季の「こども美術館」において、子どもの創作活動に関連付けた鑑賞プログラムの充実と、その実践例の教員への提示 カ 教員研究団体(東京都図画工作研究会・東京都中学美術研究会)との連携による研修の実施

<工芸館>

所蔵作品展、企画展ごとにギャラリートークや工芸館ガイドスタッフによる鑑賞プログラム「タッチ&トーク」を実施するほか、以下の教育プログラムを実施する。

- ア 各種教育機関からの要請に応じて、児童・生徒に対するギャラ リートークやタッチ&トークの実施
- イ 夏季の「こども工芸館」において、小・中学校教職員等を対象と した事前研究会の実施、指導案の配布と会期中の鑑賞教室
- ウ 児童・生徒を対象とした工芸作品の鑑賞補助教材の作成・配 布
- 工作家指導による児童・生徒を対象とした陶芸の技法体験を通した、鑑賞教育のモデルケースの開発
- オ 研究員のほか、外部研究者や作家によるギャラリートーク(14 回)及び講演会等(1回)の実施
- <フィルムセンター>
- ア 上映会・展覧会におけるギャラリートーク等の実施
- イ 映画の多様性に触れる機会をつくることを目指し、研究員の解 説や弁士の公演なども交えた小・中学生を対象とした「こども 映画館」の実施「夏休み期間、4日間程度」
- ウ 学生層を対象にした「カルト・ブランシュ 期待の映画人・文化 人が選ぶ日本映画(仮)」の実施(エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社との共同主催、秋頃、6日間程度)
- エ 相模原市内の小・中学生を対象とした上映会の実施(相模原 市教育委員会との連携事業、2~3回程度)

(4)国民の美的感性の育成 教育普及活動の 幅広い学習機会 実施状況 館 ネ

【定性的に評価】

幅広い学習機会の提供(講演会,ギャラリートーク,アーティスト・トーク等)

館名	実施回数	参加者数	目標数
東京国立近代美術館(本館)	127	5,635	2,718
東京国立近代美術館(工芸館)	50	1,601	1,285
東 京 国 立 近 代 美 術 館 (フィルムセンター)	192	10,649	1,470
京都国立近代美術館	107	5,587	1,590
国立西洋美術館	146	14,507	5,582
国立国際美術館	36	3,433	2,662
国立新美術館	108	10,942	-
計	766	52,354	15,307

ア 各館の特徴

(ア)東京国立近代美術館

(本館

幅広い層への解説プログラム(所蔵品ガイド,ハイライトツアー,キュレータートーク,アーティストトーク,音声ガイド,子ども用セルフガイドやイベント等)や来館者サービス(ライブラリー,ショップ,レストラン,休憩室,バリアフリー情報,夜間開館,無料観覧日,MOMATパスポート等)を一覧できるリーフレット「活用ガイド」を新たに制作した。

都立文京盲学校からの見学依頼をきっかけに,解説ボランティアに研修を行い,視覚障害者への鑑賞サポートを行えるようにした。

また、「竹喬展」において関連企画として、小学生向けのワークショップを行った。

(丁芸館

現代工芸への視点--装飾の力」展の開催中にギャラリートーク及び作家によるトークを実施した。

また、雑誌『美しいキモノ』(アシェット婦人画報社)の連載と連動した特別鑑賞会を開催した。

(フィルムセンター)

上映作品にゆかりのある映画人や研究者、評論家を招いてのトークも多く開催しているが、本年も昨年に続き「発掘された映画たち2009」で研究員が上映作品の発掘や復元の経緯について解説を行い、映画保存業務の重要性をアピールした。

「EUフィルムデーズ 2009」では、来日ゲストのトークや質疑応答に加え、ゲスト全員を集めてのシンポジウムを初めて開催し「第 31 回びあフィルムフェスティバル」では、日本の古典映画の魅力を現在第一線で活躍する映画人などが解説する「大島渚謙座」を開催した。

また,教育普及を目的とする上映イベントでは,小中学生を対象とする従来の「こども映画館」に加え,新たに学生を対象とした新規事業として「カルト・ブランシュ~期待の映画人・文化人が選ぶ日本映画~」を開催した

(イ)京都国立近代美術館

「ウィリアム・ケントリッジ展」においては、京都会館で作家本人によるレクチャー/パフォーマンスを開催した。また、同展関連事業として、ノートルダム学院小学校と当館による学習支援的取り組みとして、アナモルフォーシスの手法を使った作品を主眼に、同手法による制作を体験した後、展覧会を鑑賞するというワークショップを企画・実施した。

(ウ)国立西洋美術館

・教育普及事業は、ギャラリートークばかりでなく、アーティストトニークを積極的に取り入れ、各館全体に展り入れ、各館全体に開く姿勢は評価したい。また、地域的な広がりを持った普及が助す東京・関西ともに例年どおり連携のもとに発生はに向けたきめ細かい配き、教職員対象の取り組みは高い水準にある。

【よりよい事業とするための意見】 ・参加者数ではなく、「実施回数」 を目標に掲げた方が、各館の努力の 実態に合う。たとえば、ワークショ ップなどは、高質のものを提供する には、必然的に人員制限を設定せざ るをえないからである。

- ・アーティストトークの発展形式である「コーヒーを飲みながらの気楽な対話」など、新形式の普及講座の可能性をさぐることも望まれる。
- ・全国の多様な普及活動を集約し、 交換するという役目にも一層配慮さ れたい。
- ・フィルムセンターの「びあフィルムフェスティバル」の共同開催は、次世代のクリエイターの育成に極めて重要な役割を担っている。より一層の協力・発展を望む。

(京都国立近代美術館

美術鑑賞教育への関心を高めることを重点目標に置き、外部から の自発的要望を積極的に支援し、現場指導者の質の向上及び指導 者の数的拡大を目指す。

- ア 学校等からの要請による美術館利用についての教員研修会 等の受入れの促進
- イ 教員やNPO団体の美術館利用プログラムに対する支援
- ウ 学校、各種団体からの要請による解説の実施 エ 出張授業の受け入れ、特別授業等の支援など高校・大学の授業との積極的な連携
- オ 企画展に関連した講演会(8回程度)の実施
- カ 東京国立近代美術館フィルムセンターとの共催による映画上 映を、京都ドイツ文化センターを会場に定期的に(年5回)実施

国立西洋美術館

児童・生徒を対象としたプログラムをはじめ、多くの人々に美術と美 術館に親しんでもらうためのプログラム、コレクションを活用したテー マ性のある企画、対象を限定したプログラムなど、それぞれの効果を 考慮した帰広いレベルと内容のプログラムを提供する。

- ア Fun Day'09 開催時に、美術館と作品を楽しむ自由参加型プログラムの実施(4回程度)
- イ 企画展に関連した「先生のための観賞プログラム」の実施(小・ 中・高等学校の教員対象)(2回)
- ウ ファミリー・プログラム「どようびじゅつ」の実施(18回)
- エ 「スクール・ギャラリートーク」(小・中・高等学校の団体対象)の 実施(予約制)
- オ クリスマス・プログラムの実施
- カ 障害者を対象とする特別プログラムの実施(1回)
- キ 企画展に関連した講演会(8回程度)、スライドトーク(12回程度)及び音楽プログラム(1回)の実施
- ク 6月以降の毎週日曜日にボランティアによる「建築ツアー」として本館の建物見学会の実施

国立国際美術館

幅広い層の人々が美術館に親しみ、美術鑑賞の機会を身近に感 じられるよう、企画限ごとに関連講演会、ギャラリートークなどを開催 する。また、低年齢層も同様に美術鑑賞の機会を享受できるよう、 子ども向けの各種プログラムを実施する。その他、美術館がより開 かれた場所となるよう、各種イベントを開催する。

- ア 鑑賞支援教材制作に関連した「ジュニア・セルフガイド」の発行
- イ 鑑賞実践プログラムに関連した「こどもびじゅつあー」の実施(
- ウ 鑑賞支援制作プログラムに関連した「こどものためのワークショ
- エ 大学の課外授業及びスケーリングによる団体鑑賞の受入れ
- オ 小·中·高等学校の団体鑑賞の受入れ カ 鑑賞教育に関する教員研修の実施(予約制)
- + 企画展に関連した講演会(5~6回)、ギャラリートーク(4~6 回)及びアーティストトーク(3~4回)、コンサートなどイベントの

国立新美術館

来館者の作品鑑賞の充実を目的として、展覧会ごとに講演会やギャラリートークを実施するほか、より多くの人々が美術に触れ、美術に 親しむ機会を提供するためのプログラムを幅広い層を対象に実施す

- ア 展覧会にあわせた講演会及びギャラリートーク等の実施(14
- イ 作家等によるワークショップ及び講演会の実施(4回)
- ウ 子どもを対象としたワークショップの実施(2回)
- エ 中学生以上を対象とした鑑賞ガイドの配付(2回)
- オ 公募団体等との連携によるワークショップ及びギャラリートーク
- カ 児童、生徒、学生を対象とした鑑賞ガイダンスの実施

ボランティアや支援団体の育成と相互協力による教育普及事業 予実を図る.

(東京国立近代美術館)

<本館:

- ア 本館ガイドスタッフ(ボランティア)約40名により、所蔵作品展の所蔵作品ガイド(開館時毎日)及び「ハイライト・ツアー」(10回程度)を実施する。
- イ 本館ガイドスタッフによる小・中学生グループの受入れなど、鑑賞教育の充実を図る。
- ウ研究員等によるフォローアップ研修を開催して、ガイドスタッフの意欲とガイドテクニックの向上を図る(年2回)。

<工芸館>

- ア 工芸館ガイドスタッフ(ボランティア)約25名により、一般観覧 者向けの鑑賞プログラム「タッチ&トーク」(会期中の水・土曜 日)及び夏季の児童向けの鑑賞プログラム「こどもタッチ&トーク」を事施する。
- イ 工芸館ガイドスタッフにより、外国人及び国際的な文化交流に 関心を持つ日本人を対象とした英語による鑑賞教室を実施する。
- ウ 工芸館ガイドスタッフに対し、研究員によるフォローアップ研修 や作家によるレクチャーを開催して、ガイドスタッフの意欲とガイドテクニックの向上を図る。

平成 21 年度は、開館 50 周年記念で開催した「ル・コルビュジエと国立西洋美術館」展および「かたちは、うつる」展で、複数の関連プログラムを実施した。 「FUN DAY」においては、開催日がこれらの展覧会と重なることもあり、常設展に関連するプログラムに加え建築に関連したツアーやトーク、版画のデモンストレーションなどを行った。建築のプログラムは本館を世界遺産へ登録申請していることから、周囲の関心も高くプログラム参加者も多く好評だった。「古代ローマ帝国の遺産、展では国際シンボジウムを開催した。

(工)国立国際美術館

企画展ごとに講演会,対談,ギャラリートークなどを実施するとともに,シンポジウム「オーラル・アート・ヒストリーの可能性」(参加者85名)とシンポジウム「国立国際美術館新築移転5周年記念 絵画の庭-ゼロ年代日本の地平から」(参加者44名)を開催した。また,上記のほか,以下の教育プログラムを実施した。

- ・「ルーヴル美術館展」において鑑賞支援教材制作に関連した「ジュニア・セルフガイド」の発行
- ・大学の課外授業及びスクーリングによる団体鑑賞の受入れ
- ・小・中・高等学校団体鑑賞の受入れ
- 教員研修の実施(5回 合計214名)

(オ)国立新美術館

展覧会に合わせた講演会や解説会,アーティスト・トークのほか,子供から大人まで幅広い層を対象にしたワークショップを開催した。アーティスト・ワークショップ(全7回)では,絵画や写真,彫刻など従来の美術表現に関連したもののほか,子供を対象とした身体表現をとおした絵画鑑賞や既成の玩具を用いた造形表現など,幅広い分野からアーティストを講師に迎えた多彩なプログラムを実施した。

また,ワークショップの様子を記録してスライドショーを編集・作成し,館内のモニターで上映することにより,参加者以外の来館者にも広くプログラムを知ってもらい,楽しんでもらえるよう工夫した。

美術家の宮島達男氏他が参加したシンポジウム「ウガンダのエイズ孤児,アーティストに出会う」では,広く社会における芸術の役割と可能性を探る貴重な機会を提供することができた。

ポランティアや支援団体の育成等による教育普及事業

ア ボランティアによる教育普及事業

館名	ボランティア登録者数	ボランティア参加者数	事業参加者数
東京国立近代美術館(本館)	35	463	3,293
東京国立近代美術館(工芸館)	24	241	1,593
京都国立近代美術館	30	141	-
国立西洋美術館	33	446	3,343
国立国際美術館	38	57	-
国立新美術館	52	96	-
計	212	1,444	8,229

イ 各館の特徴

(ア)東京国立近代美術館

本館では、フォローアップ研修(10月)において、NPOから講師を迎えて視覚障害者への鑑賞サポートについて 学び、盲学校の高校生へのギャラリートークを行った(11月)。 開館日毎に実施している所蔵品ガイドについては、 参加人数や対象作品、参加者の反応などを発足以来日誌に記してきたが、これをプログ(担当者と当館ボランティア のみ閲覧可能)に記載するようにし、自宅からでも活動状況を確認できるよう工夫を行った。

工芸館では,平成20年度に引き続き,ボランティアガイドが担当する鑑賞プログラム(ポーラ伝統文化振興財団との共催)を開催した。また,高度な質問にも十分な対応ができるようフォローアップ研修を毎月実施した。

(イ)京都国立近代美術館

ボランティアによる聞き取りアンケートの実施等の活動を行った。

(ウ)国立西洋美術館

平成 20 年度に募集したボランティア・スタッフによる新たなプログラム「美術トーク」と「建築ツアー」を毎週日曜日の午後に実施した。「建築ツアー」は他の建築プログラム同様に,毎回定員以上の参加希望者が出るなど大変好評であった。「美術トーク」は日によって参加者の少ないときもあったが、後半はリピーターが出るなど、これも人気が出てきている。新館の空調工事を行っていたため,ファミリー向けのプログラムについて,「どようびじゅつ」を例年より多く実施した。また,クリスマスの時期には平成 20 年度から始めた「10 分トーク」を今年も実施した。スタッフの数も増え,ボランティアによるプログラムをさらに充実させることができた。

(エ)国立国際美術館

学生ボランティアを広く募り,教育普及事業の実施補助,広報資料の発送,図書資料等の整理などの美術館運営の補助業務を実施することを通して,美術館活動に接する機会を提供した。

オ)国立新美術館

美術館事業の支援及び美術館の活動に関心を持つ学生(大学生,大学院生)への実務体験の機会の提供を目的としたサポート・スタッフ制度により,講演会やワークショップをはじめとする教育普及事業のほか,情報資料室や広報の業務補助等,幅広い活動に参加させることにより,将来,文化活動に携わる可能性のある学生に対して,美術館や美術活動への理解を深める機会を提供することができた。

7				
京都市の影響を含まいます。		(京都国立近代美術館)		ウ 支援団体等の育成と相互協力による事業
7年8月、当家での課金のエアンーは高級的に関わっています。	1			
(大会のたいまプリア・アの場所 知知の上とは取りて (大会のための語といて、世界の上の対象とは実施する。 (大会のようがアイタリア)とよう、アフリアの多数を実施する。 (大会の大きがアイタリア)とよう、アフリアの多数を実施する。 (大会の大きないためのまたが、大きないたのでは、アフリア)の であり、アスリア でありまた。 (大会の大きないためのまたが、大きないたのでは、アスリア)の であり、アスリア でありまた。 (大会の大きないたのまたが、アフリア)の であり、アスリア	1			
(イ) (名) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2	1	てもらうことで、ボランティアの経験、知識の向上等に協力す		助力により,百路にのいてコンゾートや洛治云,規則などを開催した(20 凹)。
東京の美術を「場合を持つ。「中国、マニージアムぐるっとして、2009、及び間回の裏 が、またりで、797-797-797-797-797-797-797-797-797-797	1			(オ) グスっとパフへ 介奈市
### 27-97-77-79-72-1-79-1-70-79-1-0-1-79-2-0-1-1-7-2-1-1-7-2-1-1-7-2-1-1-7-2-1-7-2-1-7-2-2-1-7-2-2-1-7-2-2-1-7-2-2-1-7-2-2-1-7-2-2-1-7-2-2-1-7-2-2-1-7-2-2-1-7-2-2-2-1-7-2-2-2-2	1	期演奏会、見学会及びワークショップ等の事業を実施する。		(1) (1)
理解等外の無対象が起ことが説明所存のは、1つの2029 1 (1) に対していては自動が参加しておりました。 1 (1) に対していては自動が参加しておりました。 1 (1) に対していては自動が参加しておりました。 1 (1) に対していている自動が参加しておりました。 1 (1) に対していている自動が参加していてがありました。 1 (1) に対していている自動が参加し、おしていることが、1 (2) に対している。 1 (2) に対しているが、1 (2) に対している自動が表し、おしていることが、1 (2) に対している。 1 (2) に対しているが、1 (2) に対している自動が表し、表しました。 1 (2) に対している情報を対して、アカワラムに対し、表しました。 1 (2) に対しているが、1 (2) に対している情報を対して、アカワラムに対している。 1 (2) に対している情報を対して、アカワラムに対している情報を対している。 1 (2) に対している情報を対している情報を対している。 1 (2) に対している情報を対している情報を対しては、対している。 1 (2) に対している情報を対している情報を対している。 1 (2) に対している情報を対している情報を対している。 1 (2) に対している情報を対している。 1 (2) に対している。 1 (2) に				
(ウ) NPOはよ人の登録 1 (回知後にないだけが、中のかは、つから、ついては、つから、いいては、つから、いいでは、つから、のから、いいでは、のから、いいでは、のから、いいでは、のから、いいでは、のから、いいでは、のから、いいでは、のから、いいでは、のから、いいでは、のから、いいでは、のから、いいでは、のから、いいでは、のから、いいでは、のから、いいでは、のから、いいでは、のから、いいでは、のから、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいで	1	学校生の団体を対象とした常設展(所蔵作品展)でのスクー		
(1) 田田恵田については自動から参加しているとことがあった。	1			
(アの高度にちつながたけまえらかた。クリスス・プロイナーンのでは、アクリーのでは、アクリ	1			(· / · · · · · · · · · · · · · · · · ·
### 2017/19/19/19/19/19/19/19/19/19/19/19/19/19/	1			
加ア・丁河森以口(東川市等との回答を対して、東大で、中の回答を開発として、東大で、中の一下のでは、東大学、中の一下のでは、東大学、中の一下のでは、東大学、中の一下のでは、東大学、中の一下のでは、東大学、中の一下のでは、東大学、中の一下のでは、東大学、中の一下のでは、東大学、中の一下のでは、東大学、中の一下のでは、東大学、中の一下のでは、東大学、中の一下のでは、東大学、中の一下のでは、東大学、中の一下の一下の一下の一下の一下の一下の一下の一下の一下の一下の一下の一下の一下の	1			
2 配上類数段の 単に減分類性 起列、 表性性 即列、 表性性 即列、 表性性 即列、 大き (1) 年代 (1	1	ルアップ研修及び広く美術に関する知識を学ぶための研修を		
田江田田美術 万を記すた 富在 第三を	1			通して人々が出会う開かれた美術館を目ざすプロジェクト)を平成 19 年度より継続し,美術館無料開放日「FUN
ア 学生がカンティを取り入れ、観念、議会会がリーツョップをの力であった思想。また、 素質体がいた思想とは、原体に高いないの表現を含べなシェア (太の本につれては、最終地のペインの人の開発) 活動的	1	アを活用する。		DAY」の開催,映像ガイドの上映,クリスマス・プログラムの実施等各種プログラムの充実を図った。
のプラのエクラムに参加させ等。活動の有業程息、また 無利用の企業を表示を表示であることで を含めたこれでは、含金型型のイントの開催等。活動的 音句の実実程度を定とに、派え会自動の上下移る。 個立監察が指則サポートスケップとして学生ボランティアを受け 人間の主義を構造している。企業経験相のの 自動にある。 の 近端期が動態と連携・扱力、マップの影布等を実施する。 フルルセンターでは、原物の正式作業研修の人間による映画 上版と、実際インスタンサーを考えまでは、2 映画 上版と、実際インスタンサーを発生を対象とした事業については、特に相模原分館におい で市及び近隣施設との連携により映画の上映を行った。また、児童生徒を対象とした事業については、特に相模原分館におい で市及び近隣施設との連携により映画の上かを分とを指定を開催していては、特に相模原分館におい で市及び近隣施設との連携により映画の上かを分と施設権がファーを実施した。 ・「NFC 所謂作る直接 MoMAK Films®Coettie」(5回)791名 ともに、研究例が出席して仲級の紹介や日本時間の自及等に対め ・「とども映画館 2009 年の変化み」(4回)187人 ・ 相模原分館 「子がみ風 ラ子文化祭 ,親子映画諸賞会 (2回)20人				国立国際美術館では,企業とのタイアップによる前売券の発券,企業等が発行する印刷物への展覧会情報の掲載
。		ップ等のプログラムに参加させる等、活動の充実を図る。また、		等を実施し,企業との連携を進めた。
(国立無利用) (日本) (日	1	美術資料の整理を通じ、美術館活動の基本を学べるようにす		
国工業無利能				企業から協賛金を受け入れた。
ア 加工無利情形がートスタップにで学元がシティ下受対 入工、無利能における無料の価値を出て表現経験の個金を 選出する。 4 解音が多の場で情報収集提供事業への企業協議制度の経 施設施。 フィルムセンターでは、実施園近近代美術能の力と概により映画 上映を、京都インタ化センターをは、国内の力の能布等を実施する。 フィルムセンターでは、国内分の映画祭にコレションを出品する。 フィルムセンターでは、国内分の映画祭にコレションを出品する。 フィルムセンターでは、国内分の映画祭にコレションを出品する。 フィルムセンターでは、国内分の映画祭にコレションを出品する。 ス・ルムセンターでは、国内分の映画祭にコレションを出品する。 ス・ドNFC 所属作品選集 MoMAK FilmseCoothe」(5回)791名 ・・「NFC 所属作品選集 MoMAK FilmseCoothe」(5回)357人 ・・相模原分館「さど、大学、企画野グロボル」(日回)110人 ・・相模原分館「さがみ風っ子文化祭」親子映画鑑賞会(2回)130人 ・・相模原分館「さがみ風っ子文化祭」親子映画鑑賞会(2回)20人				
及れ、美術館における異称の側を通に実務経験の機会を 提供する。		ア 国立新美術館サポート・スタッフとして学生ポランティアを受け		
	1	入れ、美術館における業務の補助を通じた実務経験の機会を		
ウ 近隣際施設と選携・協力、マップの配布等を実施する。 フィルムセンターでは、京都回近年代東鮮館との共職による映画 上映を、京都・イン文化センターを全場に定開かに伴る。回来施 上京を、京都・イン文化センターを全場に定開かに伴る。回来施 この、	1			
フィルムセンターでは、京都園立近代美術館との共幅による映画 上映を、京都ドイツ文化センターを含場に定期的に年5 回 実施する。 フィルムセンターでは、国内外の映画製にコレクションを出局する とともに、研究員が出席して作品の紹介や日本映画の音及等に努める。 ・「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films@Goethe」(5 回)791 名 ・「こども映画館 2009 年の夏休み」(4 回)357 人 ・相模原 市内の小・中学生を対象とした上映会(由野台中学校)(1 回)110 人 ・相模原分館「子供映画鑑賞会と、施設保険・ツアー」(2 回)113 人 ・相模原分館「さがみ風っ子文化祭」親子映画鑑賞会 (2 回)120 人 ・ 相模原分館「さがみ風っ子文化祭」親子映画鑑賞会 (2 回)20 人	1	続を図る。		
- 「ことも映画館 2009年の夏休み」(4回)357人学校)(1回)110人 - 相模原布内の小・中学生を対象とした上映会(由野台中学校)(1回)110人 - 相模原介的の指揮では、研究側が出席して作品の紹介や日本映画の音及等に努め 6.		ソ 近隣賊係施設と連携・協力し、マッフの配布等を実施する。		
る。 フィルムセンターでは、国内外の映画器にコレクタコンを出品するとともに、研究員が出席して作品の紹介や日本映画の普及等に努める。 ・相模原分館「子供映画鑑賞会と施設探検ツアー」 (2回)113人 ・相模原分館「さがみ風っ子文化祭」親子映画鑑賞会 (2回)20人 - 相模原分館「さがみ風っ子文化祭」親子映画鑑賞会 (2回)20人 - 1 S:特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。) - 7 アーティストト - 7 河の中間呼り参	1			
・相模原分館「子供映画鑑賞会と施設探検ツアー」 (2回)113人 ・相模原分館「さがみ風っ子文化祭」親子映画鑑賞会 (2回)20人 - 構模原分館「さがみ風っ子文化祭」親子映画鑑賞会 (2回)20人 - 構模原分館「さがみ風っ子文化祭」親子映画鑑賞会 (2回)20人	1	上映を、京都ドイツ文化センターを会場に定期的に(年5回)実施す る		
・相模原分館「さがみ風っ子文化祭」親子映画鑑賞会 (2回)20人 講演会 ギャラリートーク、アーティストトーク等の年間中分割 1 S:特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。)	1			
講演会 ギャラリート ーク、アーティストト ーク等の年間平均参		とともに、研究員が出席して作品の紹介や日本映画の普及等に努め る		
ーク、アーティストト ーク等の年間平均参 1 8:特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。) っち物価未見会として業務運営の政策者の他の動生を行うが要がある。(客観的基準は事前に記けず、業務政策の動生が必要と思う	1	••		1日次の月日 とかり回う 月入しますが、1 外回帰還と (と日)とり八
- ク、アーティストト - ク、アーティストト - ク等の年間中分参 1 8:特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。) - 1 ので表現のようでは、アンスを関係して、実践である。(を観めまない。)	1			
- ク、アーティストト - ク、アーティストト - ク等の年間中分参 1 8:特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。) - 1 ので表現のようでは、アンスを関係して、実践である。(を観めまない。)	1			
- ク、アーティストト - ク、アーティストト - ク等の年間中分参 1 8:特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。) - 1 ので表現のようでは、アンスを関係して、実践である。(を観めまない。)	1			
- ク、アーティストト - ク、アーティストト - ク等の年間中分参 1 8:特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。) - 1 ので表現のようでは、アンスを関係して、実践である。(を観めまない。)	1			
- ク、アーティストト - ク、アーティストト - ク等の年間中分参 1 8:特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。) - 1 ので表現のようでは、アンスを関係して、実践である。(を観めまない。)	1			
ーク、アーティストト ーク等の年間中分割 1 S:特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。) った物価未見会として業務演奏の対策をつかある。(を観め基準は事前に設けず、法教の事業の特性に応じて評定を付す。)	1			
ーク、アーティストト ーク等の年間中分割 1 S:特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。) った物価未見会として業務演奏の対策をつかある。(を観め基準は事前に設けず、法教の事業の特性に応じて評定を付す。)	1			
ーク、アーティストト ーク等の年間中分割 1 S:特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。) った物価未見会として業務演奏の対策をつかある。(を観め基準は事前に設けず、法及の業務の特性に応じて評定を付す。)	1			
- ク等の年間円分割 1 5:特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に設けす。法人の業務の特性に応じて評定を付す。) 1 5:特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に対しませ、実践が基本の特別を持ちなが必要と思う。) 1 5:特に優れた実績を上げている。				
ープラグリ中間である。 1 「・・ 1 「 ・ 1 「 ・ 1 「 ・ 1 「 ・ 1 「 ・ 1 」				1 S:特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。)
	1		加書数	2 F:評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を行う必要がある。(客観的基準は事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判さ
JMEBOX 18種ピンに定量的評価 れた場合に限りFの評定を付す。)				れた場合に限りFの評定を付す。)
「東海が保護権				1 72,718人以上 [1,903人以上
本館 2,718人未満 2 (前年度実績:6,562人)(前中期平均:2,718人) A				
	1		工芸館	1.285人以上 1900人以上1.285 1900人未満 実績:1.601人
			!	
1/1/1/1/1/2/2 1/1/20 A N I F			フィルクヤンター	1470人以上 1020人以上 1020人主法 中结 10640人
1,470人未満 (前年度実績: 9,705人) [前中期平均: 1,470人]			1 11/1/4/27	1.470人未満
□	1		京都国立近代美館	1 590 人以
1,590人未満 (前年度実績:4,244人) (前中期平均:1,590人) A	1			
	Į l		(国立西洋美術館)	5 582 人以上 3 907 人以上 3 907 人夫诺 宝结 14 507 人
5,582人未満 (前年度実績:11,182人) (前中期平均:5,582人)				5,582人未満 (前年度実績:11,182人)(前中期平均:5,582人) A
(国立国際美術館) 2,340人以上 1,638人以上 1,638人未満 実績:3,433人			!	
			(国立国際美術館)	
_			1	2,340人未満 (前年度実績4,203人)(前中期平均:2,340人) A
			1	2,340人未満 (前年度実績4,203人) (前中期平均:2,340人) A 実績:10,942人

(5)調査研究成果の反映

展示、教育普及活動その他の美術館活動を行うために必要な調査研究を計画的に行い、その成果を国立美術館の業 務の充実、文化の振興に反映させること

5)調査研究成果の反映

各館の役割・任務に従い 展示、教育普及その他の美 術館活動の推進のため、計画 的に調査研究を実施するとと もに、これらの成果を確実に 美術館活動に反映させる。な お、実施に当たっては、国内 外の博物館・美術館及び大学 等の機関とも連携を図るもの とする。

5)国立美術館における展示、教育普及その他の美術館活動の推 進を図るため、調査研究を計画的に実施し、その成果を美術館活 動に反映させる。実施に当たっては、国内外の博物館·美術館及 び大学等の機関との連携を図る。さらに、館外の学術雑誌、学会 等に掲載・発表するとともに、研究紀要を発行するなど、調査研究 成果を発信するよう怒める

また、募集情報等の共有を図り、科学研究費補助金等の研究 助成金の申請や外部資金の獲得を促進する。 東京国立近代美術館)

- < 本館 >
- 展覧会開催のための調査研究を次のとおり実施する。 ア ヴィデオアートに関する調査研究
- ポール・ゴーギャンに関する調査研究(名古屋ボストン美術館との
- 河口龍夫に関する調査研究
- L 権鎮圭と韓国の近代彫刻に関する調査研究(武蔵野美術大学、 韓国国立現代美術館との共同研究)
- 小野竹喬に関する調査研究(笠岡市竹喬美術館、大阪市立美 術館との共同研究)
- 教育普及その他の美術館活動のための調査研究を次のとおり実 施する
- P 鑑賞教育に関する美術館と学校の連携や、学校の授業と美術館 での鑑賞の連続性に関する調査研究(東京都図画工作研究会等 との共同研究)
- 国立美術館版「想 IMAGINE」の開発を進め、本版として公開す
- 国立美術館の情報資源と国立情報学研究所による WebcatPlus 文化遺産オンライン等に掲載の文化情報資源を、「想 -IMAGINE」において連携して検索・閲覧できるシステムの公開に ついて調査研究を実施する。
- L 「1960~70年代のビデオ・アート: 作品の所在調査とデータ・ベ ース構築」(科学研究費補助金)2年目
- <工芸館>
- 展覧会開催のための調査研究を次のとおり実施する。
- プ 現代工芸における装飾的傾向に関する調査研究
- 現代の茶陶に関する調査研究(山口県立萩美術館・浦上記念館 との共同研究)
- 7 イギリスの陶芸家ルーシー・リーに関する調査研究(国立新美術 館、益子陶芸美術館、大阪市立東洋陶磁美術館との共同研究)
- エ 近代におけるデザインの成立と展開についての調査研究(大阪 市立近代美術館建設準備室との共同研究) オ 日本における先駆的なグラフィックデザイナー杉浦非水の調査研
- 教育普及その他の美術館活動のための調査研究を次のとおり実
- 施する。 ア 工芸作品の鑑賞方法や美術館教育の在り方の調査研究(多摩
- 美術大学、東京家政大学との共同研究) 陶芸制作体験によって児童・生徒が、より質の高い作品理解を得 るための鑑賞教育の在り方に関する調査研究(岡山県立美術館
- 山口県立萩美術館・浦上記念館との共同研究 <フィルムヤンター >
- 収集・保存のための調査研究を次のとおり実施する。
- P 国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)会員、その他同種機関、 現像所等からの情報に基づく、未発見の日本映画フィルムの所在
- 文化庁との共同事業による「近代歴史資料調査」の結果に基づ き、新たに残存が確認された映画フィルムの詳細調査
- 映画フィルムの登録・長期保管・保存、アナログ及びデジタル技 術を活用した復元に関する調査研究(FIAF会員、国内外の同種 機関、映画研究教育機関、美術館・博物館、映像機器メーカー、 現像所等との共同研究)
- 上映会、展覧会及び教育普及事業のための調査研究を次のと おり宝施する
- ア 昭和戦前期の日本文学と日本映画の関係に関する調査研究
- 日本のジャンル映画(怪獣映画 SF映画等)に関する調査研究 ・映画産業の枠外で製作された日本映画・インディペンデント映画 等の歴史に関する調査研究
- エ 山中貞雄監督に関する調査研究
- オ 映画女優・田中絹代に関する調査研究
- カ 大島渚監督に関する調査研究
- キ 吉田喜重監督に関する調査研究
- 篠田正浩監督に関する調査研究
- アプルガリア映画に関する調査研究
- コ 土本典昭監督に関する調査研究
- ナ 戦前期のハリウッド映画に関する調査研究
- ン フランス映画とフランス映画ポスター、またそれらの日本への紹介 に関する調査研究

調査研究の実施

定性的に評価】

(5)調査研究成果の美術館活動への反映

調 査 研 究 テーマ	美術館活動への反映	連 携 機 関
ヴィデオアートに関する調査研究	「ヴィデオを待ちながら」展を開催しカタログを編 集発行	
ポール・ゴーギャンに関する調査研 究	「ゴーギャン展」を開催しカタログを編集発行	名古屋ボストン美術館
河口龍夫に関する調査研究	「河口龍夫展」を開催しカタログを発行	
権鎮圭と韓国の近代彫刻に関する調 査研究	「権鎮圭」を開催しカタログを発行	武蔵野美術大学,韓国国立現代美術館
小野竹喬に関する調査研究	「小野竹喬展」を開催しカタログを発行	笠岡市竹喬美術館,大阪市立 術館
鑑賞教育に関する美術館と学校の連	教育団体との合同研修の開催、小冊子「スクール・	東京都図画工作研究会
携や,学校の授業と美術館での鑑賞 の連続性に関する調査研究	プログラム・ガイド」の刊行など	東京都中学美術教育研究会
国立美術館版「想 - IMAGINE」の 開発を進め,本版として公開	システムの公開	
国立美術館の情報資源と国立情報学研究所によるWebcatPlus,文化遺産オンライン等に掲載の文化情報資源を,「想・IMAGINE」において連携して検索・閲覧できるシステムの公開について調査研究を実施	システム公開へ向けての検討	国立情報学研究所
1960~70年代のビデオアート:作品の所在調査とデータ・ベース構築	成果の一部が展覧会に出品,今後の収蔵作品候補に 関する情報収集	京都国立近代美術館,国立新美術館
ヴィデオアートに関する調査研究	平成20 - 21年度に展覧会を開催し,カタログを発行 60~70年代のヴィデオアート作品20本を収集	EAI(Electronic Arts Intermix), New York ICC(NTTインターコミュニケーションセンター)
萬鉄五郎の身体表現に関する調査研 究	平成20年度『研究紀要』掲載論文に基づき,平成21 年度に小企画を開催し,小冊子を発行	
水浴図に関する調査・研究	平成21年度に小企画を開催し,小冊子を発行	
油彩技法から見た近代日本絵画に関 する調査・研究	平成21年度に特集展示を行い,成果をパネル展示	斉藤敦氏(修復家)
現代工芸における装飾的傾向に関す る調査研究	特別展「現代工芸への視点 - 装飾の力」展	
現代の茶陶に関する調査研究	平成22年度に特別展を開催予定	山口県立萩美術館・浦上記念館 との共同研究
イギリスの陶芸家ルーシー・リーに 関する調査研究	平成22年度に特別展「ルーシー・リー」展を国立新 美術館で開催予定	国立新美術館,益子陶芸美術館,大阪市立東洋陶磁美術館
近代におけるデザインの成立と展開 についての調査研究	特別展「早川良雄展」を開催	大阪市立近代美術館建設準備3 との共同研究
日本における先駆的なグラフィック デザイナー杉浦非水の調査研究	所蔵作品展「アール・デコ時代の工芸とデザイン」 に反映	宇都宮美術館
国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)会員,その他同種機関,現像所等からの情報に基づく,未発見の日本映画フィルムの所在調査	平成 22 年度実施の上映会「発掘された映画たち 2010」の開催(予定)	広島市映像文化ライブラリー
文化庁との共同事業による「近代歴 史資料調査」の結果に基づき,新た に残存が確認された映画フィルムの 詳細調査	『史劇 楠公訣別』(1921年)について,文化審議会による重要文化財答申及び平成22年度実施の上映会「発掘された映画たち2010」の開催(予定)	
映画フィルムの登録・長期保管・保存,アナログ及びデジタル技術を活用した復元に関する調査研究(FIAFC), 国内外の同種機関,映画	平成22年度実施の上映会「発掘された映画たち2010」の開催(予定)	株式会社IMAGICA , 株式会社 IMAGICAウェスト

- ・人員、予算、時間などの極めて厳 しい状況の下であるにもかかわらず 調査研究は各分野において活発で あり、その質も高い。とくに展覧会 企画実施と図録制作に連動した基礎 的な研究は優れた達成度を見せ高く 評価できる。
- ・また、フィルムセンターの未発見 フィルムの発見やデジタル復元にと もなう研究は極めて高い評価に値す
- 【よりよい事業とするための意見】
- ・展覧会に特化した調査研究は充実 しているが、ナショナルセンターと して国際的視野に立った先進的かつ 先駆的な分野での研究も望まれる。
- ・研究員個々がどのような研究成果 をあげたか、追跡しやすい一覧資料 の作成が望まれる。

	T	
研究教育機関,美術館・博物館,映		
像機器メーカー、現像所等との共同		
研究)		
シルバー・カラー作品『幸福』とそ	ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント	
の技術,時代背景の調査研究	「特別上映会『幸福』シルバー・カラーの復元」の	
	開催	
可燃性フィルムを元素材とする最適	平成22年度実施の上映会「発掘された映画たち2010	科学研究費補助金・若手研究
なデジタル修復の方法に関する研		(B)「可燃性フィルムの安全
究, 染調色が施された可燃性フィル	1 Olding (1 NC)	保存に関する基礎的研究」(社
ムの復元に関する調査研究		究代表者・板倉史明
1000000円分の間直が70		平成20-21年度)として実施
四和戦前・戦中期の日本立学と日本	 上映会「映画の中の日本文学 Part2」及び展覧会「	「別とりこご干皮」として大旭
映画の関係に関する調査研究	上吹云 吹画の中の日本文字 Fait2 及び版員云	
吹回の関係に関する調査研九	映画員科でみる 映画の中の日本文字 Part2」の開 催	
	,	
日本のジャンル映画(怪獣映画,S		
F映画等)に関する調査研究	Part2」の開催	
	上映会「日本インディペンデント映画史シリーズ	ぴあ株式会社
	ぴあフィルムフェスティバルの軌跡vol . 2 」の開催	
史に関する調査研究		
山中貞雄監督に関する調査研究	上映会「生誕百年 映画監督 山中貞雄」の開催	
映画女優・田中絹代に関する調査研	上映会「生誕百年 映画女優 田中絹代」及び展覧	NPO法人芸游会
究	会「生誕百年 映画女優 田中絹代」の開催	
大島渚監督に関する調査研究	上映会「映画監督 大島渚」の開催	
篠田正浩監督に関する調査研究	上映会「映画監督 篠田正浩」の開催	
ブルガリア映画に関する調査研究	上映会「日本・ブルガリア外交関係再開50周年記念	ブルガリア共和国大使館
	ブルガリア映画特集」の開催	
ドキュメンタリー映画監督土本典昭	上映会「ドキュメンタリー作家 土本典昭 [京橋映	映画同人シネ・アソシエ
に関する調査研究	画小劇場No.141」及び展覧会「ドキュメンタリー作	SCHOOL STORY
	家土本典昭」の開催	
戦前期のハリウッド映画に関する調	上映会「NFC所蔵外国映画選集 アメリカ映画史研究	
我们新のバックット映画に関する。 査研究	京橋映画小劇場No.17]」の開催	
	「示何吹画小劇場NO.17]」の用作 展覧会「戦後フランス映画ポスターの世界 東京国	
,	立近代美術館フィルムセンター所蔵《新外映コレク	
する調査研究	ション》より」の開催	

- (京都国立近代美術館) 展覧会開催のための調査研究を次のとおり実施する。 ア ファッションと美術との重複領域についての調査研究(京都服飾 文化研究財団との共同研究) イ 近代京都の変遷を、美術・工芸・建築を含む都市文化論としての
- 新たな視点で調査・研究 ウ 写真家・野島康三の日本近代美術史における位置付け、及び同
- ラスティットをよっている。 時代の世界の写真動向の中での位置についての調査研究(渋谷 区立松濤美術館、イタリア・モデナ市写真美術館との共同研究) エ ドローイングとアニメーション、映画とメディアアートの物語の生成
- についてのプロセスに関する調査研究(東京国立近代美術館、広 島市現代美術館との共同研究) オ 京都国立近代美術館所蔵の現代美術作品についての包括的研
- 究 カイタリア・ルネサンスと近代についての調査研究(ローマ市ボルゲー レ美術館との共同研究)
- 教育普及その他の美術館活動のための調査研究を次のとおり実
- 教育者などの他の条件制に割切に恋りの調査研究を次のとの5美施する。 ア「京都学展」にあわせ、京都市内に残る近代建築等の施設調査 を、一般の参加者を募リフィールドワーク実習として実施する。館 所蔵の写真作品を基に、大学の授業と連動した専門的な「プリン トンタティ、の授業を同館において実施する(大阪芸術大学及び 京都造形芸術大学との共同研究)。

イ 京都国立近代美術館

1 分钟国立过10关桁路		
調査研究テーマ	美術館活動への反映	連 携 機 関
ファッションと美術との重複領域につ	展覧会「ラグジュアリー:ファッションの欲望」	京都服飾文化研究財団(KCI)
いての調査研究	として実現。	
近代京都の変遷を,美術・工芸・建築	展覧会「京都新聞創刊130年記念 京都学「前衛都	ジャポニスム学会
を含む都市文化論としての新たな視点	市・モダニズムの京都」1895-1930」として実現。	
で調査・研究	研究成果は6月20日のシンポジウム「ひとつの京都	
	学 美術・工芸・建築・都市」で発表。	
写真家・野島康三の日本近代美術史に	展覧会「生誕120年 野島康三 ある写真家が見た	渋谷区立松濤美術館
おける位置付け,及び同時代の世界の	日本近代」として実現。	イタリア・モデナ市写真美術
写真動向の中での位置についての調査		館
研究		
ドローイングとアニメーション,映画	展覧会「ウィリアム・ケントリッジ 歩きながら	東京国立近代美術館
とメディアアートの物語の生成につい	歴史を考える そしてドローイングは動き始めた	広島市現代美術館
てのプロセスに関する調査研究	」として実現。	
京都国立近代美術館所蔵の現代美術作	展覧会「マイ・フェイバリット とある美術の検	
品についての包括的研究	索目録 / 所蔵作品から」として実現。また,調査	
	・研究の成果と資料を「京都国立近代美術館・所	
	蔵品目録 」として刊行。	
イタリア・ルネサンスと近代について	展覧会「ボルゲーゼ美術館展」として実現。	ローマ市ボルゲーゼ美術館
の調査研究		
「京都学」展にあわせ、京都市内に残	友の会会員とともにフィールドワーク実習を実施	
る近代建築等の施設調査を , 一般の参		
加者を募りフィールドワーク実習とし		
て実施する。		

	館所蔵の写真作品を基に,大学の授業	│ 「プロムオイルプリント~ピクトリアリズム (絵	大阪芸術大学
	と連動した専門的な「プリント・スタ ディ」の授業を同館において実施する	画主義写真)体験講座~」として実現。	京都造形芸術大学
	昭和戦前期の官展工芸における「伝統」的作品の調査研究	常設展示場での小企画に反映させるとともに,所 蔵作品の中の官展出品作について研究を行った。	秋田公立美術工芸短期大学
	1960~70年代のビデオ・アート:作品の所在調査とデータ・ベース構築	宮島達男が15年前に制作した貴重なビデオ作品の デジタル化を支援した。2セット制作することで ,作家と美術館が各1セット所蔵可能となるよう にし,作家から寄贈を受けた。	東京国立近代美術館
	染め型紙のジャポニスムへの影響に関 する研究	2012年に研究成果を展覧会「型紙とジャポニスム (仮称)」展として実現予定。	日本女子大学
	東西文化の磁場 日本近代建築・デザイン・工芸の脱 ,超 領域的作用史の基盤研究	常設展示場での小企画,研究分担者をパネラーと したシンポジウムを実施。	
	イディッシュ語文化圏における芸術活動の研究	2012年に研究成果の一部を展覧会「型紙とジャポニスム(仮称)」展として実現予定。	大阪大学
(国立西洋美術館)	ウ 国立西洋美術館		
展覧会開催のための調査研究を次のとおり実施する。	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連 携 機 関
ア 連作炫画を中心とした。所蔵版画作品に関する調査研究(イ ローマ古代美術がいかイ連跡に関する調査研究(ナポリ=ポン ベイ考古学監督局との共同研究) ウ ル・コルビュジエの建築に関する調査研究(ル・コルビュジエ財団 (バリン集京理科ペチンの共同研究)	17世紀風景画に関する調査研究	「ルーヴル美術館 - 17世紀ヨーロッパ絵画 - 」展開催。同展の図録を刊行,新聞等への掲載,講演会等による発表を実施	ルーヴル美術館,京都市美術館
フランク・ブラングィンに関する調査研究 教育普及その他の美術館活動のための調査研究を次のとおり実施する。	所蔵版画作品に関する調査研究	「かたちは,うつる展」(平成21年度開催)企画 構成	
松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研 世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究	フランク・ブラングィンと国立西洋美 術館のコレクションに関する調査研究	「フランク・プラングィン展」(平成21年開催) 企画構成	ブラングィン美術館,英国王立 芸術院
所蔵版画作品に関する調査研究 フラング・プラングインと関立西洋美術館のコレクションに関する調査研究 ル・コレビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調	アルブレヒト・デューラーの版画芸術 に関する調査研究	「アルブレヒト・デューラー版画・素描展」(平成22年開催予定)企画構成	メルボルン・ナショナル・ギャ ラリー・オブ・ヴィクトリア , アルベルティーナ版画素描館
研究 西洋美術作品の保存修復に関する調査研究(ポール・ゲティ財 との共同研究)	古代ローマ美術とポンペイ遺跡に関する研究	「古代ローマ帝国の遺産」展(平成21年開催)企 画構成	ローマ国立美術館 , ナポリ = ポ ンペイ考古学監督局
美術館教育に関する調査研究 火山噴火罹災地の文化・自然環境の復元の総括」(科学研究費 間金)6年目	イタリア,ルネサンス・バロック美術 研究	「ナポリ・宮廷と美」展(平成22年開催予定)企 画構成	カポディモンテ美術館,ナポリ 美術監督局
- 「火山噴火罹災遺跡における生活・文化環境の復元研究」(科学研究費補助金)6年目 「初期アッティカ黒像式陶器の技法と図像に関する研究」(科学研	ギリシャ美術研究	「大英博物館ギリシャ美術展(仮)」(平成23年 開催予定)	大英博物館
費補助金)3年目 レンブラント及びレンブラント派における和紙による版画素描作 の研究」(科学研究費補助金)2年目	国立西洋美術館所蔵バウツ派研究	作品・文献調査,小企画展,刊行物	ロンドン・ナショナル・ギャラ リー
	国立西洋美術館所蔵キクラデス彫刻に関する研究	作品調査,文献収集,『西洋美術館研究紀要』へ の寄稿	アテネ国立博物館
	「レンブラント及びレンブラント派に おける和紙による版画素描作品の研究」	「レンブラント:光の画家(仮)」展(平成23年 開催予定)企画構成	アムステルダム国立美術館 , レ ンプラント・ハウス
	図像に関する調査研究」	作品調查,文献収集	
	「Kleitias and Attic Black-Figure Vases in the Sixth-Century B.C.」	「ギリシアの陶画家クレイティアスの研究」の英 訳・刊行。	
	「火山噴火罹災地の文化・自然環境の 復元の総括」6年目	「古代ローマ帝国の遺産」展 (平成21年開催)企画構成	東京大学大学院,お茶の水女子 大学,東京工業大学大学院,東 京大学地震研究所
	「火山噴火罹災遺跡における生活・文化環境の復元研究」6年目	「古代ローマ帝国の遺産」展 (平成21年開催)企画構成	東京大学大学院
	「国立西洋美術館所蔵作品データベース」	国立西洋美術館所蔵作品データベース	
	「ル・コルビュジエによる国立西洋美 術館本館の設計に関する調査研究」	「ル・コルビュジエと国立西洋美術館」展(平成2 1年開催) 企画構成	,東京理科大学,日本大学,京 都工芸繊維大学
	「カーレル・ファン・マンデル『北古	党部展 化高层 利行物 議演發表 解锁等	車小 +⇔

調査研究」 1年目

「カーレル・ファン・マンデル『北方 常設展・企画展 , 刊行物 , 講演発表 , 解説等画家列伝 a の成立と影響に関する比較芸術論的研究」1年目 「美術館の機関アーカイブズに関する 美術資料の提供事業調査研究 , 14年月

東北大学

	ュージアムにおける教 公共性と民間資金に関 」 1年目	教育普及事業	
旧松方コレクシ: ション全体に関す	ョンを含む松方コレク する調査研究	収集,作品・文献調査,常設展・企画展,刊行物 ,講演発表,解説等	
中世末期から20t 関する調査研究	世紀初頭の西洋美術に	収集,作品·文献調査,常設展·企画展,刊行物 ,講演発表,解説等	ロンドン・ナショナル・ギャラ リー,メルボルン・ナショナル ・ギャラリー
所蔵版画作品に	関する調査研究	「かたちは,うつる」展(平成21年度開催)関連 事業	
西洋美術作品のf 研究	保存修復に関する調査	修復処置の実施,シンポジウム(平成21年度開催)企画	J・P・ゲッティ美術館
美術館教育に関す	する調査研究	教育普及プログラムを実施。ワークシート等制作 ,インターンシップ,ボランティア指導,解説(企画展作品解説パネル制作等)	東京大学,東京藝術大学,東京 国立博物館,全国美術館会議, ロンドン・ナショナル・ギャラ リー
館蔵資産の資源化	七に関する調査研究	美術館アーカイブズ,コレクション・マネジメント・システム,美術図書館におけるエフェメラの 整理	ケベック・ナショナル・ギャラ リー , IFLA (国際図書館連盟)

(国立国際美術館)

- (国江国際条件)
 国際会開催のための調査研究を次のとおり実施する。
 ア 杉本博司に関する調査研究(金沢21世紀美術館と共同研究)
 イ 「やなぎみわ」作品に関する調査研究(東京都写真美術館との共
- う ルーヴル美術館作品に関する調査研究(ルーヴル美術館、国立 新美術館との共同研究)
- L 慶應義塾に関連する作品に関する調査研究(慶應義塾大学との 共同研究)
- オー長澤英俊に関する調査研究(埼玉県立近代美術館、川越市立 美術館、神奈川県立近代美術館、長崎県美術館との共同研究)
- カ 現代日本絵画に関する調査研究
- キ 現代のコンセプチュアル・アートに関する調査研究
- ク メディアアートに関する調査研究
- ケ ルノワールの技法と芸術に関する調査研究(国立新美術館、ボー ラ美術館との共同研究)
- 教育普及その他の美術館活動のための調査研究を次のとおり実
- ア 美術館教育に関する研究
- イ アジアの現代美術並びに美術館運営に関する調査研究(アジア
- 次世代キュレーター会議での共同研究) ウ 展示における所蔵作品の活用方法についての調査研究

- 展覧会開催のための調査研究を次のとおり実施する。
- ア 日本の現代美術の動向に関する調査研究 イ ルーヴル美術館所蔵作品のうち「子ども」をテーマとした作品に関 する調査研究(ルーヴル美術館、国立国際美術館との共同研究) ウ ルネ・ラリックとヨーロッパ近代装飾美術並びに工芸に関する調
- 且研え エ ハブスブルク家収集の近世ヨーロッパ美術工芸に関する調査研 究(ウィーン美術史美術館、ブダベスト美術館、京都国立博物館と の共同研究)
- カ 野村仁の作品に関する調査研究
- キ 松本陽子の作品に関する調査研究
- 7 野口里佳の作品に関する調査研究
- 教育普及その他の美術館活動のための調査研究を次のとおり実
- ア 美術館の教育普及事業(ワークショップ、鑑賞ガイド等)に関する
- 日本の近現代美術資料に関する調査研究
- 戦後の公立美術館における展覧会データの収集及び公開に関
- エ 美術情報の収集・提供システムに関する調査研究 オ 美術館におけるデジタル・アーカイブの構築に関する調査研究

工 国立国際美術館

-会議
会議
術館
市立
術館
館
館

オ 国立新美術館

美術館活動への反映	連携機関
「アーティスト・ファイル2010 - 現代の作家たち	
」展を開催,同展の図録を刊行。	
「ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち」を	ルーヴル美術館,国立国際美術
開催,同展の図録を刊行。	館
「生誕150年 ルネ・ラリック 華やぎのジュエ	オルセー美術館,グルベンキア
リーから煌きのガラスへ」を開催,同展の図録を	ン美術館
刊行。	
「THE ハプスブルク 華麗なる王家と美の巨	ウィーン美術史美術館,ブダペ
匠たち」展を開催,同展の図録を刊行。	スト国立西洋美術館,京都国立
	博物館
「ルノワール展 - 伝統と革新」を開催,同展の図	国立国際美術館,ポーラ美術館
録を刊行。	
「野村仁 変化する相 - 時・場・身体」を開催,	
同展の図録を刊行。	
	「アーティスト・ファイル2010・現代の作家たち」展を開催,同展の図録を刊行。 「ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち」を開催,同展の図録を刊行。 「生誕150年 ルネ・ラリック 華やぎのジュエリーから煌きのガラスへ」を開催,同展の図録を刊行。 「THE ハブスブルク 華麗なる王家と美の巨匠たち」展を開催,同展の図録を刊行。 「ルノワール展・伝統と革新」を開催,同展の図録を刊行。 「野村仁 変化する相・時・場・身体」を開催,

绿绿	「光 松本陽子/野口里佳」展を開催,同展の図 録を刊行。		
	¥ (1111)°	I 1	
	「光 松本陽子/野口里佳」展を開催,同展の図 録を刊行。		
マン・レイの生涯と芸術に関する調査 展研究		マン・レイ財団,国立国際美術館	
シュルレアリスムに関する調査研究 展	吴覧会(平成 22 年度開催予定)企画構成	ポンピドゥー・センター	
ポスト印象派の絵画とその時代に関す 展 る調査研究		オルセー美術館	
ルーシー・リーの生涯と芸術に関する 展 調査研究	景覧会(平成 22 年度開催予定)企画構成	東京国立近代美術館	
ファン・ゴッホとその芸術の形成に関展する調査研究		国立ゴッホ美術館,クレラー= ミュラー美術館,名古屋市美術館	
ナショナル・ギャラリーのコレクショ 展 ンにおける印象派ならびにポスト印象 派の絵画に関する調査研究		ナショナル・ギャラリー(ワシン トン)	
美術館の教育普及事業(ワークショッ 教 ブ,鑑賞ガイド等)に関する調査研究	女育普及事業		
日本の近現代美術資料に関する調査研美	長術資料の収集・提供事業		
戦後の公立美術館における展覧会デー 美 タの収集及び公開に関する調査研究	長術情報の収集・提供事業		
美術情報の収集・提供システムに関す 高調査研究	長術情報の収集・提供事業		
美術館におけるデジタル・アーカイブ 美	阜術情報の収集・提供事業		
の構築に関する調査研究			

(6)快適な観覧環境の提供 国民に親しまれる美術館を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行い 入館者の期待に応えること 高齢者、身体障害者、外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境を形成すること 入場料金及び開館時間の弾力化など、利用者の要望や利用形態等を踏まえた管理運営を行うこと。 ミュージアムショップやレストラン等のサービスの充実を図ること。 (6)快適な観覧環境の提供 6) 快滴な観覧環境等の提供 各館において、動線の改善や鑑賞しやすさ、理解のしやすさに配慮 -1 高齢者、身体障害者、 するため 展示も解説パネル等の工事を行う 外国人等を含めた入館者本 また、より良い鑑賞環境を提供するため、ホームページでの混雑情報 位の快適な鑑賞環境の形成 の提供、日時指定チケットや入場整理券の導入等さまざまな方途につ のために展示方法・外国語 L17検討する なお、引き続きアンケート調査等の結果を踏まえ、快適な観覧環境等 表示・動線等の改善、施設 の提供に努める の整備を計画的に行う。 (東京国立近代美術館) -2 展示や解説パネルをエ ア 展覧会カレンダーを配布する 夫するとともに、音声ガイ

観覧環境の提供 定性的に評価】

(6)快適な観覧環境の提供

高齢者,身体障害者,外国人等への対応 平成20年度に引き続き、各館とも次のような対応を実施している。

- ・多目的(身体障害者用)トイレ,エレベータ(エスカレーター),スロープ(手摺り)の設置
- ・車椅子・ベビーカーの貸出
- ・自動体外式除細動器(AED)の設置
- ・盲導犬,介助犬の同伴による観覧
- ・多言語による館案内表示
- ・多言語による館内リーフレット、ミュージアムカレンダー等の配布

展示、解説の工夫と音声ガイドの導入

開館時間の弾力化や観覧料の無料化

地域との連携や交通アクセス性、レス

トランやショップの整備など、「入館者へ

のサービス」という精神が各館とも定着

しており、それぞれ工夫を加えるなど努

力が認められる。キャンパス・メンバー

中高校生や若者、あるいは親子連れ

が気楽に滞留できる安価なセルフサー

ビスのカフェテリア施設を要望する。ま

た更に、いわゆる「デートスポット」にな

るような魅力ある環境の提供に努める

べきである。

の増進も特筆すべき成果である。

【よりよい事業とするための意見】

ともに、ボランティアによる「美術トークノ建築ツアー」を開始した。また、所蔵作品ガイド「Touch the museum」のダウンロード・サ

国立新美術館においては、「野村仁展」鑑賞ガイドブック『アートのとびら vol.4』(日英併記)、「アーティスト・ファイル 2010,鑑賞

文化の日(11月3日)及び国際博物館の日(5月18日(東京国立近代美術館は5月19日,国立国際美術館は5月17日 に実施))に観覧料を無料(国立西洋美術館,国立新美術館を除く。)にするとともに,開館時間等については,夜間開館 の実施,年始やゴールデンウイーク等休館日の臨時開館を実施した。また,所蔵作品展及び自主企画展について,高校生以

- - ・毎月第一土曜日に所蔵作品展観覧料の無料化

イ 所蔵作品展において「フロアガイド(日本語、英語、独語、仏語、中国 ド等を導入するなど、鑑賞 語、韓国語)」を配布する。 しやすさ、理解のしやすさ ウ 企画展において可能な限り「フロアガイド」を配布する に配慮する. エ 企画展(年1回)、夏季の所蔵作品展において、小・中学生向けのセ 入館者を対象とする満足 ルフガイドを配布する。 オ アンケート調査、予備調査に基づき、会場構成案・動線案を検討す 度調査を定期的に実施し、 入場料金及び開館時間の弾 カ 所蔵する重要文化財 11 占(うち 1 占け客託作品)についての作品情 力化などの管理運営の改善 報の提供をパネル、ホームページなどで引き続き重点的に行う。 に努める ア フロアガイド、作家名・作品名の読み方、素材・技法等を記載した出品 入館者にとって快適な空 リストを作成・配布するとともに、作家や作品の解説パネルやキャブションを作成・掲示するなど鑑賞のための情報提供を促進する。 間となるよう、利用者ニー ズを踏まえてミュージアム イ 所蔵作品展開催時に設置している各作品の注目ポイントを写真と文章 で明示した鑑賞シート(館内設置式のシート)の充実を図り、来館者が 興味深く鑑賞できるよう情報提供に努める。 夏季の「こども工芸館」において、こども向けワークシートに加え、親子 ショップやレストラン等の 充実を図る。 で鑑賞できるようおとな向けの鑑賞補助資料を配布する。 エ 屋外展示作品についての情報を館内に掲示し、来館者への関心を高 ィフィルクセンタート ア展覧会の開催に際し、展示作品の出品目録を配布する。 「映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part2」(1回) 「ドキュメンタリー作家 土本典昭」(1回) 「生誕百年 映画女優 田中絹代」(1回 「フランス映画ポスターの世界 フィルムセンター所蔵新外映コレクシ ンより(1回) 計4回配布 京都国立近代美術館 ア 館概要(日本語、英語、独語、仏語、西語、伊語、中国語、韓国語) イ 展覧会カレンダーを配布する ウーハ・中学生に対してガイドブックを配布する。 エ 英・日併記の情報誌「MEET OSAKA」(発行:(財)大阪21世紀協会 に展覧会情報を掲載し、外国人旅行者に対する普及広報を実施する。 国立西洋美術館) ア 国立西洋美術館プリーフガイドを配布する。 イ 常設展(所蔵作品展)「作品リスト(日本語、英語)」、企画展「作品リスト (日本語、英語)」及び小・中学生向け解説「ジュニアパスポート」を配 ウ 国立西洋美術館本館の建築探検マップ(日本語、英語、仏語、中国 語、韓国語)を配布する。 (国立国際美術館) ア 館概要リーフレット(日本語、英語、中国語、韓国語)を配布する。 イ 展覧会において可能な限り「フロアガイド」を配布する。 ウ 小・中学生向け解説「ジュニア・セルフガイド」を配布する。エ 英・日併記の情報誌「MEET OSAKA」(発行: (財) 大阪2 1世紀協会) に 展覧会情報を掲載し、外国人旅行者に対する普及広報を実施する。 オ 各階に無料の絵水機を設置する. カ 彫刻などの所蔵作品を鑑賞しながら休めるように、地下1階の無料スペ ースに、動線の妨げにならない程度に椅子を設置する。 国立新美術館 ア 館フロアガイド(日本語、英語、独語、仏語、西語、中国語、韓国語)を 配布する。 イ 展覧会カレンダーを配布する。 ウ 展覧会において「フロアガイド」を作成・配付する。 エ 展覧会において中学生以上を対象とした鑑賞ガイドを作成・配付する 入館料及び開館時間の弾力化等により、入館者サービスの向上を図るた b. 次のとおり実施する ア 高校生以下及び18歳未満の観覧料無料化の普及広報に努める イ 展覧会の混雑状況を考慮し、開館日・時間等について柔軟な対応を ウ 学生等の美術鑑賞への興味と関心を高めるため、キャンパスメンバー ズ制度の普及広報に努める。 エ 東京国立近代美術館本館・工芸館及び国立西洋美術館は、東京都に 実施する外国人旅行者への観光事業「ウェルカムカード」に参加し、外 国人旅行者に対して所蔵作品展の割引観覧を実施する。 オ 東京国立近代美術館、国立西洋美術館及び国立新美術館は、共通

入館券事業「ぐるっとパス」に参加し、観覧料の低廉化を図る カ 国立国際美術館は、共通入館券事業「ミュージアムぐるっとパス・関西

待を宝施する 東京国立近代美術館

2009」に参加し、観覧料の低廉化を図る。 キ 東京国立近代美術館及び国立西洋美術館は、東京都が実施する青

ア 国民に広く美術作品等に親しんでもらうため、所蔵作品展を廉価で観

覧できるパスポート観覧券の広報に努める。

少年育成事業「家族ふれあいの日」に参加し、所蔵作品展観覧料の優

・東京都が実施する「ウェルカムカード」に参加し、外国人来館者の所蔵作品展観覧料を割引 ・国土交通省の実施する「YOKOSO! JAPAN WEEKS 2010」に参加し,外国人旅行者の所蔵作品展観覧料の割引 各館とも次のような対応を実施している。 ・共催展における音声ガイドの導入 ・館内リーフレット, フロアプラン, ミュージアムカレンダー等の配布 その他、フィルムセンターでは、展覧会の開催に際し、展示作品の出品目録の配布(4回)をするとともに、共催上映及び特別展の 開催に際し,カタログの制作を行った。 国立西洋美術館においては,開館50周年を記念して,館内ロビーでDVD「研究員が語る国立西洋美術館の50年」を放映すると 用パンフレット ちいさなアーティスト・ファイル 2010 を作成配布した。 入場料金,開館時間等の弾力化 下及び18歳未満の者の観覧料の無料化を実施した。 その他平成21年度の各館の取組は以下のとおりである。 (ア)東京国立近代美術館 ·年始は1月2日(「美術館へ行こう ~ A Day in the Museum」の実施)から開館し,図録やオリジナルグッズをプレゼ ・「ゴーギャン展」では、会期中の金・土曜を20時まで開館 ・本館・工芸館では,千代田区「さくらまつり 2010 公式ガイドマップ」持参者について「小野竹喬展」及び工芸館所蔵作品展の ・本館では、天皇陛下御在位20年を記念して11月12日を所蔵作品展・特別展の無料化 ・工芸館では、JR東日本が企画する「駅からハイキング」に参加、所蔵作品展の一般料金を割引 ・フィルムセンターでは、1日の上映回数を弾力化 ・フィルムセンターでは、「中央区まるごとミュージアム」への協力を行い、11月1日の観覧料を無料化 ・フィルムセンターでは,天皇陛下御在位20年を記念して11月12日を展示室の無料化 (イ)京都国立近代美術館 ・関西文化の日(11月14日,11月15日)の所蔵作品展観覧料の無料化 ・京都市駐車場公社と連携による駐車場料金の割引 ・天皇陛下御在位 20年を記念して 11月 12日を所蔵作品展と「ボルゲーゼ美術館展」観覧料の無料化 (ウ)国立西洋美術館 ・開館記念日(6月10日)を所蔵作品展の無料化 ・世界遺産登録活動を推進するため、1月9日から2月14日まで所蔵作品展の無料化 ・天皇陛下御在位 20年を記念して 11月 12日を常設展の無料化 (工)国立国際美術館

上映を実施する。	・「平成 21年度(第13回)文化庁メディア芸術祭」の観覧料の相互割引及び共通マップの作成・配布・公寿団体展と企画展の観覧料の相互割引・実際メトロ、都当地下核ワンデーバスによる観覧料制引・実際メトロ、都当地下核ワンデーバスによる観覧料制引・実際メトロ、和学地下核ワンデーバスによる観覧料制引・大規展で、高校生無料観覧日の設定を推進・東京都及び近隣の施設等と連携して「六本木アートナイト 2010」(3月27日(土) - 28日(日))を実施し、3月27日については、「アーディスト・ファイル 2010・現代の作家たち、及び「ルノワール・伝統と革新」の開館時間を夜10時まで延長・天皇陛下御在位20周年記念(11月12日)に「THE バブスブルク 華麗なる王家と美の巨匠たち」展の観覧料の割引 キャンパスメンバーズ制度の実施 平成18年2月より、国立美術館全体の事業として発足した、大学、短期大学、高等専門学校及び専修学校等を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」について、メンバー校は新規15校を加え59校、各館利用者数は56,123名となった。また、学生へのキャンパスメンバーズ制度周知のために、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科と連携し、広報サイト「アートキャンバス」の開設(平成21年12月17日)に協力した。 ミュージアムショップトレストラン等の充実 ミュージアムショップについては、国立西洋美術館では、開館50周年に合わせ、達成・関立の開発、国立国際美術館では、オリジナルグッズの充実のほか、企画展に合わせた連毛で、大きな手で、大きな手で、企画表に合わせた正径音楽サンレゼントなど、美術館が行う企画に参画した。レストランについては、東京国立近代美術館では、市民によるアート鑑賞団体・ブラスリラックスアートクラブ」による当館のコレクション作品を紹介する連続的な取り組み、「アフンがつご)1またちミュージアムプロジェクトブラっときんび、なにがあるかな?京都国立近代美術館では、市民によるアート鑑賞団体・ブラスリラックスアートクラブ」による当館のコレクション作品を紹介する連続的な取り組み、「アフンがのご)1まちとミュージアムプロジェクトブラコときんび、なにがあるかな?京都国立近代美術館・Vol.3:京菓子で味わう池田満寿夫の世界」に関連し、イベント期間中に池田満寿夫にちなんだ京菓子を提供した	
我が国の美術創造活動の活性化を推進す るため、「国立新美術館」を平成19年1月	国立新美術館の 開館 平成19年度限りの事項。	

2. 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示しうるナショナルコレクションの形成・継承

評定 A

中期計画通り、または中期計画を上回って履行し、中期目標に向かって順調、または中期目標を上回るペースで実績を上げている

評価のポイント

- ・運営交付金が縮減傾向にあり予算の厳しい中、各館の独自性もさることながら、5館全体の体制を確認し、機能分担を心がけるなどの方針が望ま しい。ナショナルコレクションとしては、法人内において適正な体系性を持たなくてはならない。
- ・収蔵環境については、相模原のフィルムセンターの保管場所の拡張は、極めて特筆すべき快事であるが、まだまだ不十分な状況である。ここで手 | 綱を緩めず、一層の進展を望む。

	中期目標				評価基準			主な実績及び自己評価	評定	評価委員会によるコメント
中期:画	年島恒	評価則	S	A	В	C	F		1	1

2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

国立美術館は、我が国唯一の国立の美術館として、我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションを形成し、海外の主要な美術館と交流するとともに、これらの費重な国民的財産を後世に伝え、継承していくことが必要である。このため、国立美術館は、適宜適切な収集を進めるとともに、作品の保管環境の充実につとめることとする。

(1) 各館は、美術作品の動向に関する情報収集能力と収集の機動性を高めるとともに、それぞれの役割 任務に沿って収集が管定め、これに基づき、計画的かつ適時適切な購入と寄贈・寄託の受入れを進め、体系的・通史的にパランスのとれた所蔵作品の充実を図ること。

(1)-1 以下に掲げる各館の収集方針に沿って、体系的・通史的に パランスのとれた所蔵作品の蓄積を図る。

なお、作品の収集に当たって は、その美術史的価値や意義等 についての外部有識者の意見等 を踏まえ、適宜適切な購入を図 を踏まる、

また、収集活動を適時適切に 行うために、美術作品の動向に 関する情報の入手と機動性の向 トに努める。

(東京国立近代美術館)

- 近・現代の絵画・水彩・素描 、版画、彫刻、写真等の作品、 工芸作品、デザイン作品、映画 フィルム等を収集する。
- 美術・工芸に関しては所蔵作品により近代美術全般の歴史的な常設展示が可能となるように、歴史的価値を有する作品・資料を収集する
- また、映画フィルム等については、残存するフィルムの収集に努めるとともに積極的に復元を図る。
- (京都国立近代美術館)
- 近代美術史における重要な作品など、近・現代の美術・工芸・写真・デザイン作品等を収集する。
- その際、京都を中心とする関 西ないし西日本に重点を置き、 地域性に立脚した所蔵作品の充 実にも配慮する。

- (1)-1 各館の収集方針に沿って、体系的・通史的にバランス のとれた所蔵作品の蓄積を図る、作品の収集に当たっては、 その美術史的価値も義等についての外部有識者の意見 等を踏まえ、適切な購入を図る。また、収集活動を適時適切 に行うために、美術作品の動向に関する情報の入手と機動 性の向上に解める。
- (東京国立近代美術館)
- <本館>
- 近代日本美術の体系的コレクションの充実を図る。特に次の 点に留意する。
- 1940年代以前の日本画の収集
- 1960年代から今日までのヴィデオアート等を含む映像作品の収集(パブリック・スペースへの設置作品を含む)
- 1970年代以降の日本人作家の作品の収集 <工芸館>
- 近代日本における工芸の体系的コレクションの充実を図る。 特に次の点に留意する。
- 日本工芸の近代化を示す作品の補完 戦後から現代にいたる伝統工芸やクラフト、造形的な表
- 現の重要作品の収集 近代ヨーロッパの工芸及びデザイン作品の収集 棒木直之の鍛全大作(果樹園 果宝の中の木もれ場
- 橋本真之の鍛金大作(果樹園 果実の中の木もれ陽、 木もれ陽の中の果実)(1978-1988)の収集 <フィルムセンター>
- 戦前の日本映画を中心に散逸や劣化、滅失の危険性が高 い映画フィルム、日本朝映画のうちでピネガーシンドローン や種色のまそれが強い1950年代後半から60年代の映画 イルム、同じく日本劇映画のうちで比較的収集率の低い90 年代以降の映画フィルム、デジル技術により優元れた映 画フィルム及び複製物、上映会や国際交流事業に必要な映 画フィルム、なれまで受入れのなかった会社等からの寄贈映 面フィルム、なびたら、おりにないまた。

査」によって、新たに残存が確認された映画フィルムの収集

- に努める。 なお、本年度は次の点について留意する。
- 企業等の管理下に置かれていないため、散逸・劣化の 可能性が著しい非商業映画、映画産業の枠外で製作され た日本映画等のより一層の収集
- 戦後の日本アニメーション映画を代表する作品の収集 海外との合作により製作された日本映画の優先的な収

収蔵品の収集 【定性的に評価】

(1)美術作品の収集

館名	購入点数	購入金額 (千円)	寄贈点数	年度末 所蔵作品数	年度末 寄託品数
東京国立近代美術館(本館)	132	193,682	38	10,045	224
東京国立近代美術館(工芸館)	45	31,929	59	2,921	117
京都国立近代美術館	115	270,368	63	9,679	1,055
国立西洋美術館	34	188,083	0	4,600	36
国立国際美術館	74	152,538	69	6,109	97
計	400	836,600	229	33,354	1,529

館名	購入本数	購入金額 (千円)	寄贈本数	年度末 所 蔵 本 数	年度末 寄託品本数
東京国立近代美術館(フィルムセンター)	1,194	1,259,910	1,648	62,482	8,018

ア 収集作品の特徴

(ア)東京国立近代美術館

(本館)

1940年代以前の日本画の収集 1960年代から今日までの映像作品の収集(パブリック・スペースへの設置作品を含む) 1970年代以降の日本人作家の作品の収集に努めた。

購入作品については,長年所蔵不明だった作品の吉川霊華《藐姑射之処子》,鏑木清方《晩涼》,長谷川利行《カフェ・パウリスタ》が所蔵できた。 Electronic Arts Intermix配給映像作品20点は,ヴィデオアートの歴史を語る上で欠かせない著名作品を,初めて「上映権の買取り」というかたちで収蔵した。ロバート・ラウシェンバーグ《ボテト・バッズ》は,作家逝去により価格高騰中のところ,調査に基づき適正価格で購入した。写真作品では,奈良原一高「人間の土地」他著名シリーズのマスター・ブリントをまとまったかたちで収蔵した。

寄贈作品については,藤田嗣治《ラ・フォンテーヌ頌》《動物宴》は,当館に欠けていた作家の戦後作品を補うものであり,河口龍夫《関係 質》他3点は,21年度開催の個展を機に,作家よりまとめて寄贈を受けた。

- A
- ・限られた予算のなかで収蔵品の獲得に真剣な努力が払われ、いわゆる「大物作品」の購入も実現させていることは高く評価できる。
- ・フィルムセンターは、褪色の危険 性の高い時代のフィルムの収集保管 、また、日本の実験映画に目を向け ていることは、極めて評価される。
- 【よりよい事業とするための意見】 ・現代美術は、「今、収集」しなければならない分野でもある。このためには、収集予算の拡充が強く望ま
- ・建築美術館・デザイン美術館が欠落している現体制下では、建築・デザイン領域の資料収集もそれなりに 法人として方針を立てて対処する必要がある。
- ・アーカイヴ資料も法人として取り 組むべき局面にある。

(国立西洋美術館)

中世末期から20世紀初頭に 至る西洋美術の流れの概観が可 能となるように、松方コレクシ ョンを中心とした近代フランス 美術の充実、近世ヨーロッパ絵 画の充実及びヨーロッパ版画の 系統的収集を行う。

(国立国際美術館)

日本美術の発展と世界の美術 との関連を明らかにするために 国際的な交流が極めて盛んに なった1945年以降の国内外 の美術並びに同時代の先端的な 美術を中心に、総合的な影響関 係を踏まえつつ、 体系的に収集 する

- (1)-2 所蔵作品の体系的・通史的 なバランスの観点から欠けてい る部分を中心に 客贈・客託品 の受け入れを推進するとともに その積極的活用を図る。
- (1)-3 各館の収集方針に則しつつ 、緊密な情報交換と連携を図り ながら、国立美術館全体のコレ クションの充実に努める。

(京都国立近代美術館)

我が国の近・現代において生み出された美術、工芸、建 第 デザイン 写直等で キとして美術・丁芋について 近 代日本美術史の骨格を形成する代表作及び各時期にお いて重要な位置を占める記念的作品。 近代美術史に組み 込まれていくことになる現代美術の条作を積極的に収集す るとともに 優れた写直作品の収集にも怒める あわせて名 ジャンルの欠落部分を補い所蔵作品を充実させるほか、ヴ ィデオインスタレーションなどのメディアアートの作品を引き

また、現代版画において、池田満寿夫と並ぶ同時代の重要 な版画家である吉原英雄と井田照一のまとまった数の版画 作品の受け入れを図る。さらに、故・川西英が所蔵した創 作版画作品・資料の収集を継続し、創作版画の集中的ア ーカイプの構築を目指す

京都に設置されている立地条件から 京都を中心とする 関西ないし、西日本に重占を置き 地域性に立脚した所蔵 作品の充実を図る。また、村上華岳、冨田渓仙などの収集 を継続し、京都画壇作品の充実を図る。

(国立西洋美術館)

15世紀~20世紀初頭のヨーロッパ絵画の収集に努め

ドイツ·フランドル·イタリア·フランスを中心にヨーロッパ版 画のコレクションを充実させる。

旧松方コレクション作品の情報収集を継続する。 (国立国際美術館)

日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするため 主として 次のとおり収集する

1945年以降の日本の現代美術の系統的収集(日本の 戦後美術を跡づける主要作)

国際的に注目される国内外の同時代の美術の収集(オ セアニアなど欧米圏以外の現代美術の収集) また、映像・メディアアート担当客員研究員による収集候補

作品のリストアップを行う。 (1)-2 寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、所蔵作品

展等における積極的な活用を図る。

(1)-3 各館の陳列品購入費を一部留保し、高額作品の購入 緊急な購入等に対応する。 なお、作品収集に関しては、学芸課長会議等で情報交換や 連絡調整を行う。

日本工芸の近代化を示す作品の補完 戦後から現代にいたる伝統工芸やクラフト,造形的な表現の重要作品の収集 近 代ヨーロッパの丁芸及びデザイン作品の収集 橋本直之の鍛金大作《果樹園―果実の中の木もれ陽、木もれ陽の中の果実》 (1978-1988)の収集に努めた。

購入作品については、日本工芸の近代化を示す作品の補完として富本憲吉の《白磁壺》を収蔵した。現代の伝統工芸を代表 する森口邦彦や佐々木苑子らの着物作品,陶芸の島田文雄,人形の中村信喬と岩瀬なほみら現代の伝統工芸を代表する作家の 代表作,また現代の造形的な表現による小川待子や川崎毅,平井智,北川宏人らと,一つのテーマに沿った滝口和男の24点の 小品群の陶芸作品,松島巌のガラス作品を収蔵した。3年度を通じた橋本真之の金工大型作品の購入を完了した。

寄贈作品については、重要無形文化財保持者で彫金の増田三男の戦前から晩年までの主要作品および増田が所蔵した富本憲 吉の陶芸と書の作品や、同じく保持者の染織(佐賀錦)の古賀フミの7点と木工芸の大坂弘道の代表作10点の寄贈を受け入 れた。戦後の日展をリードした金工の豊田勝秋と伊藤萌木の作品や、現代の造形的な表現の小池頌子の陶芸作品などを収蔵し

(フィルムセンター)

映画フィルムの購入作品については、上映企画に合わせ、『水俣 患者さんとその世界』(1971年)を初めとする土本典 昭監督作品 15 作品 , 『処刑の島』 (1967年) を初めとする篠田正浩監督作品 11 作品 , 『女醫の記録』 (1941年) を初めと する田中絹代出演作品 19 作品のフィルムを購入した。ビネガー・シンドロームや褪色の危険性が高い 1950 年代後半から 60 年 代にかけての作品については、新東宝作品や加藤泰、千葉泰樹監督作品等を重点的に収集した。また、戦後の日本アニメーシ ョン映画のメインストリームとなった東映動画時代の作品で,未収蔵作品のプリント13本を購入し,アニメーション映画の コレクションの充実を図ることができた。

このほか、また、日本の実験映画の嚆矢と言える松本俊夫監督の『銀輪』(1955年)についても、全篇デジタル復元を行 うとともに、三色分解による白黒ネガへの保存、及びその白黒ネガから再度スキャニングしたデータによるデジタル上での三 色合成を試み,復元の成果を相互に比較した。

寄贈された映画フィルムについては,葵映画合資会社,株式会社吉甚等,日本劇映画,文化・記録映画の製作会社からの原 版寄贈に加え、鳥類研究で著名な財団法人山階鳥類研究所、戦後ソビエト映画の輸入・紹介を務めてきた日本ユーラシア協会 等から,可燃性フィルムを含むユニークなコレクションを受け入れたことが大きな特徴である。また,一般社団法人芸游会か らは、田中絹代のアメリカ旅行を記録した貴重なフィルムの寄贈を受けた。

映画関連資料の寄贈については、女優香川京子氏所蔵のアルバムほか 220 点が寄贈されたこと、株式会社 IMAGICA 東京映像 センターよりアメリカ映画テレビ技術協会機関誌「SMPTE Journal + 419 点を受領したことがもっとも特筆される。

(イ)京都国立近代美術館

所蔵の近代美術作品の系統的展示の要となる優品を重点的に収集するとともに、旧川西コレクション、アイリーン・ス ミス・コレクションなど、長年続けている重点作品の購入を継続し、メディアアートの作品の収集にも留意するとの方針 に基づき収集を行った。

購入作品については、日本画家・土田麦僊が旧蔵していたオディロン・ルドン「若き日の仏陀」を本部留保金を活用する ことで購入した。また、今年度開催した「ウィリアム・ケントリッジ-歩きながら歴史を考える そしてドローイングは 動き始めた……」展の核となるヴィデオインスタレーションの最新作を購入した。

寄贈作品については、明治期京都の重要画家である田村宗立の日本画5点の寄贈、国画創作協会の中心画家である岡本神 草の資料多数,1960年代世界的規模で展開された前衛美術家たちの運動「フルクサス」の資料多数などの寄贈を受けた。

(ウ)国立西洋美術館

当館の近代美術コレクションの幅を広げるため,20世紀初頭の重要な美術動向を代表する絵画作品を収集する。また,オラ ンダ,フランドル,フランスを中心に,ヨーロッパ版画コレクションの充実に努めるとの方針に基づき収集を行った。 購入作品については,20世紀初頭の重要な美術動向であるキュビスムを代表する作品として,ジョルジュ・ブラックの絵画 《静物》を購入した。

(工)国立国際美術館

日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするため、 1945年以降の日本の現代美術の系統的収集(日本の戦後 美術を跡づける主要作) 1945 年以降の欧米の現代美術の系統的収集(オセアニアなど欧米圏以外の現代美術の収集) 国際的に注目される国内外の同時代の美術の収集を行った。

購入作品については,荒川修作,工藤哲巳など,日本の戦後美術を代表する作家の作品を収集した。また,平成 19 年度に 当館で個展を開催したオーストラリアの画家エミリー・カーメ・ウングワレーの作品《私の故郷》を収蔵したことにより , 欧米地域以外のオセアニア地域の現代美術を収集することができた。

寄贈作品については、フルクサスの中心メンバーである塩見允枝子氏から、同氏が長年保管してきたフルクサス及びジョー ジ・マチューナスなどの代表的作品や資料について纏めて寄贈を受けた。また、すでに寄贈作品を多数所蔵している横尾忠 則の近年制作されたポスターを受贈した。

(2) 収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応を図り、所蔵作品全体を適切な保存と管理環境下に置き、それらを適切に 後世へ継承すること。 (2)-1 国民共有の貴重な財産であ (2)-1 保存施設の狭隘・老朽化への対応に取り組む。 収蔵品の保管・ (2)収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応と適切な保存環境の整備等 ・収蔵庫の狭隘化という現実のなか る美術作品を永く後世に伝える 国立美術館が所蔵する美術作品 映画フィルム 図書資 管理 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応 で、最大限の努力がなされている。 料等の増大に対応するため 相横原線保地の活用について とともに、展示等の美術館活動 【定性的に評価】 彫刻作品の地震対策では、西美の実 ア 東京国立近代美術館 相模原市等関係機関との検討・協議を行うなど、収蔵施設・ の充実を図る観点から、収蔵庫 設備等の拡充について検討する 等保存施設の狭隘・老朽化への 本館では、収蔵庫の狭隘化により作品が集密化し、空調の不徹底や虫害の発生を防ぐため、定期的な清掃等を行い、 験に基づく対応がとくに評価される フィルムセンターでは、前年度に引き続き、民間倉庫会社 対応に積極的に取り組む 、また、フィルムセンター相模原分 その解消に努めた。 や映画製作会計等と情報交換を行うとともに 国外の同種機 (2)-2 環境整備及び管理技術の向 館の拡充計画が補正予算として認知 関における保存施設を視察することにより、収蔵施設の拡充 東京国立近代美術館を含め,国立美術館の収蔵庫が今後数年で限界に達することが見込まれることから,東京国立近代 上に努めるとともに、展示作品 と設備内容に関する調査を進める。 された。関係者の努力を高く評価す 美術館フィルムセンター相模原分館に隣接する「キャンプ淵野辺留保地」の利用について相模原市,宇宙航空研究開発 の防災対策の推進・充実を図る る。 (2)-2 引き続き、東京国立近代美術館本館において、老朽化 機構及び東京国立近代美術館の3者で将来的な利用計画についての協議を進めている。 した空調用設備の更新及び改修工事を行い、保存・管理環 工芸館では、平成 21 年度は購入・寄贈 104 点、寄託 4 点の大量の新収蔵を受け入れたが、そのうち陶芸、ガラス、 境の整備を図る。 【よりよい事業とするための意見】 人形で7点の大型作品があったため,床面での積み重ねを行い対処した。 ・収蔵庫の狭隘化と老巧化対策は、 フィルムセンターでは、平成 21 年度補正予算で相模原分館増築が認められたことを受け、「東京国立近代美術館フ 国民の文化資産を守るという意味か ィルムセンター相模原分館増築工事に伴う設計業務選定委員会」を設置し、プロポーザル方式により設計業者を決定す らも緊急な課題である。各館の努力 ることともに基本設計及び実施設計を完了した。 は、現有施設への改修や工夫に留ま っており、東近美工芸館ほか、収蔵 イ 京都国立近代美術館 庫施設の狭隘化・老朽化が著しい。 資料等の収納を可能とするため,地階準備室、倉庫1、倉庫2の改修工事を実施した。 工芸館はデザイン美術館としての機 能をもつべきで、その点でも改善が ウ 国立西洋美術館 望まれる。引き続き、必要性を客観 平成 21 年度は,前年度に実施された新館空気調和機更新工事の竣工にともない,空調設備の安定化及び収蔵庫内の躯体 的なデータにもとづき説明していく 劣化の修繕を行い、収蔵庫内の環境を改善することができた。しかし、常設展示室の一部閉室等に伴って多数の作品を収蔵 必要がある。 庫へ収める場合には、絵画ラックの面積不足が問題となるため、旧来のS管に換え地震対策も含めた新たなフックを導入 し,ラックに2段3段と重ねて収蔵することにより面積不足を解消した。また,彫刻類を効率よく収蔵するために彫刻固定 ・収蔵庫を別敷地に新設の場合は、 用鉄骨ラックを設置した。 将来計画を含め運営について研究員 らの意見を十分取り入れることが欠 工 国立国際美術館 かせない。 既に収蔵スペースの許容量に達している状況であるが、収納方法を工夫し作品の保存環境を維持している。 保存環境の整備等と防災対策の推進・充実 ア 東京国立近代美術館 (本館・工芸館) 収蔵庫エリアへのアクセスに関する徹底した制限,可燃物の管理等を行った。 (フィルハヤンター) 消防用設備,自家発電設備など定期点検を実施し,点検により判明した不活性ガス消火設備,蓄電池設備などの老朽箇所 の修理を行った。 イ 京都国立近代美術館 平成21年9月28日に消防署指導のもとで避難誘導訓練・消火訓練を実施した。 ウ 国立西洋美術館 平成 19 年度から継続して屋内彫刻免震化すべり板装着作業を行った。6月に免震滑り板の加震実験を愛知工業大学で行 い,すべり板を装着することで,阪神大震災,新潟中越地震で記録された地震波にも転倒しないことが確かめられた。ま た、7月にはJ・P・ゲッティ美術館との共催で、国際シンポジウム「博物館コレクションの地震対策」を開催した。 工 国立国際美術館 火災発生時の適切な避難誘導,初期消火にあたるため,職員,警備員,看視員等による全館避難訓練を実施した。

(3)各館の連携を図りつつ、所蔵作品につること。	いての修理、修復の計画的実施により適切な保存を行い	、適切に後世へ継承す			
(3)修理・修復に関しては、各館の連携を図りつつ、外部の保存科学の専門家等とも連携して、所蔵作品の保存状況を確実に把握し、修理・修復の計画的実施に努める。	(3) 所蔵作品の保存状況について、各館の連携・調整を行い、特に緊急に処置を必要とする作品について重点的に修理・修復を行う、東京国立近代美術館本館では、保存科学と修復に関する外部の専門家との定常的な連携を引き続き進め。もた、作品移動時の梱息・輸送に関いて専門のアドバイスをあおく体制を整えるなど、連携を拡大する。東京国立近代美術館工芸館では、引き続き、緊急度の高い染繊維た温を芸作品等の現状保存修復を行う、人形作品の現状を調査と保存修復の方法を検討する。フィルムセンターでは、現存する日本最上の映画作品「紅菜羽」について、前年度の比較テストを踏まえ、全篇復元を行う。京都国立近代美術館では、引き続き将来開催于定のリビッリアル美術協会展、出品候補作品の日本画の修復作業、及び藤田嗣治作「横たわる模場、への低及射ガラスの装著・寄贈を受けた須田国太郎洋画作品の始復・観光を行う、国立四馬美術館では、前年底に引き続きの連続を行う、国立四馬美術館では、計算に同き続きの作品を中心に保存修復処置を行う。国立四時美術館では、前年底に引き続きの作品を中心に保存修復処置を行う。国立四馬美術館では、洋画「ヴォルス)、版画作品(日和崎尊夫、マルセル・ブロータース、川保正)と彫刻作品(日原友明)などの保存修復処置を行う。	収蔵品の修理【定性的に評価】	(3)所置作品の修理・修復 東京国立近代美術館 絵画 13件,工芸 4件,映画フィルムデジタル復元 13本,ノイズリダクション等 271本,不燃化作業 42本,映画フィルム洗浄 1本 (本館) 山元春学 (塩原の奥) および験見玉枝(桜花図鑑)について,修復方針の提案内容を詳細に比較する「企画競争入札」を行い,業者を決定した。また、新発見作品である福沢一郎 (メトロ工事人) (人),カまび長谷川利行 (カフェ・パウリスタ)については、損傷が激しかったため,技法調査を行うとともに修復を実施した。 (工芸館) 平成 20年度から着手した。現状保存及び修復の緊急度の高い志村ふくみの紬雌作品のうち 2 点のシミと微、汚れの除去,洗い謎り、裏地の交換等を行った。漆芸では、特に公開等の活用頻度が高く漆の劣化やすり傷が自立った松田権六の節箱 2 点の保存修復を変施した。 (フィルムセンター) 映画初の重要化材料定を受けた *紅葉狩ュ (1899年、柴田常吉撮影)について、スキャニングする素材として白黒マスターポジとカラーマスターボジの一種類を使用し、デジタル修復を行った結果の違いを相互に比較しながら、全篇デジタル復元を施した。 市川屋監督・幸福。(1981年)について、上映用プリントの現像において、温度、速度を微妙に調整しながらカラー現像、白黒現像を連続して行うことで、独特な発色をもたらず「シルバー・カラー」という技法を、当時の現像プロセス自体を再現することで、限りなく忠実な復元を行った。また、日本の実験映画の場欠といえる松本俊夫監督 *銀輪。(1955年)について、デジタル修復後のデータをカラーネガで保存・復元する従来のデジタル復元を放た加入、修復後のデータを三色分解して白黒ネガに保存したのち、合う人はアリントを作成するアナログ三色分解版、及び三色分解ネガを再びスキャニングし、デジタル上で三色合成したのち、カラーネガで保存・復元するジタルを合成版を作成し、カラーの再現性や保存性に関する比較研究を行いながら、全画デジタル復元を施した。 中奈川県茅ヶ崎にあった結疾療養所・南湖院に保管されていた。*大禮記念 国産振興東京博覧会。(1928年)等戦前の日本劇映画、文化・記録映画の可効性プリント10本について、不燃化作業を行った。 京都国立近代美術館 絵画 4件、水彩 1件、素描 2件 頻繁に展覧会への出品受護が命じまができ、静外の展覧会への出品依頼に対応できるようになった。 国立西洋美術館 絵画 4件、水彩 1件、素描 7件、版画 3 件 版画 3件、水彩 3件、素描 7件、版画 3 件 版画 3件、水彩 3件、素描 7件、版画 3 件 版画 7件、素描 7件、版画 7件、版画 7件、版画 7件、影画 7件、版画 7件、影画 7件、影面 1件 版画 条描などの修復のほか、大型の彫刻作品「遠藤利売(寓話 - ゼーレの棺》 1985年」の修復を行った。	A	・作品の修復に関して公開すべき作品を優先的に処置している点が評価される。 ・フィルムセンターで映画初の重要変文化財指定「紅葉符の対象」の修理がなされ、他館への貸きる。 【よりよい事業とするための意見】、・映画フィルムのデジタルを選するための復元がいた点が評価できる。 【よりよい事業とするための復元は緊急度が高い、作品深など世界のではなどである。 ・近・現代の作品の修復について検討することが望ましい。
(4) 収集・保管・修理等を行うために必要な に反映させること。	な調査研究を計画的に行い、その成果を国立美術館の業	務の充実、文化の振興			
(4)各館の方針に従い、所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究を計画的に行い、その成果を業務に反映させる。 なお、実施に当たっては、国内外の博物館・美術館等及び大学等の機関とも連携を図るものとする。	(4)国内外の博物館・美術館、大学等と連携以、所属作品や 関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究を 実施し、その成果を繋制と反映させる。 東京国立近代美術館工芸館では、山口県立萩美術館・ 浦上記金館や大阪市立近代美術館建設権を経ってや12の イーストアングリア大学等と、陶芸並びに近代デザイン作品 の調査を実施し、収集・保管と展示に関する研究を行う。 フィルムセンターでは、映画フィルムの登録・長朋保管・保 存、アナログ及びデジタル技術を活用した復元に関する調査研究(存入 、大中ログ及びデジタル技術を活用した復元に関する調 直研究(ド月本会員、国内外の同様観問、美術館・博物館、吹像機器メーカー、現像所等との共同 研究(を行う)、京都国立近代美術館では、客員研究員の指導のもとに 写真作品の部理候等システム再編成を調査研究し、安全で 迅速な利用態勢を整える。 田立国際美術館では、作品修復に詳しい者を学芸課 研究権任度として採用し、修復・保管に関する体制の構築に 向けて検討開始する。	収集・保管のための調査研究 【定性的に評価】	(4)美術作品の保管・修理等に関する調査研究 各館における調査研究の実施状況は,以下のとおりである。 ア 東京国立近代美術館 (本館) (ア)所蔵作品に関する調査研究 「寝る人・立つ人・もたれる人―萬鉄五郎の人体表現」(『東京国立近代美術館研究紀要』第13号所収)は,当館所蔵の重要文化財《裸体美人》に関する研究論文をもとに,平成21年度は最新の研究成果をわかりやすく一般の来館者に伝える試みとして,コレクションによる小企画「寝るひと・立つひと・もたれるひと」を開催し,小冊子を作成した。他にコレクションによる小企画「永洛考」、特集展示「坂本繁二郎」「油彩技法から見た近代日本絵画」「小林和作」「須田国太郎」、新企画「テーマで歩こう 庭―画家の小宇宙」など,すべて所蔵作品の研究成果に基づき展示を行ったものである。特に「油彩技法から見た近代日本絵画」は修復家との密な連携という点,「庭―画家の小宇宙」は新たな展示・解説手法の開発という点において,それぞれ大きな成果をあげた。	A	・各館とも、コレクションの特性を 踏まえた着実な調査研究が実施され ている。また、東近美の「寝る人・ 立つ人・・」展や論文発表などを通 じて、その成果が発表されている。 またフィルムセンターにおいても、 デジタル復元やカラー復元など、研 究成果はあがっている。アーカイヴ 資料の観点と調査研究上の対応もほ ぼ定着したと評価する。

山元春挙《塩原の奥》および跡見玉枝《桜花図鑑》については、修復方針を外部の有識者とともに詳細に検討し 【よりよい事業とするための意見】 ・メディアアートは、作品によって た。また昨年収蔵した福沢一郎《メトロ工事人》《人》,および今年度収蔵した長谷川利行《カフェ・パウリス タ》につき、修復家の協力のもと、技法調査および大規模な修復を行った。 靉光《眼のある風景》につき東京文化 は「再現・再生装置」それ自体の保 存と修理が必要な場合があり、「古 財研究所と赤外線写真撮影による調査を,荻原守衛《女》につき東京藝術大学と電子測定による像内部の調査を, き時代の最新メディア」のための将 それぞれ協力して行った。新海竹太郎《ゆあみ》の石膏原型(重要文化財)については,修復家の協力のもと,経 来計画も必要である。また、現代美 年による劣化に対処する保存・展示活用方法の研究を行った 術作品のなかには、そもそも「堅実 (ウ)所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映 な保存を拒否」するかのような素材 「70年代美術における『しみ』の意味」「素描における触覚性」「負の造形」については、それぞれコレクショ も含まれる。こうした作品の修理・ ンを中心とした小企画として平成22年度に展示を行い,小冊子を作成するため,その準備に着手した。また,福 保存体制確立のために、海外の事例 沢一郎《メトロ工事人》および《人》,長谷川利行《カフェ・パウリスタ》,靉光《眼のある風景》,新海竹太郎 研究も必要である。 《ゆあみ》については,それぞれ平成22年度に詳しい解説を付した特集展示を行うために準備を開始した。 ・フィルムセンターにおける調査研 (工芸館) 究についてはデジタル化保管自体も (ア)所蔵作品に関する調査研究 問題となるため、それらの設備・フ 陶芸,染織に続き所蔵作品による名品集を企画し,人形作品の研究を行い『工芸館名品集-人形』を刊行した。 ォーマットなどを視野に入れておく 毎年実施している工芸館所蔵作品巡回展に加え、東京・銀座の和光ホールにおいて所蔵の工芸名品展を企画し、開 必要がある。 催に向けて出品作品の調査を行った。 (イ)保管・修理に関する調査研究 平成 19・20・21 年度に新収蔵した木村雨山の帝展出品等の戦前の壁掛作品および戦後の日本伝統工芸展出品等 の友禅の着物作品と、順次保存修復を実施している志村ふくみの紬織作品、友禅の森口華弘作品については、将来 の活用が特に見込まれる重要な作品などであるため、シミや黴等の点検・調査研究を行い現状保存修復についての 計画策定を図った。 (ウ)所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映 所蔵作品 41 点による『工芸館名品集―人形』を刊行した。巡回展「東京国立近代美術館工芸館名品展」を飛騨 高山美術館で開催し、また東京・銀座の和光と連携した所蔵作品による「工芸名品展」を企画・開催した。 (フィルムセンター) (ア)所蔵作品に関する調査研究 ・昭和戦前・戦中期の日本文学と日本映画の関係に関する調査研究 ・日本のジャンル映画(怪獣映画,SF映画等)に関する調査研究 ・山中貞雄監督に関する調査研究 ・映画女優田中絹代に関する調査研究 ・大島渚監督に関する調査研究 ・篠田正浩監督に関する調査研究 ・ドキュメンタリー映画監督土本典昭に関する調査研究 ・戦前期のハリウッド映画に関する調査研究 ・シルバー・カラー作品『幸福』とその技術、時代背景の調査研究 ・戦後フランス映画とそのポスター,フランスのグラフィック芸術,また戦後フランス映画の日本への紹介に 関する調査研究 (イ)保管・修理に関する調査研究 <映画フィルムの保管に関する調査研究> ・フィルムの検査結果のデータ化に関する研究 ・フィルム検査において必要な画像取り込みシステムに関する研究 ・小型映画のフィルム検査に関する研究 <映画フィルムの修理に関する調査研究> ・デジタル復元におけるフィルム素材の選択に関する研究 ・カラー復元における三色分解ネガからのアナログ合成及びデジタル合成に関する研究 ・カラーフィルムの特殊現像処理である「シルバー・カラー」に関する研究 ・着色技法の一つである調色に関する研究 ・8 mmフィルムの復元に関する研究 <映画関連資料に関する調査研究> ・展覧会「戦後フランス映画ポスターの世界」の開催を踏まえて、展示されるポスターの簡易修復 ・平成 20 年度に開始されたプレス資料のリスト化を進め,過去に寄贈されたプレスシート・チラシ・試写状といっ たさまざまな形態を持つプレス資料の整理 ・アニメーション作家の大藤信郎をはじめ複数の映画人の個人資料のカタロギング (ウ)所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映 <映画フィルムの保管における反映> ・「フィルム調査カード」及び「プリント報告書」の更新,プリントの取り扱いに関する仕様マニュアルの作成に反 映した。 ・KEM 社製編集台への画像取り込みシステムの付設に反映した。 ・寄贈受入予定の小型映画フィルムの検査に反映した。

* (根野イルルのの壁形の) の金牌プラルは東北区域した。		
** ・	<映画フィルムの修理における反映>	
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	· 『紅葉符』(1899 年)の全篇デジタル復元に反映した。	
・ 等等は、(1961年)の現まプロセス特別による「シルバー・カー」の開売に表映した。 ・ 予認と対し版は、(1961年)のは1970年)のではフナルは関フィルムの股元に戻した。 ・ 予認と対し、		
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
・・ 「おの回込が代本所能 (ア) 用面が記に関する例を1997かり申申申のフィリムの情元を映した (ア) 用面が記に関する例を29 (ア) ア) ア		
(ア) 所容的品に関する場所である。 (ア) 所容的品に関する場所であった所能であった所能であった所能であった所能であり対しまして、 動物を作り、中央であったが、主義間であった所能であった所能であった所能であった。 (イ) 保管・保健に対するが虚似が、 対象を特別である。 (日本 会議とは、対象を対し、 (イ) 保管・保健に対するを強力である。 (イ) 保管・保健に対するを強力である。 (イ) 保管・保健に対するを強力で、 (イ) 保管・保健に対するを強力で、 (イ) 保管・保健に対するを強力で、 (イ) 保管・保健に対するを強力で、 (イ) 保管・保健に対するが強力で、 (イ) 保管・保健に対するが強力で、 (イ) 保管・保健に対するが強力で、 (イ) 保管・保健に対するが強力で、 (イ) 保証・保証・(イ) の (イ) 保証・(イ) の (イ) の		
(7) 所由作品に対する報義研究 服务中品中保持を含めながら来歴年であった所属作品の分解特別 (その物) および資料。機能を全地がした一部で、機能が出ている。 (4) では、機能が出ている。 (4) では、機能が出ている。 (4) では、機能が出ている。 (4) では、機能が出ている。 (4) では、機能が出ている。 (4) では、 (4)		
(7) 所由作品に対する報義研究 服务中品中保持を含めながら来歴年であった所属作品の分解特別 (その物) および資料。機能を全地がした一部で、機能が出ている。 (4) では、機能が出ている。 (4) では、機能が出ている。 (4) では、機能が出ている。 (4) では、機能が出ている。 (4) では、機能が出ている。 (4) では、 (4)	イ 京都国立近代美術館	
調査作品や資料を含みなが、未認定であった形態性の分類が別(その他)をは資子の内容的、 ・ 関本を行うの内容的、	(ア)所蔵作品に関する調査研究	
類態を行い、作品データの研修。	, ,	
(イ) 経営・保管に関する経典研究		
「写真を明りたするを最高研究の他力を包て、写真作品の保護種類の設理・体系化については世界でした。さらに次		
毎原は、販売を中心とするグラフィック関係の問題や品約 1,000 からなる 1 旧表別国コレクションの関係です あ、授作や研究に向いてのできませい。またの企業を行い、表生物に即する 8 改進に関する 9 公司 2 公司		
の、教理や局所に向けての局談等の作業を行い、展覧会制化の学業、及び収益品のカウログの線線に書字を、(ク) 所属作品や制度する機能の表現。		
(2) 所書所伝や問題等 26例の表謝品及び保管、特性に関する資料を対象、例の表所的素質 14 / 下温作品		
所属中品類別(その他)上で贈する研究成果を、展覧会「マイ・フェイパリット・とある美術の検索目録/所蔵作品 から、として成く知識を書かる別用美田銀コレクションに関する関数の刊行準備に入る。 ウ 国立西洋美術館 (ア) 所書併品に関する調査研究 ・旧形のコレクションをを改称カコレクションをは断する調査研究 ・旧形のコレクションを改称がカコレクションをは関する調査研究 ・旧形のコレクションを改称がカコレクションをは関する調査研究 ・用面類面呼品に関する調査研究 ・ルーコルビュジェによる国立西洋洋美術館を総の起計に関する調査研究 ・ルーコルビュジェによる国立西洋洋美術館を総の起計に関する調査研究 ・フラン・ファング・アング・スとと称カコレクションに関する調査研究 ・フラン・ファング・アング・スとのカコレクションを以下のよりの特料および技法に関する調査研究 ・フラン・ファング・アング・スとのカコレクションに関する調査研究 ・フラン・ファング・アング・スとのカログ・ターを表現研究 ・フラン・ファング・アング・スとの対面が、クラ・(アロススとア・ル) の特料および技法に関する調査研究 ・カング・アング・アング・アング・アング・アング・アング・アング・アング・アング・ア		
から、として広く公開し、全てを開催する回路を「京都回立近で素所館・所蔵作品目録」。として刊行した。さら に図を予すかる川高英田県 フクラションに関する図録の刊行準備に入る。 7 回立西洋条杆館 (7) 所能計品に関する認識研究 ・中世末期から 20世紀刊版の西洋条件に関する調査研究 ・中世末期から 20世紀刊版の西洋条件に関する調査研究 ・ 中世末期から 20世紀刊版の西洋条件に関する調査研究 ・ ル・コルビュジエによる固立西洋条件総合権の設計に関する調査研究 ・ アレ・コルビュジエによる固立西洋条件総合権の設計に関する調査研究 ・ アレ・コルビュジエによる固立西洋条件総合権の設計に対して多度が、これらが発電性能を発揮するかなど (イ) 保存・保証に関する調査研究 防災対策上、成り彫刻などが作前しないために、関係すべり板を付けてきたが、これらが発電性能を発揮するかなど について、多くの条件の影響の表が作前しないために、対応の手能は終析として用い、参加工業大学和需実験センターで、非本表別の指導の下、JM A A P P P 2 を J を P 2 を J 2 を		
に収蔵をすすめる川西東日曜 (ア) 所政作品に関する調査研究 - 旧総方コレクションを含む抗力・ - 旧総方コレクションを含む抗力・ - 旧総方コレクションを含む抗力・ - 旧総方コレクションを含む抗力・ - 旧総方コレクションを含む抗力・ - 田本規約から 回車西西洋美術館本館の設計に関する調査研究 - 中世末期から 回車西西洋美術館本館の設計に関する調査研究 - 小田ル位コシエロ - 西庭西西洋美術館本館の設計に関する調査研究 - ルーカル位コシエレフ・ - アレッカナーラ (フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・フ・		
(ア) 所属作品に関する調査研究 ・旧松方コレクション全体に関する調査研究 ・田松方コレクションを含ながたコレクション全体に関する調査研究 ・中世末期から 20世紀可期の間洋薬杯に関する調査研究 ・ル・コルビュジエによる回立面洋薬杯館を頼の設計に関する調査研究 ・ル・コルビュジエによる回立面洋薬杯館を頼の設計に関する調査研究 ・ル・コルビュジエによる回立面洋薬杯館を頼の設計に関する調査研究 ・ル・コルビュジエによる回立面洋薬杯館を頼の設計に関する調査研究 ・アレッサンドロ・ペドリ・マッツォーラ(フェヌスとアモル)の材料および技法に関する調査研究 ・アレッサンドロ・ペドリ・マッツォーラ(フェヌスとアモル)の材料および技法に関する調査研究 ・所以対策上、国内等別などが信頼しないために、簡易すべり販を付けてきたが、これらが意理性を発揮するかなど について、実のの業所館・博物館の床に用いられている原来を直接をして用い、夏如工業大学部備実験センター で、海木製造の指導の下、、1MA小ド・台談、AMA・内帯に接ていた。 また、所蔵作品の無菌技法の参考とするため、点器的な色をサンプルを自発結構技法に従って作成とした。 とストルフィでのコンズレーア影の研究所は原本に同じて、プロンズ政のフレールで作品を囲み、裏面を教育で構造して重に固定する方法を音楽レ、フレームの耐作を行った。 (ク) 所蔵作品の無菌技法の参考とするため、1世紀・大学のフレールで作品を囲み、裏面を教育で構造して重に固定する方法を音楽レ、フレールの耐作を行った。 ・他のようには関する調査研究の成果として、小企画展「所成水学、素温展、核ガコレクションとその後、を実施した。 ・所成態部件部に関する調査研究の成果として、企画展「かたちは、うつる・固立西洋業样前所違近面属、を実施した。 ・ル・コルビュジエによる国立西洋業杯館本館の設計に関する調査研究の成果として、小企画展「アランク・ブラングインと と国立西洋業務館、を実施した。 ・フランク・ブラングインと能方コレクションに関する調査研究の成果として、企画展「アランク・ブラングイン 展、を実施した。 エ 国立国際実術館 (ア) 所商作品に関する調査研究 所商作品の言う、機関を明 マルーネ・デュマス、ライアン・ガンダー、杉戸洋、村瀬恭子、売川修作の作品を 取り上げて関連が発生行い、頼に展覧ので開発を行った。 (イ) 疾等、修理に関する研究を行い、頼に関する音楽を行った。		
・旧松夫田から世外別の西部美米和に関する調査研究 ・中世末即から世外別の西部美米和に関する調査研究 ・所蔵師作品に関する調査研究 ・所蔵師作品に関する調査研究 ・ルーカルではよる国立西学業者権能本館の担託に関する調査研究 ・フランク・ブラングインと松方コレクションに関する調査研究 ・フレッサンドロ・ベドレ マッシェラ (ウェススとアモル)	ウ 国立西洋美術館	
・旧松夫田から世外別の西部美米和に関する調査研究 ・中世末即から世外別の西部美米和に関する調査研究 ・所蔵師作品に関する調査研究 ・所蔵師作品に関する調査研究 ・ルーカルではよる国立西学業者権能本館の担託に関する調査研究 ・フランク・ブラングインと松方コレクションに関する調査研究 ・フレッサンドロ・ベドレ マッシェラ (ウェススとアモル)	(ア)所蔵作品に関する調査研究	
・所定数に高性ない。 ・	・旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究	
・ル・コルピュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究 ・フレッサンドロ・ベル・ ・ アレッサンドロ・ベル・ ・ アレッサンドロ・ベル・ ・ 「	・中世末期から 20 世紀初頭の西洋美術に関する調査研究	
・フランク・フラングィンと松方コレクションに関する調査研究 ・アレッサンドロ・ペドリ・マッツューラ(ウェヌスとアモル)の材料および技法に関する調査研究 (イ)保存・修復に関する調査研究 助災対策主、原内総別などが転間しないたのに、開助すべり板を付けてきたが、これらが免離性能を発揮するかなど について、多くの実格師・博物館の床に用いられている床材を試験材として用い、愛知工業大学耐震実験センター で、青木教授の指導の下、JMA小干谷波、JMA 神戸波を入力し、加震実験を行った。 また、所護作品の診断技法調査の参考とするため、古書のな色多のサンブルを古典絵画技法に従って作成した。 ビストルフィ作のプロンズレリーフ彫刻の将来的な展示に向けて、プロンズ製のフレームで作品を囲み、裏面を鉄骨 で補強して壁に固定する方法を考案し、フレームの制作を行った。 (ウ)所護作品や関連する館外の表情品及び保存・修復に関する調査研究成果の美術館活動への反映 ・松方コレクション全体に関する調査研究の成果として、小企画展「所蔵水彩・素指展・松方コレクションとその 後、を実施した。 ・ 所蔵版画作品に関する調査研究の成果として、企画展「かたちは、うつる・国立西洋美術館所蔵版画展」を実施した。 ・ ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究の成果として、小企画展「ル・コルビュジエと国立西洋美術館」を実施した。 ・ フランク・ブラングィンと称方コレクションに関する調査研究の成果として、企画展「フランク・ブラング・ブラング・ブング・フンピカコレクションに関する調査研究の成果として、企画展「フラング・ブラング・ブラング・ブング・フンピカコレクションに関する調査研究の成果として、企画展「フラング・ブラング・ブラング・ブラング・ブンピカコレクションに関する調査研究の成果として、企画展「フラング・ブラング・ブラング・ブラング・ブラング・ブラング・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア	・所蔵版画作品に関する調査研究	
・アレッサンドロ・ペドリ・マッツォーラ(ウェヌスとアモル)の材料および技法に関する調査研究 (イ)保存・修復に関する調査研究 防災対策上,屋内彫刻などが転倒しないために、簡易すべり板を付けてきたが、これらが免責性能を発揮するかなど について、多くの美術館・時時節の床に用いられている尿体を試験材として用い、愛知工業大学所置実験センター で、高木教授の諸館のト、JMAハード合渡、JMA A神戸波を入力し、加度実験を行うた。 また、所蔵作品の絵画技法調査の参考とするため、古典的な色彩のサンブルを古典絵画技法に従って作成した。 また、所蔵作品の絵画技法調査の参考とするため、古典的な色彩のサンブルを古典絵画技法に従って作成した。 ビストルフィ作のプロンズレリーフ影の特を行うた。 (ウ) 所蔵信品や開連する方法を考案し、フレームの制作を行うた。 (ウ) 所蔵信品や開連する経外の美術色及び保存・権信に関する調査研究の成果と美術館活動への反映 ・松方コレクション全体に関する調査研究の成果として、小企画展「所蔵水彩・業描展・松方コレクションとその 検」を実施した。 ・ 所選版画作品に関する調査研究の成果として、企画展「かたちは、うつる・国立西洋美術館所蔵版画展」を実施した。 ・ ル・コルビュジエによる国立西洋美術館・を実施した。 ・ フランク・ブラングインと松方コレクションに関する調査研究の成果として、小企画展「フランク・ブランヴィン として、クランク・ブラングインと松方コレクションに関する調査研究の成果として、企画展「フランク・ブランヴィン 展」を実施した。	・ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究	
(イ)保存・修復に関する調査研究 防災対策上、属内彫刻などが転倒しないために、開易すべり板を付けてきたが、これらが免悪性能を発揮するかなど について、多くの美術館・博物館の床に用いられている床材を試験材として用い、愛知工業大学耐震実験センター で、青木教授の指導の下、JMA小千谷波、JMA神戸波を入力し、加震実験を行った。 また、所蘇作品の協画技法調査の参考とするため、古典的な色彩のサンブルを主義組画技法に従って作成した。 ビストルフィ作のプロンズレリーフ彫刻の将来的な展示に向けて、プロンズ製のフレームで作品を囲み、裏面を鉄骨で補強して壁に固定する方法を考集し、フレームの制作を行った。 (ウ)所蔵作品や開連する館外の美術品及び保存・修復に関する調査研究成果の美術館活動への反映 ・ 松方コレクション全体に関する調査研究の成果として、小企画展「所蔵水彩・素描展・松方コレクションとその 後、を実施した。 ・ 所蔵医師作品に関する調査研究の成果として、企画展「かたちは、うつる・国立西洋美術館所蔵成画展」を実施した。 ・ ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究の成果として、小企画展「ル・コルビュジエと国立西洋美術館」を実施した。 ・ フランク・ブラングィンと松方コレクションに関する調査研究の成果として、企画展「フランク・ブラングィン 展」を実施した。 ・ フランク・ブラングインと松方コレクションに関する調査研究の成果として、企画展「フランク・ブラングイン 展」を実施した。 ・ アラング・ブラング・スと松方コレクションに関する調査研究の成果として、企画展「フランク・ブラングィン 展」を実施した。 ・ アラング・アラング・アラング・アラング・アラング・アラング・アラング・アラング・	・フランク・ブラングィンと松方コレクションに関する調査研究	
防災対策上、屋内彫刻などが転倒しないために、簡易すべり板を付けてきたが、これらが免責性能を発揮するかなどについて、多くの美術館・博物館の床に用いられている床林を試験材として用い、愛知工業大学耐震実験センターで、青木教授の指導の下、JMA小干谷波、JMA神戸波を入力し、加震実験を行った。また、所蔵作品の绘画技法調査の参考とするため、古典的な色彩のサンブルを古典絵画技法に従って作成した。とストルフィ作のプロンズレリーの彫刻の将来が配展ぶに向けて、プロンズ製のフレームで作品を囲み、裏面を鉄骨で補強して壁に固定する方法を考案し、フレームの制作を行った。 (ク) 所蔵作品の協画する部分の美術品及び保存・修復に関する調査研究成果の美術館活動への反映・	・アレッサンドロ・ベドリ・マッツォーラ《ウェヌスとアモル》の材料および技法に関する調査研究	
について、多くの美術館・博物館の床に用いられている床材を試験材として用い、登知工業大学耐震実験センターで、青木教授の指導の下、JMA小叶谷波、JMA神戸波を入力し、加震実験を行った。 また、所蔵作品の絵画技法調査の参考とするMA 古典的な色彩のサンプルを古典絵画技法に従って作成した。 ビストルフィ作のプロンズレリーフ彫刻の将来的な展示に向けて、プロンズ製のフレームで作品を囲み,裏面を鉄骨で補強して壁に固定する方法を考案レ、フレームの制作を行った。 (ウ)所蔵作品や関連する館外の実体品及び保存・修復に関する調査研究成果の美術館活動への反映 ・ 松方コレクション全体に関する調査研究の成果として、小企画展「所蔵水彩・素描展・松方コレクションとその後、主要実施した。 ・ 所蔵版画作品に関する調査研究の成果として、企画展「かたちは、うつる・国立西洋美術館所蔵版画展」を実施した。 ・ ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究の成果として、小企画展「ル・コルビュジエと国立西洋美術館」を実施した。 ・ フランク・ブラングインと松方コレクションに関する調査研究の成果として、企画展「フランク・ブラング・スター、展」を実施した。 エ 国立国際美術館 (ア)所蔵作品に関する調査研究 所蔵作品のうち、横尾忠則、マルレーネ・デュマス、ライアン・ガンダー、杉戸洋・村瀬恭子、荒川修作の作品を取り上げて調査研究を行い、館に最物において作品解説を行った。 (イ)保管・修理に関する調査研究といいて	(イ)保存・修復に関する調査研究	
で、青木教授の指導の下、JMAA中子弦液、JMA神戸波を入力し、加震実験を行った。また、所蔵作品の絵画技法調査の参考とするため、古典的な色彩のサンブルを古典絵画技法に従って作成した。ビストルフィ作のプロンズレリーフ彫刻の将来的な展示に向けて、プロンズ製のフレームで作品を囲み、裏面を鉄骨で補強して壁に固定する方法を考案し、フレームの制作を行った。 (ウ)所蔵作品や関連する館外の美術品及が保存・修復に関する調査研究成果の美術館活動への反映・松方コレクション全体に関する調査研究の成果として、小企画展「所蔵水彩・素描展・松方コレクションとその後。を実施した。 ・所蔵版画作品に関する調査研究の成果として、企画展「かたちは、うつる・国立西洋美術館所蔵版画展」を実施した。 ・ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究の成果として、小企画展「ル・コルビュジエと四立西洋美術館」を実施した。 ・フラング・ブラングインと松方コレクションに関する調査研究の成果として、企画展「フランク・ブラングィン展」を実施した。 エ国立国際美術館 (ア)所蔵作品に関する調査研究 所蔵作品のうち、検尾忠則、マルレーネ・デュマス、ライアン・ガンダー、杉戸洋、村瀬恭子、荒川修作の作品を取り上げで調査研究を行い、館広報物において作品解説を行った。 (イ)保管・修理に関する調査研究 紙に関する専門家と共同で版画の保管状況の調査を行うとともに、展示素材に化学物質が含まれる作品について	防災対策上,屋内彫刻などが転倒しないために,簡易すべり板を付けてきたが,これらが免震性能を発揮するかなど	
また、所蔵作品の絵画技法調査の参考とするため、古典的な色彩のサンブルを古典絵画技法に従って作成した。 ビストルフィ作のプロンズレリーフ彫刻の将来的な展示に向けて、プロンズ製のフレームで作品を囲み、裏面を終骨 で補強して壁に固定する方法を考案し、フレームの制作を行った。 (ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保存・修復に関する調査研究成果の美術館活動への反映 ・ 松方コレクション全体に関する調査研究の成果として、小企画展「所蔵水彩・素描展・松方コレクションとその 後」を実施した。 ・ 所蔵版画作品に関する調査研究の成果として、企画展「かたちは,うつる・国立西洋美術館所蔵版画展」を実施した た。 ・ ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究の成果として、小企画展「ル・コルビュジエ と国立西洋美術館」を実施した。 ・ フランク・ブラングィンと松方コレクションに関する調査研究の成果として、企画展「フランク・ブラングィン 展」を実施した。 ・ エ 国立国際美術館	について,多くの美術館・博物館の床に用いられている床材を試験材として用い,愛知工業大学耐震実験センター	
ビストルフィ作のプロンズレリーフ彫刻の将来的な展示に向けて,プロンズ製のフレームで作品を囲み,裏面を鉄骨で補強して壁に固定する方法を考案し,フレームの制作を行った。 (ウ) 所蔵作品や関連する館外の発析品及び保存・機(を目前する調査研究の成果として,小企画展「所蔵水彩・素描展・松方コレクションとその後」を実施した。 ・所蔵版画作品に関する調査研究の成果として,企画展「かたちは,うつる・国立西洋美術館所蔵版画展」を実施した。 ・ル・コルピュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究の成果として,小企画展「ル・コルピュジエと国立西洋美術館」を実施した。 ・フランク・ブラングィンと松方コレクションに関する調査研究の成果として,企画展「フランク・ブラングィン展」を実施した。 ・ 工 国立国際美術館 (ア) 所蔵作品に関する調査研究 所蔵作品に向する調査研究 所蔵作品に向する調査研究 所蔵作品につうち,模尾忠則,マルレーネ・デュマス,ライアン・ガンダー,杉戸洋,村瀬恭子,荒川修作の作品を取り上げて調査研究を行い,館広報物において作品解説を行った。 (イ)保管・修理に関する調査研究 低に関する調査研究を行い,館広報物において作品解説を行った。		
で補強して壁に固定する方法を考案し、フレームの制作を行った。 (ウ)所蔵作品や関連する館外の美術品及び保存・修復に関する調査研究成果の美術館活動への反映 ・松方コレクション全体に関する調査研究の成果として、小企画展「所蔵水彩・素描展・松方コレクションとその 後」を実施した。 ・所蔵版画作品に関する調査研究の成果として、企画展「かたちは、うつる・国立西洋美術館所蔵版画展」を実施した。 ・ル・コルピュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究の成果として、小企画展「ル・コルピュジエと国立西洋美術館」を実施した。 ・フランク・ブラングィンと松方コレクションに関する調査研究の成果として、企画展「フランク・ブラングィン展」を実施した。 エ 国立国際美術館 (ア)所蔵作品に関する調査研究 所蔵作品に関する調査研究 所蔵作品に関する調査研究 所蔵作品のうち、横尾忠則、マルレーネ・デュマス、ライアン・ガンダー、杉戸洋、村瀬恭子、荒川修作の作品を 取り上げて調査研究を行い、館に風物において作品解説を行った。 (イ)保管・修理に関する調査研究 抵に関する専門家と共同で版画の保管状況の調査を行うとともに、展示素材に化学物質が含まれる作品について		
(ウ)所蔵作品や関連する館外の美術品及び保存・修復に関する調査研究成果の美術館活動への反映 ・松方コレクション全体に関する調査研究の成果として、小企画展「所蔵水彩・素描展・松方コレクションとその後」を実施した。 ・所蔵版画作品に関する調査研究の成果として、企画展「かたちは、うつる・国立西洋美術館所蔵版画展」を実施した。 ・ル・コルピュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究の成果として、小企画展「ル・コルピュジエと国立西洋美術館」を実施した。 ・フランク・ブラングィンと松方コレクションに関する調査研究の成果として、企画展「フランク・ブラングィン展」を実施した。 エ 国立国際美術館 (ア)所蔵作品に関する調査研究 所蔵作品のうち、横尾忠則、マルレーネ・デュマス、ライアン・ガンダー、杉戸洋、村瀬恭子、荒川修作の作品を取り上げで調査研究を行い、館広報物において作品解説を行った。 (イ)保管・修理に関する調査研究 紙に関する調査研究を共同で版画の保管状況の調査を行うとともに、展示素材に化学物質が含まれる作品について		
・松方コレクション全体に関する調査研究の成果として、小企画展「所蔵水彩・素描展・松方コレクションとその後」を実施した。 ・所蔵版画作品に関する調査研究の成果として、企画展「かたちは、うつる・国立西洋美術館所蔵版画展」を実施した。 ・ル・コルピュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究の成果として、小企画展「ル・コルピュジエと国立西洋美術館」を実施した。 ・フランク・ブラングィンと松方コレクションに関する調査研究の成果として、企画展「フランク・ブラングィン展」を実施した。 エ 国立国際美術館 (ア)所蔵作品に関する調査研究 所蔵作品のうち、横尾忠則、マルレーネ・デュマス、ライアン・ガンダー、杉戸洋、村瀬恭子、荒川修作の作品を取り上げて調査研究を行い、館広報物において作品解説を行った。 (イ)保管・修理に関する調査研究 紙に関する専門家と共同で版画の保管状況の調査を行うとともに、展示素材に化学物質が含まれる作品について		
後」を実施した。 ・ 所蔵版画作品に関する調査研究の成果として,企画展「かたちは,うつる - 国立西洋美術館所蔵版画展」を実施した。 ・ ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究の成果として,小企画展「ル・コルビュジエと国立西洋美術館」を実施した。 ・ フランク・ブラングインと松方コレクションに関する調査研究の成果として,企画展「フランク・ブラングイン展」を実施した。 エ 国立国際美術館 (ア)所蔵作品に関する調査研究 所蔵作品に関する調査研究 所蔵作品のうち,横尾忠則,マルレーネ・デュマス,ライアン・ガンダー,杉戸洋,村瀬恭子,荒川修作の作品を取り上げて調査研究を行い,館広報物において作品解説を行った。 (イ)保管・修理に関する調査研究 紙に関する専門家と共同で版画の保管状況の調査を行うとともに,展示素材に化学物質が含まれる作品について		
・所蔵版画作品に関する調査研究の成果として、企画展「かたちは、うつる・国立西洋美術館所蔵版画展」を実施した。 ・ル・コルピュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究の成果として、小企画展「ル・コルピュジエと国立西洋美術館」を実施した。 ・フランク・ブラングィンと松方コレクションに関する調査研究の成果として、企画展「フランク・ブラングィン展」を実施した。 エ 国立国際美術館 (ア)所蔵作品に関する調査研究 所蔵作品に関する調査研究 所蔵作品のうち,横尾忠則、マルレーネ・デュマス、ライアン・ガンダー、杉戸洋、村瀬恭子、荒川修作の作品を取り上げて調査研究を行い、館広報物において作品解説を行った。 (イ)保管・修理に関する調査研究 紙に関する調査研究 紙に関する専門家と共同で版画の保管状況の調査を行うとともに、展示素材に化学物質が含まれる作品について		
た。 ・ル・コルピュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究の成果として,小企画展「ル・コルピュジエと国立西洋美術館」を実施した。 ・フランク・ブランヴィンと松方コレクションに関する調査研究の成果として,企画展「フランク・ブラングィン展」を実施した。 エ 国立国際美術館 (ア)所蔵作品に関する調査研究 所蔵作品のうち,横尾忠則,マルレーネ・デュマス,ライアン・ガンダー,杉戸洋,村瀬恭子,荒川修作の作品を取り上げて調査研究を行い,館広報物において作品解説を行った。 (イ)保管・修理に関する調査研究 紙に関する専門家と共同で版画の保管状況の調査を行うとともに,展示素材に化学物質が含まれる作品について	*** - * **** - * ***	
・ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究の成果として,小企画展「ル・コルビュジエと国立西洋美術館」を実施した。 ・フランク・ブラングィンと松方コレクションに関する調査研究の成果として,企画展「フランク・ブラングィン展」を実施した。 エ 国立国際美術館 (ア)所蔵作品に関する調査研究 所蔵作品のうち,横尾忠則,マルレーネ・デュマス,ライアン・ガンダー,杉戸洋,村瀬恭子,荒川修作の作品を取り上げて調査研究を行い,館広報物において作品解説を行った。 (イ)保管・修理に関する調査研究 紙に関する専門家と共同で版画の保管状況の調査を行うとともに,展示素材に化学物質が含まれる作品について		
と国立西洋美術館」を実施した。 ・フランク・ブラングィンと松方コレクションに関する調査研究の成果として,企画展「フランク・ブラングィン展」を実施した。 エ 国立国際美術館 (ア)所蔵作品に関する調査研究 所蔵作品のうち,横尾忠則,マルレーネ・デュマス,ライアン・ガンダー,杉戸洋,村瀬恭子,荒川修作の作品を取り上げて調査研究を行い,館広報物において作品解説を行った。 (イ)保管・修理に関する調査研究 紙に関する専門家と共同で版画の保管状況の調査を行うとともに,展示素材に化学物質が含まれる作品について		
・フランク・ブラングィンと松方コレクションに関する調査研究の成果として,企画展「フランク・ブラングィン 展」を実施した。 エ 国立国際美術館 (ア)所蔵作品に関する調査研究 所蔵作品に関する調査研究 が成本により、では、できないではないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないではないではないではないではないではないではないではないできないではないではないではないではないではないではないではないではないではないでは		
展」を実施した。 エ 国立国際美術館 (ア)所蔵作品に関する調査研究 (ア)所蔵作品のうち,横尾忠則,マルレーネ・デュマス,ライアン・ガンダー,杉戸洋,村瀬恭子,荒川修作の作品を 所蔵作品のうち,横尾忠則,マルレーネ・デュマス,ライアン・ガンダー,杉戸洋,村瀬恭子,荒川修作の作品を 取り上げて調査研究を行い,館広報物において作品解説を行った。 (イ)保管・修理に関する調査研究 紙に関する専門家と共同で版画の保管状況の調査を行うとともに,展示素材に化学物質が含まれる作品について		
エ 国立国際美術館 (ア)所蔵作品に関する調査研究 (ア)所蔵作品のうち、横尾は則、マルレーネ・デュマス、ライアン・ガンダー、杉戸洋、村瀬恭子、荒川修作の作品を 所成作品のうち、横尾は則、マルレーネ・デュマス、ライアン・ガンダー、杉戸洋、村瀬恭子、荒川修作の作品を 取り上げて調査研究を行い、館広報物において作品解説を行った。 (イ)保管・修理に関する調査研究 紙に関する専門家と共同で版画の保管状況の調査を行うとともに、展示素材に化学物質が含まれる作品について		
(ア)所蔵作品に関する調査研究 所蔵作品のうち,横尾忠則,マルレーネ・デュマス,ライアン・ガンダー,杉戸洋,村瀬恭子,荒川修作の作品を 取り上げて調査研究を行い,館広報物において作品解説を行った。 (イ)保管・修理に関する調査研究 紙に関する専門家と共同で版画の保管状況の調査を行うとともに,展示素材に化学物質が含まれる作品について		
所蔵作品のうち,横尾忠則,マルレーネ・デュマス,ライアン・ガンダー,杉戸洋,村瀬恭子,荒川修作の作品を 取り上げて調査研究を行い,館広報物において作品解説を行った。 (イ)保管・修理に関する調査研究 紙に関する専門家と共同で版画の保管状況の調査を行うとともに,展示素材に化学物質が含まれる作品について		
取り上げて調査研究を行い,館広報物において作品解説を行った。 (イ)保管・修理に関する調査研究 紙に関する専門家と共同で版画の保管状況の調査を行うとともに,展示素材に化学物質が含まれる作品について	, ,	
(イ)保管・修理に関する調査研究 紙に関する専門家と共同で版画の保管状況の調査を行うとともに,展示素材に化学物質が含まれる作品について		
紙に関する専門家と共同で版画の保管状況の調査を行うとともに,展示素材に化学物質が含まれる作品について		
は、靴に发巴寺の悉影響を及は9可能性かのることから,紊忌性の高いものから順次修復を行い,無害は展示案例に	は,紙に変色等の悪影響を及ぼす可能性があることから,緊急性の高いものから順次修復を行い,無害な展示素材に	
変更して保管を行った。		
(ウ)所能には、 (ウ)所能には、 (ウ)所能には、 (ウ)所能には、 (ウ)所能には、 (ウ)所能には、 (ウ)所能には、 (ウ)所能には、 (ウ)所能には、 (ウ)の (ウ)の (ウ)の (ウ)の (ウ)の (ウ)の (ウ)の (ウ)の		
所蔵作品のうち、慶應義塾関連の作品について慶應義塾大学アトセンターと共同研究を行い、その研究成果とし		
て「慶應義塾創立 150 年記念関連企画展 慶應義塾をめぐる芸術家たち」を開催した。	て「慶應義塾創立 150 年記念関連企画展 慶應義塾をめぐる芸術家たち」を開催した。	

3. 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

評定 A

中期計画通り、または中期計画 を上回って履行し、中期目標に向 かって順調、または中期目標を上 回るペースで実績を上げている。

評価のポイント

各館とも国内外との連携・協力に努め、学会発表、シンポジウムなど積極的に進めようとする意欲が評価できる

	中期目標				評価基準					主な実績及び	自己評価	評定	評価委員会によるコメント
中賠値	年藍画	評価則	S	Α	В	С		F					
国立美術館が有する調査研究の成	ンターとして美術館活動全体の活性化に考与 果、所蔵作品、人材等を活用し、我が国の美術振興の力 を多様な方法により積極的に公表し、広(公私立美術館		、公私立美術館を	含めた美術館	宮全体の活動の)活性化に寄り	与するこ	ととする。					
(1)所蔵作品等に関する調査研究 の成果を研究紀要、学術雑誌、 展覧会に関わる刊行物、学会及 びインターネット等を活用して 広く発信する。また、各種セミ ナー・シンボジウムを開催す	(1) 各館の調査研究の成果については、研究紀要、図録への論文発表等によって広く発信する。 なお、これまで各能において個別に行っている年報について本部において編集・発行する。 (東京国立近代美術館) ・ 本館シー 研究記要、展覧会や企画上映に伴う図録、「現代の 眼」、「NFCユーズレター、などの刊行物を発行する。	ナショナルセンタ ーとしての国内外 の美術館等との連 携・協力 【定性的に評価】	(1)所蔵作 研究紀 ア 館の刊 各館に	品等に関 要 ,学術 行物による	する調査研 権 誌,展覧 る研究成果(究成果の発 会刊行物, の発信	信学会等	での発信	動全体の活性化に ず		終行)等の刊行物により,研究成	A	・調査研究の成果の学会発表、多様なシボジウムの開催、公・私立の館への作品貸出、作品特別観覧(熟覧)、海外展の催など多様に実施されたことが評価でき。特に国際交流の点で、シンボジウム「: 鎮圭の作品世界」、「MANGA IMPACT」展などそれぞれ努力が認められる
ప .	小・中学生向け解説パンフレット「セルフガイド」を発行する。 <工芸館>			館名		展覧会	図録	研究紀要	館ニュース	所蔵品目録	パンフレット ・ガイド等 その他		【よりよい事業とするための意見】 ・ナショナルセンターとして中長期的プ
	「ルーシー・リー展」(平成22年度国立新美術館で開催予定)に関連して、イギリスの研究者、工芸家との研究交		東京国立近代	弋美術館本	館		6		6	0	7	0	ジェクトの策定の中で、より一層国際な
	流を行い、東洋陶磁学会研究会等で発表する。		東京国立近代	-			3		1	0	3	0	の重要性を位置付け、単に研究のみなど
	開館30周年記念誌をデジタル媒体で発行することを検 討する。		東京国立近代	** ******** 1	ルムセンター		1		6	0	0	0	、社会生活全般を互いに理解しあうよう
	<フィルムセンター>		京都国立近代	** *******			8		1 8	1	0	0	方法論を検討すべきである。
	「第63回国際フィルム·アーカイブ連盟東京会議」の記録集を刊行する。		国立西洋美術				6		1 3	0	1	5	
	(京都国立近代美術館)		国立国際美術				6		0 6	0	7	0	
	展覧会に伴う図録、美術館ニュース「視る」を発行する。 京都国立近代美術館研究誌「CROSS SECTIONS」を発		国立新美術館	_			8		0 4	-	0	1	
	行する。		L.,	計			38		3 33		18	6	
	コレクションギャラリーでの小企画に対応した研究論文を ホームページ上に公開する。 (国立西洋美術館) 研究記要、展覧会に伴う図録、「国立西洋美術館ニュース。を発行する。 展覧会に伴う小・中学生向け解説パンフレッド・ジュニア パスポートを発行する。 (国立国際美術館) 展覧会に伴う四線及び「美術館ニュース」を発行する。 小・中学生向け解説「ジュニア・セルフガイド」を発行する。 小・中学生向け解説「ジュニア・セルフガイド」を発行する。 の主義を指する。 原覧会に伴う図録及び「国立新美術館ニュース」を発行する。 中学生以上を対象とした鑑賞ガイドを発行する。		ト」展 注 2 「パ が含ま 注3 「そ	の図録を ンフレット れる。 の他」には	「所蔵作品 〜・ガイド等	目録 」と 等」には, i洋美術館5	して刊	l行した。 展の内容や所	蔵作品の解説を掲載	載したパンフレッ	3目録には「マイ・フェイバリット,子ども向けの鑑賞ガイド等 は),『平成20年度活動報告』		

イ 館外の学術雑誌,学会等における調査研究成果の発信 (ア)東京国立近代美術館 [学会等発表] タイトル 学会等名 発表者観名:氏名 日付 場所 聴題							
タイトル	学会等名	発表者職名 氏名			聴講者数		
これからの学校と美術館	日本美術教育連合主催教育 講演会	主任研究員 一條彰子	平成 21 年 5 月 10 日	東京国立近代美術館講堂			
美術館におけるミュージアム・リ テラシー	第 14 回日本ミュージアム・マ ネージメント学会大会指定討 論	一條彰子	平成 21 年 6 月 6 日	東京家政学院 大学			
銀座紀伊國屋ギャラリーをめぐ	明治美術学会	主任研究員 大谷省吾	平成 21 年 7 月 25 日	早稲田大学			
作品を言葉にすること	「顔」沖縄巡回展 主催:(社福)滋賀県社会福祉事業団、ボーダレス・アートミュージアムNO-MA	研究員 保坂健二朗	平成 22 年 1 月 9 日	沖縄県立博物館	26 名		
[集中講座]絵画の歴史	NPO 法人アーツイニシアティ ヴトウキョウ	保坂健二朗	平成 22 年 1 月 22 日、23 日	AIT 代官山	21 名		
[基調報告、パネリスト]「モードと してのドローイング」	[シンポジュウム]絵画の時代 - ゼロ年代の地平から	保坂健二朗	平成 22 年 1 月 24 日	国立国際美術館	120 名		
作品を選ぶこと	アメニティーネットワークフォ ーラム 4	保坂健二朗	平成 22 年 2 月 6 日	大津プリンスホ テル	100名		
総論 美術情報・資料の活用法 提供と利用のはざまにおいて /第 講 今日の図書館から俯瞰する美術館の資料活動が第 講 電子的リソース(二次資料)	全国美術館会議情報・資料研究部会企画セミナー「美術情報・資料の活用法 展覧会力タログから Web まで」	主任研究員 水谷長志	平成 21 年 11 月 10-11 日	東京国立博物館·国立西洋美術館	20名		
イントロダクション - 日本における MLA 連携の現状と課題	第4回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム 日本のアート・ドキュメンテーション - 20年の達成 MLA連携の現状、課題、そして将来	水谷長志	平成 21 年 12 月 5 日	東京国立博物館	150 名		
国立美術館の情報発信 - 近年 の展開と発信	全国美術館会議学芸員研修 会	水谷長志	平成 22 年 3 月 12 日	国立新美術館	112 名		
公開講座「批評(創造)の現在シ リーズ 4」	近畿大学 国際人文科学研究 所東京コミュニティカレッジ 四谷アート・ステュディウム	研究員三輪健仁	平成 21 年 10 月 3 日	近畿大学 国際 人文科学研究 所東京コミュニ ティカレッジ 四 谷アート・ステ ュディウム	50 名		
国井喜太郎の固有工芸論:1930 年代における [†] 日本的なもの』と モダンデザイン	デザイン史学研究会	木田拓也	平成 22 年 3 月 13 日	埼玉大学	30 名		
映画保存の国際的な広がりとア ーカイブ間の協力 FIAF の活 動を中心に	立命館大学特殊講義・映像学 「映像文化の創造と倫理」」	主幹 岡島尚志	平成 21 年 4 月 30 日	立命館大学映 像学部	100 名		
ジネマテーク 新たな観客を求めて (Cinematheques - In Search of New Audiences)	第 65 回国際フィルム・アーカイブ連盟会議	主幹岡島尚志	平成 21 年 5 月 25 日	シネマテーク・ アルヘンティー ナ (ブエ / ス ア イレス)	150 名		
フィルム・アーカイブと映画上映 の未来	全国コミュニティシネマ会議 2009 in 川崎	主幹 岡島尚志	平成 21 年 9 月 4 日	新百合トウェン ティワンホール	250 名		
世界のフィルム・アーカイブを展 望する	あいち国際女性映画祭 2009	主幹岡島尚志	平成 21 年 9 月 6 日	ウィルあいち 3 階会議室	30 名		
21 世紀のフィルム·アーカイブと デジタル化(Film Archives and Digitization in the 21st Century)	ギリシャ国立フィルム·アーカ イプ主催セミナー	主幹 岡島尚志	平成 21 年 10 月11日	ギリシャ国立フィルム・アーカ イブ(アテネ)	30 名		
FIAFとフィルムセンター (Introducing FIAF and NFC)	中国電影資料館主催セミナー	主幹	平成 21 年 10 月 22 日	中国電影資料館(北京)	50名		
(IIIIIOudeling FIAF and NFC)	1	四田司心	77 44 14	届(46水)	ı		

映画フィルムの保存と地方映像	巡回上映「生誕百年 映画		平成 21 年 12	山口情報芸術	30 名
の重要性	督 マキノ雅弘」	岡島尚志	月 19 日	センター(スタ ジオC)	
映像アーカイブとメディア文化財の活用	日本学術会議社会学委員	会 主幹 岡島尚志	平成 22 年 1 月 30 日	日本学術会議講堂	100 名
映画上映の未来	映画美学校・映画上映専門 養成講座「シネマ・マネジ	引家 主幹	平成 22 年 3 月 16 日	映画美学校	20 名
映像アーカイブの現状と未来	ト・ワークショップ」 サイエンス映像学会第3 会シンポジウム	型大 主幹 岡島尚志	平成 22 年 3 月 21 日	サピアタワー(9	50 名
「はかりごと」としてのフィルム・ア ーカイビング 映画フィルムにお	会シノホシリム 立命館大学映像学部班 GP 特殊講義		平成 21 年 4 月 23 日	階ホール) 立命館大学映 像学部	80 名
ける規格を巡って 映像学芸員/映像アート・マネー	全国コミュニティシネマ会		平成 21 年 9 月	新百合トウェン	60 名
ジャーの育成	2009 in 川崎 分科会 2	とちぎあきら	5日	ティワンホール会議室	
「映画を残す」という仕事 ~ 映画 上映を志す人のためのフィルム・	映画美学校・映画上映専門 養成講座「シネマ・マネジ		平成 21 年 9 月 15 日	映画美学校	20名
アーカイブ入門 国立台湾歴史博物館所蔵戦前 日本アニメーション映画について	ト・ワークショップ」 国際ワークショップ「植民 [」] 台湾の映画フィルム史料に		平成 21 年 9 月 26 日	日本大学文理学部	30 名
桐生市立図書館旧蔵 CIE 映画	お湯大学人文学部,愛嬌		平成 21 年 12	新潟県立生涯	50名
のフィルム・アーカイビング	学法文学部学際協定事業 ンポジウム「にいがた 単 から占領へ 映像で探るま	業シ とちぎあきら 対争	月19日	学習推進センターホール	
生きた記憶としてのフィルム·ア ーカイブ	神戸映画資料館を支える 会議 2010	5会 主任研究員 とちぎあきら	平成 22 年 1 月 30 日	神戸映画資料館	30 名
演劇博物館所蔵映画フィルムの 調査・目録整備と保存活用	早稲田大学演劇博物館 消映像学連携研究拠点での 果報告	演劇 主任研究員	平成 22 年 2 月 27 日	早稲田大学早 稲田キャンパス 6号館3階レク チャールーム	約 40 名
Non-film(ノンフィルム)フランス の映画資料保存	映画保存協会ゲストレク: -N .8	チャ 主任研究員 岡田秀則	平成 21 年 4 月 21 日	協和会の蔵	30名
たのい1科学 岩波映画の理科 教室	記録映画アーカイブ・プロ クト 第2回ワークショップ		平成 21 年 10 月 18 日	東京大学情報 学環・福武ホー	180 名
川喜多かしこの映画人生	鎌倉市教養センター一般教 講座	数養 主任研究員 岡田秀則		ル 鎌倉市教養セ ンター	120 名
日本における映画保存	第4回映画の復元と保存 関するワークショップ		平成 21 年 8 月 29 日	京都府京都文 化博物館	70 名
[雑誌等論文掲載]					
タイトル	執筆者職名 氏名	掲載誌	名(発行者)	発行年	F月日
銀座紀伊國屋ギャラリーという場所	主任研究員 大谷省吾	「昭和期美術展覧会 京文化財研究所)	の研究 戦前篇』(東	平成 21 年 4	月
新発見の福沢一郎作品をめぐって	大谷省吾	『福沢一郎記念館二	ュース』29 号	平成 21 年 4	月
「影響と自立」	大谷省吾	「躍動する魂のきらん 展カタログ(栃木県)	めき 日本の表現主義 立美術館他)	聖成 21 年 4	.月
The Experimental Workshop - Th Meeti g of Media	e 大谷省吾	『Experimental Work 1958』展カタログ (ア アート、ロンドン)	shop Japan 1951 - 'ネリー・ジュダ・ファイ)	平成 21 年 1	0月
今村紫紅と新南画	主任研究員 鶴見香織	「別冊太陽 日本の 日本画を破壊する」	こころ 161 速水御舟 (平凡社)	平成 21 年 9	月
『もっと知りたい速水御舟 生涯と作 (共著)		美術	き, 古田亮と共著, 東京		
ジャッド・発注・絵画	企画課長 中林和雄	[†] Donald Judd₄ Fuji) カタログ	Xerox Print Collection	平成 21 年 6	月

1					
	Wachstum und Wandel, Über die	中林和雄	Kami Silence /Action-Japanische Kunst	平成 21 年 10 月	
	Imaginationskraft von Papier und		der Gegenwart auf Papier』展カタログ		
	Vegetation		(Staatliche Kunstsammlungen Dresden Kupferstich-Kabinet)		
	日本画にみる裸婦	研究員 中村麗子	『別冊太陽 日本のこころ 158 裸婦』(平凡 社)	平成 21 年 4 月	
	なぜ建築はコレクションされるべきなのか	研究員 保坂健二朗	『建築以前、建築以後』(アクセス・パブリッシング)	平成 21 年	
	絵画のヴァリエーション	保坂健二朗	『美術手帖』(美術出版社)	平成 22 年 2 月	
	物質への動機 鈴木久雄の彫刻	副館長 松本透	『鈴木久雄展 - 彫刻の領域』カタログ(中原 悌二郎記念旭川市彫刻美術館)	平成 21 年	
	現代美術とオリジナル	松本透	『"オリジナル"の行方 - 文化財を伝えるために』(東京文化財研究所編,平凡社)	平成 22 年 3 月	
	美術館・博物館研究員は語る 美術館の	主任研究員	『文部科学時報』1599号(文部科学省)	平成 21 年 4 月	
	中の図書室(アートライブラリ) - 美と知の宝庫	水谷長志			
	書評 「図書館 この素晴らしき世界」	水谷長志	『図書館雑誌』103 巻 6 号(日本図書館協会)	平成 21 年 6 月号	
	連携 する美術情報: IFLA/ARLIS/JADS/ALC の展開を通して	水谷長志	『韓国の視覚芸術の課題と展望』(タハルメディア)	平成 21 年 11 月	
	ジェーン・ライト(Jane Wright, 1879-1929)、 ふたたび	水谷長志	『アート・ドキュメンテーション通信』84 号(アート・ドキュメンテーション学会)	平成 22 年 1 月	
	"Traditional Art Crafts (<i>Dento Koge</i>)" in Japan: From Reproductions to Original Works	木田拓也	The Journal of Modern Craft, Vol. 3, No. 1	平成 22 年 3 月	
	一九三〇年代における工芸とナショナリズム: 『伝統工芸』前史について	木田拓也	『美術フォーラム 21』第 19 号	平成 21 年 5 月	
	世界の映画保存をさらに推進 FIAF 会 長に聞く	主幹 岡島尚志	『ユニ通信』 No.5446(ユニ通信社)	平成 21 年 8 月 6 日	
	国際フィルム·アーカイブ連盟(FIAF)会長 に就任して	主幹 岡島尚志	『映画テレビ技術』 2009 年 9 月号(日本映画テレビ技術協会)	平成 21 年 9 月 1 日	
	フィルム・アーカイブと映画文化	主幹 岡島尚志	『友 Iwanami Hall』 2009 年秋号 No.363(岩 波ホール)	平成 21 年 10 月 10 日	
	鼎談 フィルム・アーカイブ 日本の果た すべき役割	主幹 岡島尚志	『ミュゼ』第90号(アム・プロモーション)	平成 21 年 10 月 25 日	
	コンテンツ/キャリアの保存と分離 映画・映像の長期保存に関する一考察	主幹 岡島尚志	『日本映像学会報』No.149(日本映像学会)	平成 22 年 1 月 1 日	
	フィルム・アーカイブと映画上映の未来	主幹 岡島尚志	『全国コミュニティシネマ会議 2009 in 川 崎・報告書』(コミュニティシネマセンター)	平成 22 年 2 月 26 日	
	映画保存の国際的な広がりとアーカイブ間の協力 FIAF の活動を中心に	主幹岡島尚志	「立命館大学映像学部現代 GP 「映像文化 の創造を担う実践的教育プログラム」報告 書(2009 年度)・映像文化の創造と倫理。 (立命館大学映像学部)	平成 22 年 3 月 25 日	
	文化財としての映画フィルム	主任研究員 とちぎあきら	'文部科学時報。平成 21 年 4 月号 1599	平成 21 年 4 月 10 日	
	映画「紅葉狩」の重要文化財指定について	主任研究員 とちぎあきら	『映画テレビ技術』 2009 年 8 月号 684 (社団法人日本映画テレビ技術協会)	平成 21 年 8 月 1 日	
	「ドキュメンタリー作家 土本典昭」展に寄せて よみがえる「魂の労働」	主任研究員 岡田秀則	公明新聞(公明新聞社)	平成 21 年 7 月 5 日	
	シネマテークと映像教育の可能性	主任研究員 岡田秀則	『シネリテラシー』vol.1 (早美出版社)	平成 21 年 9 月 17 日	
	The Rise and Fall of the Nippon Eigasha Jakarta Studio	主任研究員 岡田秀則	[†] The Encyclopedia of Indonesia in the Pacific War ₂ (Brill)	平成 22 年 1 月	
	「撮る」と「撮られる」 - 眼の座標をめぐって:ドキュメンタリー映画の歴史から	主任研究員岡田秀則	「コンフリクトの人文学』第2号(大阪大学 出版会)	平成 22 年 3 月 15 日	
	映画と社会心理: S.クラカウアー 「カリガリからヒトラーへ」	研究員 板倉史明	井上俊編『ポピュラー文化(社会学ベーシックス7)』(世界思想社)	平成 21 年 4 月 27 日	

)の異性装時代	研究員		う花編『戦う女たち 日本	平成 21 年 8	月8日	
劇 フィルム·アーカイブにおけ	る映像資料の	板倉史明 研究員	映画の女性アクミ 『歴史評論』2009	/ョン』(作品社) 年 11 月号(校倉書房)	平成 21 年 1	0月10日	
保存と復元 歴史学にとっ 『史劇 楠公訣別』(1921:	ての映画	板倉史明		《術館研究紀要』第 14 号			
* ・	牛」の可燃性不	研究員 板倉史明	宋尔国立近代表	FMI指研九紀安』 第 14 章	平成 22 年 3	HOID	
ジャン・ル/ワールの再評(ランスの「若者文化」	面と 1950 年代フ	研究員 赤﨑陽子	京都国立近代美	桁館ニュース『視る』 43	9 平成 21 年 7	月7日	
東京国立近代美術館フィノ 休みキッズ企画 「こども明		研究員 赤﨑陽子	『美術教育』(財団]法人教育美術振興会)	平成 21 年 1	0月1日	
名画の指定席『密告』		研究員 赤﨑陽子	東商新聞		平成 22 年 1	月 20 日	
名画の指定席『踊るニュー	ヨーク』	研究員 赤﨑陽子	東商新聞		平成 22 年 2	月 20 日	
名画の指定席『歴史は女で	で作られる。	研究員 赤﨑陽子	東商新聞		平成 22 年 3	月 20 日	
(イ)京都国立近代美術館		93,4-9,F90 3					
[学会等発表]		当 人等夕	数字支配力 ボカ	Π <i>Δ</i>	†8 cc	F本:	
タイトル		学会等名	発表者職名・氏名	日付	場所	聴講者数	
Katagami Collection in Germany-Vorbilder	日本女子	大学主催 ポジウム「型紙とジ	主任研究 員·池田祐	平成 21 年 11 月 7 日	日本女子大学	80 名	
as Official Strategy	ャポニス <i>ム</i> 展開』	4-各地域における	子				
[雑誌等論文掲載]							
タイトル		執筆者職名·氏名		誌名(発行者)	発行年		
慈しまれる雪佳の世界-欧 雪佳作品	米所蔵の神坂	主任研究員· 池田祐子	『芸術はどこから 洋書房)	来てどこに行くのか』(晃	平成 21 年 5	月 20 日	
芸術的精神の現象学(12)		前館長・岩城見一	京都国立近代美 『CROSS SECTION		平成 21 年 9	月1日	
上野伊三郎・リチの「造形意志」		主任研究員・	京都国立近代美 『CROSS SECTION	術館研究論集	平成 21 年 9	月1日	
		山北大門	ONOGO SECTIO	ハバンジ オイウ			
(ウ)国立西洋美術館 [学会等発表]							
タイトル	学	会等名	発表者職名·氏名	日付	場所	聴講者数	
「国立西洋美術館展覧 会総覧 1960 2009』に ついて:展覧会レファレ ンス・ツール作成の試み	2 回秋季研究発		主任研究員川口雅子	平成 21 年 10 月 17 日	国立西洋美術 館講堂	約 70 名	
国立西洋美術館の情報 戦略:所蔵作品データベ ースを中心に		ノテーション学会創 第4回アート・ドキ 研究フォーラム	主任研究員川口雅子	平成 21 年 12 月 4 日	東京国立博物 館平成館大·小 講堂	約 300 名	
国立西洋美術館がめざ す収蔵作品·図書·資料		《会関東地区協議	主任研究員	平成22年2月18日	東京商工会議所 403 会議室	約 30 名	
情報サービス 総合芸術アーカイブに	東京藝術大学		主任研究員	平成 21 年 7 月 9	東京藝術大学		
関する懇談会		はまむ 次火パイエックラウス	川口雅子	日		20.47	
全国美術館会議情報・資料研究部会セミナー	全国美術館会議会	情報·資料研究部	主任研究員川口雅子	平成 21 年 11 月 11,12 日	東京国立博物館(1日目),国立西洋美術館(2日目)	30名	
全国美術館会議学芸員		養情報·資料研究部	主任研究員	平成 22 年 3 月 12	国立新美術館	約 100 名	
研修会	会		川口雅子	日		1 11	

「アレッサンドロ・ベド		文化財保存修復	学会 31 回大会	研究補佐員	平成 21 年 6 月	13 倉敷	敷市芸文館	約 400 名
マッツオーラ作「ウェジング とアモル」の材料と技				高島美穂	日			
に関する考察」	14							
「レンプラント版画研究	究: ネ-	ペーデルラント美	術研究会	上席主任研	平成 21 年 12 /	月 清泉	泉女子大学	約30名
和紙の視点から」				究員 幸福				
				輝				
「ミロの寡黙な絵画」			ンポジウム「シュ		平成 21 年 11 /	目 日12	仏会館	約80名
	方」		こし 越境と混淆の	寸 村上博哉	22 日			
[雑誌等論文掲載]	731	J 1		l l	II.			
	トル		執筆者職名·氏名	掲載	載誌名(発行者)		発行年	∓月日
「ウィーン美術史美術			主任研究員	『ルクス・アルテ	ィウム』		平成 22 年 3	3月
チェーニ (ホロフェル	ネスの首を	を持つユー	佐藤直樹					
ディット) について」	=, +	* GP	十八四次号	111 47 71 =	, . .		亚世纪在2	
「もう一つのアルベル際美術史学会と複製			主任研究員 川口雅子	「ルクス・アルテ	1.7Ді		平成 22 年 3) H
『国立西洋美術館展』		1960	主任研究員	『アート・ドキュン	ンテーション研究』		平成 22 年 3	3月
2009』について:展覧			川口雅子	' ' ' ' '			1 == 1 0	
ル作成の試み								
「市場のための紙上			研究員	三元社		T	平成 21 年 6	月
ス,画商たちの複製へ			陳岡めぐみ	Málamore	A January V9-1	-	亚出 24 年 2	日 (Jen)
"Vingt ans de Rodin	au Japon"	'	主任研究員 大屋美那		à Jacques Vilain, modernité, Edition	s de	平成 21 年 3	カ(ハリ)
			八生大加	relief	modernite, Editions	, 43		
「アレッサンドロ・ベド	リ・マッツオ	オーラ作「ウ	研究補佐員	『文化財保存修	復学会誌』,55 号		平成 22 年 3	月
ェヌスとアモル」(16 世		リア,油絵)	高島美穂					
の材料と技法に関す			ガカロ	ID and any Harras	00		TF 04 /F	
の材料と技法に関す 「『イメージ』への転回			研究員 新藤 淳	Review House	03 _å		平成 21 年	
「『イメージ』への転回]の後で」		新藤 淳					3月
	の後で」 ディレンマ	マーオットー・		『Review House			平成 21 年平成 22 年 3	3月
「パイメージ』への転回	の後で」 ディレンマ	マーオットー・	新藤 淳 研究員					3月
「『イメージ』への転回「活動する眼 , 視線の	の後で」 ディレンマ	マーオットー・	新藤 淳 研究員					3月
「「イメージ』への転回「活動する眼、視線のベヒトのドイツ絵画論	の後で」 ディレンマ	マーオットー・	新藤 淳 研究員					3月
「『イメージ』への転回 「活動する眼,視線のペヒトのドイツ絵画論 (エ)国立国際美術館 [学会等発表]	の後で」 ディレンマ	マーオットー・	新藤 淳 研究員 新藤 淳	「ルクス・アルテ	イウム』		平成 22 年 3	
「*イメージ: への転回 「活動する眼,視線の ベヒトのドイツ絵画論 (エ)国立国際美術館	の後で」 ディレンマ	マーオットー・	新藤 淳 研究員 新藤 淳			場		3月 聴講者数
「*イメージ:への転回 「活動する眼,視線の ベヒトのドイツ絵画論 (エ)国立国際美術館 [学会等発表] タイトル 「タイ(パンコク)につ	の後で」 	マーオットー・	新藤 淳 研究員 新藤 淳	『ルクス・アルテ	イウム』 日付 ² 成 21 年 5 月 21	場所国際交流	平成 22 年 3	
「「イメージ』への転回 「活動する眼、視線のベヒトのドイツ絵画論 (エ)国立国際美術館 [学会等発表]	の後で」 のディレンマ について」 日メコ 報告!	マーオットー・ : : 学会等名 コン交流年 200 ; 「誰のためのア	新藤 淳 研究員 茅 爾藤 淳 明査 研究本 希 元本 希 一 橋本	『ルクス・アルテ	イウム』 日付 ² 成 21 年 5 月 21		平成 22 年 3	聴講者数
「「イメージ』への転回 「活動する眼,視線のベヒトのドイツ絵画論 (エ)国立国際美術館 「学会等発表」 タイトル 「タイ(バンコク)につ	の後で」)ディレンマ について」 日メコ 報告「 ト?」	マーオットー・ 学会等名 コン交流年 200 「誰のためのア カンボジア,	新藤 淳 研究員 新藤 淳	『ルクス・アルテ	イウム』 日付 ² 成 21 年 5 月 21		平成 22 年 3	聴講者数
「「イメージ』への転回 「活動する眼,視線のペヒトのドイツ絵画論 (エ)国立国際美術館 [学会等発表] タイトル 「タイ(パンコク)につ	の後で」 のディレンマ について」 日報告「 ト?」 ベトナ	マーオットー・ ; 学会等名 コン交流年 200 ; 「誰のためのア 」 カンボジア, ナム, ミャンマー	新藤 淳 研究員 新藤 淳	『ルクス・アルテ	イウム』 日付 ² 成 21 年 5 月 21		平成 22 年 3	聴講者数
「*イメージ:への転回 「活動する眼,視線の ペヒトのドイツ絵画論 (エ)国立国際美術館 [学会等発表] タイトル 「タイ(パンコク)につ	の後で」 のディレンマ について」 日報とう ・ベトナラ	マーオットー・ 学会等名 コン交流年 200 「誰のためのア カンボジア,	新藤淳 字 研究藤 字 一 タイ,・・・ラオ	「ルクス・アルテ」	イウム』 日付 ² 成 21 年 5 月 21	国際交流	平成 22 年 3 易所 流基金 8	聴講者数
「「イメージ』への転回 「活動する眼 , 視線の ベヒトのドイツ絵画論 (エ)国立国際美術館 [学会等発表] タイトル 「タイ (パンコク) につ いて」 New Media Art in Curatorial Practice:	の後で、 アディレンマ、 日報: トマトラ 正 イター	マーオットー・」 学会等名 コン交流年200 「・誰のためのア 」 カンボジアー 」 カンスマー 美術事情	新藤淳 字 研究藤 字 一 タイ,・・・ラオ	「ルクス・アルテードルクス・アルテートを表する。 「大名」 「大名 「大名」 「大名 「大名」 「大名 「大名」 「大名 「大名 「大名」 「大名 「大名 「大名 「大名 「大名 「大名 「大名 「大名	日付 ² 成 21 年 5 月 21 引	国際交流	平成 22 年 3 易所 流基金 8	聴講者数
「「イメージ』への転回 「活動する眼」視線の ベヒトのドイツ絵画論 (エ)国立国際美術館 「学会等発表] タイトル 「タイ (バンコク) につ いて」 New Media Art in Curatorial Practice: Japanese New Media	の後で、 アディレンマ、 日報: トマトラ 正 イター	マーオットー・ : 学会等名 コン交流をのアー : i かん, まず 上人, 事情 (回アジア (回アジアー 上美 (回アジア (回アジア) (回rry) (Erry)	新藤 淳 研究員 第 9 調査 研究本 ・ ラ 1 - タイ - カー オーラオ	「ルクス・アルテードルクス・アルテートを表する。 「大名」 「大名 「大名」 「大名 「大名」 「大名 「大名」 「大名 「大名 「大名」 「大名 「大名 「大名 「大名 「大名 「大名 「大名 「大名	日付 ² 成 21 年 5 月 21 引	国際交流・シンガポー	平成 22 年 3 易所 流基金 8	聴講者数
「「イメージ』への転回 「活動する眼,視線のベヒトのドイツ絵画論 (エ)国立国際美術館 [学会等発表] タイトル 「タイ(パンコク)について」 New Media Art in Curatorial Practice: Japanese New Media Art in Hanoi	の後で、 のディレンマ について、 日報と、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	マーオットー・ 学会等名 コン交流年 200 「誰のためのア 」 カンボジア・ナム、ミャンマー 美術事情 回アジア次世代	新藤 淳 	「ルクス・アルテ を者類名・氏名 音音 音音 音音 音音 音音 音音	日付 平成 21 年 5 月 21 日 日 平成 21 年 11 月 6	国際交流:シンガポー 館講堂	平成 22 年 3 場所 煮基金 8 ペール美術 4	聴講者数 80名
「『イメージ』への転回 「活動する眼 , 視線の ベヒトのドイツ絵画論 (エ)国立国際美術館 [学会等発表] タイトル 「タイ (パンコク)につ いて」 New Media Art in Curatorial Practice: Japanese New Media Art in Hanoi 「美術館教育の現在	の後で、 のディレンマ : 日報: *** *** *** *** *** *** *** *** *** *	マーオットー・」 学会等名 コン交流をめのア、 はカンボジアマー 美術事情 回アジア次世代 一会議	新藤 淳 字	「ルクス・アルテ 「非常観名・氏名 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	日付	シンガポー館講堂	平成 22 年 3 場所 煮基金 8 ペール美術 4	聴講者数
「イメージ』への転回 「活動する眼 , 視線のベヒトのドイツ絵画論 (エ)国立国際美術館 「学会等発表」 タイトル 「タイ (パンコケ) につ いて」 New Media Art in Curatorial Practice: Japanese New Media Art in Hanoi	の後で、 マンマ・	マーオットー・ 学会等名 コン交流年 200 「誰のためのア 」 カンボジア・ナム、ミャンマー 美術事情 回アジア次世代	新藤 淳 字 字 字 字 字 字 字 字 字 字	「ルクス・アルテ 「非常観名・氏名 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	日付	国際交流:シンガポー 館講堂	平成 22 年 3 場所 煮基金 8 ペール美術 4	聴講者数 80名
「「イメージ」への転回 「活動する眼,視線のベヒトのドイツ絵画論 (エ)国立国際美術館 「学会等発表] タイトル 「タイ(パンコク)について」 New Media Art in Curatorial Practice: Japanese New Media Art in Hanoi 「美術館教育の現在 - 国立国際美術館	の後で、 アイレンマ	マーオットー・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	新藤 淳 字 字 字 字 字 字 字 字 字 字	「ルクス・アルテ 「非常観名・氏名 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	日付	シンガポー館講堂	平成 22 年 3 場所 煮基金 8 ペール美術 4	聴講者数 80名
「『イメージ』への転回 「活動する眼,視線のベヒトのドイツ絵画論 (エ)国立国際美術館 「学会等発表」 タイトル 「タイ(パンコク)につ いて」 New Media Art in Curatorial Practice: Japanese New Media Art in Hanoi 「美術館教育の現在 - 国立国際美術館 の事例から」	の後で、 アイレンマ	マーオットー・ コン交のたがシマンナメを持て、カンミャ情でのアアーナ (国内・大学・大・大学・大・大学・大・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・	新藤 淳 字 字 字 字 字 字 字 字 字 字	「ルクス・アルテ 「非常観名・氏名 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	日付	シンガポー館講堂	平成 22 年 3 場所 煮基金 8 ペール美術 4	聴講者数 80名
「『イメージ』への転回 「活動する眼,視線の ベヒトのドイツ絵画論 (エ)国立国際美術館 [学会等発表] タイトル 「タイ(パンコク)につ いて」 New Media Art in Curatorial Practice: Japanese New Media Art in Hanoi 「美術館教育の現在 - 国立国際美術館 の事例から」	の後で、 アイレンマ」 日報・ベス第イ 金馬ューン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	マーオットー・ コン交のたがシマンナメを持て、カンミャ情でのアアーナ (国内・大学・大・大学・大・大学・大・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・	新藤 淳 淳 淳 淳 淳 淳 東京 京 京 京 京 京 京 京 京 京 京 京 京	・ルクス・アルテ ・水クス・アルテ ・木名 最幸 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	日付 ² 成 21 年 5 月 21 日 ² 成 21 年 11 月 6 日 ² 成 22 年 1 月 16	シンガポー館講堂	平成 22 年 3 易所 高基金 8 世紀美術 1	聴講者数 80 名 40 名 100 名
「「イメージ』への転回 「活動する眼,視線のベヒトのドイツ絵画論 (エ)国立国際美術館 「学会等発表] タイトル 「タイ(パンコケ)につ いて」 New Media Art in Curatorial Practice: Japanese New Media Art in Hanoi 「美術館教育の現在 - 国立国際美術館 の事例から」	の後で、 のディレンマ : 日報? : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	マーオットー・ コン交のたがシマンナメを持て、カンミャ情でのアアーナ (国内・大学・大・大学・大・大学・大・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・	新藤 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳	「ルクス・アルテ 「ルクス・アルテ 「 素材観名・氏名 「 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	日付 ² 成 21 年 5 月 21 日 ² 成 21 年 11 月 6 日 ² 成 22 年 1 月 16 日	国際交流 シンガポー館講堂 金沢 21世館	平成 22 年 3 易所 流基金 8 世紀美術 1	聴講者数80名
「『イメージ』への転回 「活動する眼,視線のベヒトのドイツ絵画論 (エ)国立国際美術館 [学会等発表] タイトル 「タイ(パンコク)について」 New Media Art in Curatorial Practice: Japanese New Media Art in Hanoi 「美術館教育の現在 - 国立国際美術館 の事例から」	の後で、 のディレンマ : 日報? : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	マーオットー・ コン交のたがシマンナメを持て、カンミャ情でのアアーナ (国内・大学・大・大学・大・大学・大・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・	新藤 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 [「ルクス・アルテ	日付 I	国際交流 シンガポー館講堂 金沢 21 世館	平成 22 年 3 易所 高基金 8 世紀美術 1	聴講者数80名
「イメージ』への転回 「活動する眼,視線のペヒトのドイツ絵画論 (エ)国立国際美術館 [学会等発表] タイトル 「タイ(パンコケ)について」 New Media Art in Curatorial Practice: Japanese New Media Art in Hanoi 「美術館教育の現在 - 国立国際美術館 の事例から」 「雑誌等論文掲載]	の後で、 のディレンマ : 日報? : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	マーオットー・ コン交のたがシマンナメを持て、カンミャ情でのアアーナ (国内・大学・大・大学・大・大学・大・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・	新藤 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳	「ルクス・アルテ	日付 R R R R R R R R R R R R R	国際交流 シンガポー館講堂 金沢 21 世館	平成 22 年 3 易所 流基金 8 世紀美術 1	聴講者数80名
「『イメージ』への転回 「活動する眼 , 視線のベヒトのドイツ絵画論 (エ)国立国際美術館 「学会等発表] タイトル 「タイ (パンコク) につ いて」 New Media Art in Curatorial Practice: Japanese New Media Art in Hanoi 「美術館教育の現在 - 国立国際美術館 の事例から」 「雑誌等論文掲載」	の後 (レンマ) 日報 (ア・マンマ・ア・マンマ・ア・マンマ・ア・マンマ・ア・マンマ・ア・マンマ・ア・マンマ・ア・マンマンマン (ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・	マーオットー・」 学会等名 コン交流をめのア は他のボットナム、ミャト・ 美術事情 回アジア次世代 一会議 (21世紀美)が新ずジー・ はアンム・エデ・ とは記念シンエデ・ ン 21」	新藤 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 淳 [「ルクス・アルテ」 「ルクス・アルテ」 「オリカー	日付 R R R R R R R R R R R R R	国際交流 シンガポー館講堂 金沢 21世館	平成 22 年 3 易所 流基金 8 世紀美術 1	聴講者数 80名 40名 100名 車月日 1月1日

束芋 外と内の往還 主任研究員 『束芋:断面の世代」(青幻舎,横浜美術館 平成 21 年 12 月 11 日 植松由佳 /国立国際美術館[監修] 木村友紀の写真・試論 主任研究員 PDAIWA PRESS VIEWING ROOM vol.09 平成 22 年 2 月 1 日 中井康之 (株式会社大和プレス) 山本理恵子 平成 22 年 3 月 15 日 主任研究員 『VOCA 展 2010 現代美術の展望-新しい 中井康之 平面の作家たち』(「VOCA 展」実行委員 (オ)国立新美術館 [学会等発表]

タイトル	学会等名	発表者職名·氏名	日付	場所	聴講者数
戦後日本の現代美術 その国際性を めぐって	シンポジウム 'ロシア における日本美術研 究」	南 雄介	平成 22 年 2 月 1 日	国立プーシキン 美術館付属青 少年美術教育 センター「ムセ イオン」(ロシ ア,モスクワ)	
絵画画像の画面上の"明暗変化"と" 色彩変化"の情報量に着目した特徴 抽出	日本色彩学会全国 大会	室屋泰三	平成 21 年 5 月	慶応大学日吉 キャンパス	
絵画画像の微細な色変化に着目した 特徴抽出	カラーフォーラム JAPAN2009	室屋泰三	平成 21 年 11 月 4 日	独立行政法人 産業技術総合 研究所・臨海副 都心センター	
作品情報のアクセスと発信	全国美術館会議 情報・資料研究部会企画 セミナー 美術情報・資料の活用法 展覧会カタログから Web まで	室屋泰三	平成 21 年 11 月 11 日	国立西洋美術館	
美術館の情報発信 参加する, つながる, 共有する, ウェブの新時代	全国美術館会議学 芸員研修会	室屋泰三	平成 22 年 3 月 12 日	国立新美術館	

[雑誌等論文掲載]

タイトル	執筆者職名·氏名	掲載誌名(発行者)	発行年月日
白髪一雄のアクション・ペインティング	平井章一	白髪一雄展 格闘から生まれた絵画	平成 21 年 4 月
具体美術協会と"具体』誌について	平井章一	復刻版 具体(藝華書院)	平成 21 年 3 月
絵画画像の画面上の"明暗変化"と"色彩変 化"の情報量に着目した特徴抽出	室屋泰三	日本色彩学会誌 VOLUME 33 サプリメント (日本色彩学会)	平成 21 年
AN ANALYSIS OF COLOR COMPOSITION IN PAINTINGS BY MEANS OF INFORMATION ENTROPY	室屋泰三	11th Congress of the International Color Association [AIC] 2009 (AIC)	平成 21 年 9 月
絵画画像の微細な色変化に着目した特徴 抽出	室屋泰三	カラーフォーラム JAPAN 2009論文集(カラーフォーラム JAPAN 事務局)	平成 21 年 11 月
色空間の分割に基づく情報量を用いた絵画 画像の色彩構成の分析	室屋泰三	日本色彩学会 画像色彩研究会 2009 年 度研究発表会論文集 (日本色彩学会 画像色彩研究会)	平成 22 年 2 月

- ウ インターネットによる調査研究成果の発信
 - (ア)東京国立近代美術館
 - 『研究紀要』の収録論文をホームページ上に掲載した。
 - (イ)京都国立近代美術館

特に常設展示における小企画展について,開催意図などを 1,600 字程度にまとめ,当館ホームページ上に掲載した。

(ウ)国立国際美術館

『artscape (http://www.dnp.co.jp/artscape/) 「学芸員レポート」』に4回,現代美術及び展覧会に関する研究を紹介し,『ARTiT (http://www.art-it.asia/top) 「展覧会レーティング」』に3回,現代美術の展覧会に関する調査結果を紹介した。

エ その他

(ア)東京国立近代美術館 (本館) 読売新聞,『美術手帖』,『すばる』他に執筆を行った。 (フィルムセンター) 「戦後フランス映画ポスターの世界」のカタログを制作した。(平成22年1月7日発行,フィルムセンター編集) (イ)京都国立近代美術館 当館が中心となって申請した科学研究費補助金(基盤研究(A))「東西文化の磁場 - 日本近代建築・デザイン・工芸 の超 - . 脱 - 領域的作用史」が採択され、平成24年までの4年間にわたり研究をすすめることとなった。平成21年度 は、常設展会場での小企画や研究分担者をパネラーとしたシンポジウム(『東西文化の視点から見た 19 世紀末京都にお ける一動向 - 第四回内国勧業博覧会開催前後を中心に』)を開催し,研究成果の公表を行った。 (ウ)国立国際美術館 『京都新聞「アート解剖学 現代美術再入門」』に12回,現代美術及び展覧会に関する研究を紹介し,また,『産経 新聞「審美のアングル」』に10回,現代美術に関する展覧会評を執筆した。 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催 ア 東京国立近代美術館 (本館・工芸館) セミナー・シンポッ・ウム名 「ヴィデオを待ちながら」展連続講演会 開催日 平成 21 年 4 月 18 日, 25 日, 5 月 9日,16日,23日 東京国立近代美術館講堂 延べ 498 人 場所 聴講者数 講師・パネリスト等の 氏名(職名) 門林岳史(関西大学文学部助教)「マクルーハンとヴィデオアートの接点を考える その理論的・歴 史的条件」 小沼純一(早稲田大学文学学術院教授)「60-70年代の音楽と美術」 西嶋憲生(多摩美術大学教授)「60-70年代の構造映画と美術」 木村 覚(日本女子大学専任講師)「ダンスとレディ・メイド 1960-70年代のダンスと美術」 展覧会が中心的に扱った 1970 年前後という時代は,メディアを横断するような活動やメディア間の相 内容 互影響が盛んになった時期である。したがって出品される映像が、同時代の文化・芸術総体の中でど のような位置を占めていたのかという点についての情報を提供することで,映像表現自体のより深い 理解が可能になると考え、映像表現と隣接するジャンルをテーマとして連続講演会を開催した。 セミナー・シンポッツ公名 「所蔵作品展 こども工芸館~i!コレクショ 開催日 平成 21 年 6 月 6 日 ン」工芸鑑賞研修会 場所 東京国立近代美術館工芸館 聴講者数 28人 講師・パネリスト等の 講師:今井陽子(東京国立近代美術館工芸課主任研究員),齊藤佳代(東京国立近代美術館工芸課研 氏名(職名) 究補佐員) 内容 「所蔵作品展」こども工芸館~ミ!コレクション」の事前研修として実施。児童・生徒を対象とする工 芸鑑賞の可能性について検証した。 「中学校美術科における日本の伝統文化の理解 開催日 平成21年6月6日 セミナー・シンポッジ 弘名 に向けて」 場所 東京国立近代美術館工芸館 聴講者数 58 人 講師・パネリスト等の 講師:今井陽子,北村仁美(東京国立近代美術館工芸課主任研究員),三上美和(東京国立近代美術 氏名(職名) 館工芸課客員研究員),齊藤佳代(東京国立近代美術館工芸課研究補佐員) 日本における工芸の伝統と中学生を対象とする鑑賞授業の組み立てについて検証した。 内容 (フィルムセンター) ユネスコ世界視聴覚遺産の日記念特別イ 開催日 平成 21 年 10 月 24 日 ベント『幸福』特別上映会:シルバー・ セミナー・シンポップな名 カラーの復元 東京国立近代美術館フィルムセンター大 聴講者数 場所 217人 ホール 講師・パネリスト等の氏名 講師:鈴木美康(フィルムセンター技能補佐員) ゲスト: 手塚昌明(映画監督) ユネスコが 2006 年に定めた「世界視聴覚遺産の日」(10月 27日)を記念するイベント事業の第 2 回目として,市川崑監督,水谷豊主演の『幸福』(1981年)を取り上げ,「シルバー・カラー」 と呼ばれる特殊現像プロセスを再現した復元版プリントを初披露するとともに,1981年当時東洋現

るトークを行った。

像所(現・IMAGICA)で本作の仕上げを担当し今回のプリント復元でもフィルムセンターの技術職員として監修を務めている鈴木美康の講演,『幸福』製作当時のスタッフであった手塚昌明氏によ

内容

	- (I) at /I-aa		
イ・京都国立近	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	·	
<u>₹₹₹₩</u>	^{04名} ーティストトーク + サイン会	開催日	平成 21 年 4 月 12 日
場所	京都国立近代美術館講堂	聴講者数	100人
講師・パネリスト等 名(職名)	の氏 都築響一(作家)		
内容	「ラゲジュアリー:ファッションの欲望」展の に新収作品展「都築響ー 着倒れ方丈記」を展 もと行われ,大変有意義なものであった。		
	が名 小林康夫 / 池田満寿夫を語る	開催日	平成 21 年 8 月 18 日
場所 講師・バネリスト等	京都国立近代美術館講堂 ing 講師:小林康夫(東京大学大学院総合文化研究	聴講者数 科教授)	45 人
調神・ハイックトラ 名(職名)	トーク参加者:太田達(有職菓子御調進所 老		
内容	8月18日(火)から23日(日)まで,鑑賞者グル界」を開催した。この企画では当館のコレクシの老舗の職人らが京菓子で表現し,あわせて4個画作品を展示した。 「池田満寿夫は私の青春時代のアイドルの一人メージが交錯する講演会で,その後,池田満寿寿夫の世界」に出品・監修した「有職菓子御調義なものであった。	ョンである池田洋 ロレクションギ だった」と語る小 夫についてのト-	6寿夫作品を,1階ロビーで京都ヤラリーで池田満寿夫の実際の版 ・林氏の,広範な知識と自由なイークには「京菓子で味わう池田満
ウ国立西洋	*羊術館		
セミナー・シンボッ		版画につ 開催	単日 平成 21 年 5 月 27-28 日
188 97	いて」	ωΠ\ **	主 本
場所 講師 パネリスト 名 (曜名)	国立西洋美術館(27日),武蔵野美術大学(2 等の氏 講師:渡辺晋輔(国立西洋美術館主任研究員)		請者数 20 人
内容	27 日は実際の版画を前にして説明 , 28 日の記 の特色を説明。	義はルネサンス	期の特にイタリアの版画について,そ
セジー・シンボジ	5	わるレク 開催	E日 平成 21 年 8 月 18 日
場所	和歌山県立近代美術館		者数 40 人
講師・パネリスト 名(職名)	- 等の氏 講師:寺島洋子(国立西洋美術館主任研究員)		
内容	和歌山県立近代美術館の「ここはどこ?」展 ついての講義とワークショップを行った。	こ合わせて,子ど	もを対象とするワークシートの開発に
	弘名 特別講義	開催	
場所	京都工芸繊維大学		者数 30 人
高師・ハイリスト 名(職名)	- 等の氏 講師:寺島洋子(国立西洋美術館主任研究員)		
内容	国立西洋美術館の教育普及活動について		
tsナ・・ シンポ ジ 場所	3.	開催	
	- 国立四洋美州館碑室 - 等の氏 講師:港千尋(多摩美術大学教授)	46 व	9 H M JU /\
名(職名)	- 1000 1000	/ ス 字宛 か じ	
内容 	版画におけるオリジナリティと複製の境界をめ 20名 「 うつし の美学 - イメージの起源神話」)くる考察など。 開催	E日 平成 21 年 7月 25 日
場所	加名 うりし の美子 - イメージの起源伸話」 国立西洋美術館講堂		ED 平成 21 年 7 月 25 日 者数 87 人
講師・バネリスト 名(職名)		AA	
	「うつす」という行為に関する美学的考察。ま	た,具体的な芸	
セミナー・シンボ・ジ	灿名 「情念の形態学 - アビ・ヴァールブルク「ム		
場所	ネ」の解読」 国立西洋美術館講堂	聴誰	者数 72 人
講師・パネリスト		- PIC-14	
	美術史家アビ・ヴァールブルクによるブロジョ	・クト「ハラエン	っ 之 . の目休的か分析と紹ざ
内谷	大門又称アロ・ファールフルフによるプログコ	. ノー・ムイモン	ユハ」の会件がより们と所配。

(2)国内外の美術館関係者との研究会の開催や研究者の交流等を行い、国際的な美術館の拠点となることを目指すこ (2)-1 国内外の優れた研究者を招聘 (2)-1 国内外の研究者を招へいし、各種セミナー・シンポ しシンポジウムを開催するなど、 ジウムを開催する。 東京国立近代美術館本館では、「権鎮圭展」にあわせ、武蔵野美術大学と協同で国際シンポジウムを開催 美術館活動に対する示唆が得られ るよう努めるとともに、人的ネッ トワークの構築を推進する。 東京国立近代美術館工芸館では「現代工芸への (2)-2 海外の美術館において、我が 視点」展にあわせ、出品作家を招き、シンポジウムを開 国の優れた作家や美術作品を世界 催する. 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、ユネス に広く紹介する展覧会が活発に行 コ「世界視聴覚遺産の日」(10月27日)を記念して講 われるよう、海外の美術館との連 演会等を開催する。 携・協力に積極的に取り組む。 京都国立近代美術館では、「京都学展」にあわせ、 美術、工芸、建築の幅広い視点から都市としての近代 京都を研究するシンポジウムを開催する。 国立西洋美術館では、ポール・ゲティ美術館との共 催により、国際シンポジウム「美術館・博物館コレクショ ンの地震対策」を開催する。 国立国際美術館では、「現代日本の絵画」展にあわ せ、現代日本絵画に関するシンポジウムを開催する。 国立新美術館では、「野村仁展」にあわせ、記念 講演会等を開催するとともに、美術資料をテーマにし たレクチャー、セミナー等を開催する。

(2)-2 東京国立近代美術館本館では、本年度に開催する「権鎮主展」について、同展の巡回たである韓国国立、 現代美術館とは同開催の位子方等について具体的に協議を進める。また、東京国立近代美術館工芸館では、 我が国の工芸美術を紹介するための消み「展の開催の可能性について関係機関」は協議する。

(2)国内外の美術館等との連携

シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

ア 国立美術館

- 1	, =	2,7 min		
	セミナー・シンポ	工芸シンポジウム「日本工芸の国際性」	開催日	平成 21 年 11 月 4 日
	ジウム名			
	場所	有楽町朝日ホール	聴講者数	404人
		青柳正規(独立行政法人国立美術館理事長,国立西洋)	美術館長),山	本寛斎(デザイナー,プロデューサ
	講師・パネリスト	一),花塚久美子(『和樂』編集長),ニコル・クー!	Jジ・ルーマニ:	エール(セインズベリー日本藝術研究
	等の氏名(職名)	所所長,東京大学大学院客員教授),室瀬和美(重要無	無形文化財「蒔紅	侩」保持者,(社)日本工芸会理事),
		森口邦彦(重要無形文化財「友禅」保持者,(社)日本]	C芸会副理事長)

文化庁委託「文化発信戦略に関する調査研究事業」の一環として開催

イ 東京国立近代美術館

(本館・工芸館)

(本	館・工芸館)								
をきナー・シンポ ジウム名	国際シンポジウム 権鎮圭の作品世界	開催日	平成 21 年 10 月 23, 24 日						
場所	武蔵野美術大学	聴講者数	200 余人						
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	授) 仙名秀雄(画家,学友)安東林(清州大 大学校教授,彫刻家)李政勲(i-studio代司 国文化芸術委員会主席客員研究員)明珍素也 授)黒川弘毅(武蔵野美術大学·教授)柳村 教授)高卿豪(弘益大学校助教授)柳枝延(化研究所研究員)	学校名誉教授 長,写真家)松 记(仏像修理工 起延(韓国国立 韓国国立現代	教授)権環淑(遺族代表)許明会(高麗大学校教)劉俊相(前ソウル市立美術館長)金東羽(世宗 本 透(東京国立近代美術館制館長)金詰孝(韓 京「明古堂」代表)戸谷成雄(武蔵野美術大学教 現代美術館・学芸研究士)金伊順(弘益大学校副 美術館学芸研究士)金容徹(翰林大学校アジア文						
セミナー・ シンホ゜	第5回アジア次世代美術館キュレーター	開催日	平成 21 年 11 月 4 日 ~ 10 日						
ジウム名	会議								
場所	シンガポール美術館, ナショナル・アート・ギャラリー・マレーシアほかシンガポール, マレーシア国内の美術機関	聴講者数	約 40 人(マレーシア会場での人数)						
講師・バネリスト 等の氏名(雑名)	チュヨン,リュ・ジヨン(韓国国立現代美術ン(インディペンデントキュレイター,ペトヤル・メルボルン・インスティテュート・対面 ミン(シンガポール・ナショナル・アートギャラリー学芸・コブサイン・ムスタファ(オラリー・・オブ・コンテンボラリー・・アンド・カルチャーと、アンド・カルチャーセンターキュレイター,マレーシア),タン・セイホンレーシアキュレイター)当館からは中村麗子が参加した。	ができない。 前は、 がは、 がは、 がは、 がは、 がは、 がは、 がは、 が	ジア), 橋本梓(国立国際美術館学芸員), イ・ ー), ド・トゥオン・リン, ウィ・ニュ・ニュエャード・ストレイトマター・トラン(作家, ロイジー・ユニバーシティ・ベトナム講師, ベトナマネージャー), グレイス・タン, オン・ジェンレイター), ロー・ズィーウィー(シンガポー門ディレクター)リム・チンイー,シャピール・レイター), ワン・ズーナン(クリスティー・ムフド・ハフィズ(インディペンデント・キュクーン, ソンポン・ファントン(オフィス・オ), ピチャヤ・エイム・スパパニー(パンコク・ナシール(ナショナル・アート・ギャラリー・マ						
セミナー・シンポ ジウム名	「第3回菊池ビエンナーレ」研究会	開催日	平成 21 年 4 月 25 日						
場所	菊池寛実記念 智美術館 地下 1 階展示室	聴講者数	58人						
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	記念 智美術館長),唐澤昌宏(東京国立近 員)	代美術館工芸誌	国立近代美術館工芸課長), 林屋晴三(菊池寛実 果主任研究員), 森孝一(日本陶磁協会主任学芸						
セミナー・シンポ [°] ジウム名	「荒川豊藏の 志野 - 自然と生命の讃歌 - 」	開催日	平成 21 年 5 月 2 日						
場所	山口県立萩美術館・浦上記念館	聴講者数	63人						
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	唐澤昌宏(東京国立近代美術館工芸課主任研	唐澤昌宏(東京国立近代美術館工芸課主任研究員)							

セミナー・シンポ ジウム名	「近代陶芸の発展における小森忍の窯業 研究と作陶」	開催日	平成 21	年 8 月 22 日				
y ya名 場所	研究と作例 瀬戸市文化センター会議室	聴講者数	45 人					
講師・パネリスト	唐澤昌宏(東京国立近代美術館工芸課主任							
等の氏名(職名) セミナー・シンホ	東洋陶磁学会東日本地区第 5 回研究会	開催日	平成 21	平成 21 年 11 月 29 日				
り ウム名 場所	東京国立近代美術館 講堂	聴講者数	53人					
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	西マーヤ(陶芸研究家),メガン・ジョー 市立芸術大学),富田美樹子(陶芸家)	 ンズ (ボスト	 ン大学大学	院博士課程),森野彰人(陶芸家・京都				
(71	・ ルムセンター)				_			
セミナー・ シンポ シ゛ウム名	ユネスコ世界視聴覚遺産の日記念特別イク 福』特別上映会:シルバー・カラーの復元	ベント『幸	開催日	平成 21 年 10 月 24 日	$\exists \mid \mid \mid$			
場所 講師・パネリスト 等の氏名(職名)	東京国立近代美術館フィルムセンター大ホ 講師:鈴木美康(フィルムセンター技能補 ゲスト:手塚昌明(映画監督)		聴講者数	217人				
ウ 京都国]立近代美術館							
セミナー・ シンポ シ゛ウム名	国際交流基金(ジャパンファウンデーション 支部 講演会 平成21年度 第1回:ドイ 研究者が語る日本の暦文化		開催日	平成 21 年 5 月 29 日				
場所	京都国立近代美術館講堂		聴講者数	67人				
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	講師:ゲアハルト・ラインス氏 Dr.Gerhan	rd Leinss (チューリヒカ	大学講師)				
セミナー・シンポ ジウム名	関西アメリカンセンター「新しい美術館運 かたとは」		開催日	平成 21 年 9 月 10 日				
場所	京都国立近代美術館講堂 講演者: デボラ・クロチコ氏(サンディエ	i	聴講者数 エグゼクテ	(37人) イブ・ディレクター)				
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	時次日・ケホン ブロッコい(ブンデーエ		117277	10 71000)				
セシナー・シンポ ジウム名	第1回「東西文化の磁場」シンポジウム 「『東西文化』交流の視点から見た19世紀; おける一動向 第四回内国勧業博覧会開催(1895年)前後	未京都に	開催日	平成 21 年 11 月 7 日				
場所	京都国立近代美術館講堂		聴講者数	31人				
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	アリス・ツエン (Alice Y. Tseng, 発表2「伊東忠太と平安神宮」 川島智生(建築史家、神戸女学院大学 発表3「明治後半期,海外万国博覧会出品作 廣田 孝(京都女子大学教授) 発表4「ゴットフリート・ワゲネルと京都」 松原龍一(京都国立近代美術館主任研	発表1「黒田清輝《朝妝》と第四回内国勧業博覧会」 アリス・ツエン(Alice Y. Tseng,ポストン大学美術史学部准教授) 発表2「伊東忠太と平安神宮」 川島智生(建築史家,神戸女学院大学非常勤講師) 発表3「明治後半期,海外万国博覧会出品作品の制作過程と意義 - 高島屋の染織出品作品を考察する - 」 廣田 孝(京都女子大学教授) 発表4「ゴットフリート・ワグネルと京都」						
セミナー・シンホ゜	討議 司会・進行:山野英嗣(京都国立近(シンポジウム「プライベートなジョーク,,		研究員) 開催日	平成 21 年 12 月 13 日				
シウム名 場所	クな場所 建築と演劇のはざまに」							
講師・パネリスト等の氏名(職名)	京都国立近代美術館講堂 聴講者数 72人 ゲスト:オレン・サフディ Oren Safdie(劇作家) バネリスト:新井清一(京都精華大学・教授),遠藤秀平(神戸大学大学院・教授),槻橋 修(神戸大学・ 准教授),松岡 聡(京都造形芸術大学・准教授),河井敏明(京都大学)ほか コーディネーター:竹山 聖(京都大学・准教授),トーマス・ダニエル Thomas Daniell(京都精華大 学・准教授)							
I E]立西洋美術館							
	J・P・ゲッティ美術館との共催による国	開催日	平成 21					

	ョンの地震対策」				
場所	国立西洋美術館 講堂	聴講者数	60人		
	ポール・サマービル(ユーアルエスコーポレー	: -ション)テ	ヤールズ・カー	·チャー(カルフォルニア・カ [.]	ーチャ
	ー・アンド・アソシエイツ所長)CCスピコラ	ラウス (アテ	ネ国立工科大学	生木部地震工学研究室教授)	新田健
	史(静岡県立美術館)A.スタビリディス(カ	コリフォルニ	ア大学サンディ	エゴ構造工学科大学院)ビル・	ゲン・
講師・パネリス	サンゲイ(イスタンブール・ボアジチ大学カラ	デリ観測地震	研究所助教授)	纐纈一起 (東京大学地震研究)	所教
ト等の氏名(職	授)青木徹彦(愛知工業大学教授)内田俊秀(京都造形大	学芸術学部教授	砂)神庭伸幸(東京国立博物館)森井
名)	順之,二神葉子(東京国立文化財研究所保存科				
	ンター)遠藤雄悦(荒川技研工業)佐藤孝典(
	他3名(J,P,ゲッティ美術館)箱守栄一((慶應義塾大	学院アートマネ	ページメント分野非常勤講師)	河口公
	男(国立西洋美術館)				
	全国美術館会議 情報・資料研究部会セミ	開催日	平成 21 年	11月10-11日	
セミナー・シンポ					
ジウム名	「美術情報・資料の活用法 - 展覧会カタ				
+8 CC	ログからWeb まで」	聴講者数	30人		
場所講師・パネリス	国立西洋美術館,東京国立博物館 水谷長志(東京国立近代美術館),住広昭子(マイス棒財団ブリギット、学	(特合)
講師・ハイリス ト等の氏名(職	,水谷长志(泉京国立近代美術館),任広昭士(川口雅子(国立西洋美術館),室屋泰三(国立			」、「口恫別凶ノリアストン美	M.18E)
1. 寺の氏石(戦)	,11日9年 1 (日本日件大附皓),至庄水二(日)	ᅜᄳᄎᄳᄩᄼ			
セミナー・シンポ	全国美術館会議討論会	開催日	平成 21 年	5月14日	
ジウム名	美術品国家補償制度の設立に向けて」	mieH	1 100 21 4	~ / 3 · T H	
場所	ホテルメトロポリタン高崎	聴講者数	約 250 人		
-%1/1 講師・パネリス	村瀬剛太(文化庁長官官房政策課課長補佐)			コンサルタント)、森要浩(「	東京新
ト等の氏名(職	聞事業局長),冨田章(サントリーミュージ)			, , , , , , ,	
名)	司会進行:村上博哉(国立西洋美術館)				
	国立国際美術館				
セミナー・シンホ゜	シンポジウム「オーラル・アート・ヒストリ	-の可	開催日	平成 21 年 11 月 14 日	
ジウム名	能性」				
場所	国立国際美術館地下 1 階講堂		聴講者数	85 人	
	司会進行:粟田大輔(東京藝術大学非常勤講				
講師・パネリスト					
等の氏名(職名)	治屋健司(広島市立大学准教授),北原恵(大阪大学大	子院又子研究科	教員),建畠晢(当瞎瞎長),	,則田
セミナー・シンホ゜	## 恭二(読売新聞文化部次長) ## 国立国際美術館新築移転 5 周年記念シンポジ	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	開催日	平成 22 年 1 月 23 - 24 日	
ジウム名	「絵画の時代・ゼロ年代の地平から」	.74	用准口	十成 22 年 1 月 23 - 24 日	
場所	国立国際美術館地下1階講堂		聴講者数	444 人	
	- 国立国际美術館地下「階調室 - 司会進行:島敦彦(当館学芸課長),岡村知			444 人	
	の云雄11・局教》(コ語子云詠伎), 四代和 パネリスト等: 天野一夫(豊田市美術館チー			子(大阪大学大学院 人 問科学院	正空科
	バネリスト寺・人野一天(豊田中美州語デー グローバル COE 特任助教),尾﨑信一郎(鳥				
講師・パネリスト	神谷幸江(広島市現代美術館学芸担当課長)				
等の氏名(職名)	a晢(当館館長),谷川渥(國學院大學文学				
	(東京国立近代美術館企画課研究員),松井				
	研究院教授)				
	: W1701703A1X /				
カ l	国立新美術館				
カー	国立新美術館	アー 開催	日 平成	21 年 7 月 11 日	
セミナー・ シンポ ジ 名	」 国立新美術館 ウム シンポジウム「ウガンダのエイズ孤児,フ ティストに出会う」				
セミナー・シンポ゚ジ	, 国立新美術館 ウム ♪シンポジウム「ウガンダのエイズ孤児,,		日 平成 者数 221 <i>J</i>		
セミナー・シンポ [°] ジ 名 場所	」 国立新美術館 ウム シンポジウム「ウガンダのエイズ孤児, 元 ティストに出会う」 国立新美術館 講堂 富島達男(現代美術家/東北芸術工科大等	聴講 学副学長),	者数 221 <i>J</i> 石田俊輔(世界	、 界銀行 東京開発ラーニングセン	
セミナー・シンポ ジ 名 場所 講師・パネリスト	国立新美術館 国立新美術館 りム シンポジウム「ウガンダのエイズ孤児, ディストに出会う」 国立新美術館 講堂 宮島達男(現代美術家/東北芸術工科大等の 小山薫堂(放送作家),マエキタミヤコ	聴講 学副学長),	者数 221 <i>J</i> 石田俊輔(世界	、 界銀行 東京開発ラーニングセン	
セミナー・シンボ・ジ 名 場所 講師・パネリスト 氏名(職名)	国立新美術館 コ立新美術館 シンポジウム「ウガンダのエイズ孤児」 ティストに出会う」 国立新美術館 講堂 宮島達男(現代美術家/東北芸術工科大等 小山薫堂(放送作家),マエキタミヤコ 界銀行 東京事務所 広報担当官)	聴講 学副学長), (クリエイテ	者数 221 <i>J</i> 石田俊輔(世 ティブエージェン	、 界銀行 東京開発ラーニングセン ノシー「サステナ」代表),大	
セミナー・シンボ・ジ 名 場所 講師・パネリスト ⁶ 氏名(職名) セミナー・シンボ・ジ	国立新美術館 DA シンポジウム「ウガンダのエイズ孤児」 ディストに出会う」 国立新美術館 講堂 宮島達男(現代美術家/東北芸術工科大等 小山薫堂(放送作家),マエキタミヤコ 界銀行 東京事務所 広報担当官) DA 日本資料専門家欧州協会(EAJRS)第14 [聴講 学副学長), (クリエイテ	者数 221 <i>J</i> 石田俊輔(世 ティブエージェン	、 界銀行 東京開発ラーニングセン	
セミナー・シンボ・ジ 名 場所 講師・パネリスト 氏名(職名)	国立新美術館 コ立新美術館 か シンポジウム「ウガンダのエイズ孤児」 ディストに出会う」 国立新美術館 講堂 宮島達男・現代美術家/東北芸術工科大等 小山薫堂(放送作家),マエキタミヤコ 界銀行 東京事務所 広報担当官) り 日本資料専門家欧州協会(EAJRS)第14 [次総会	聴講学長), (クリエイテ	者数 221 <i>J</i> 石田俊輔(世界 ティブエージェン 日 平成	、 界銀行 東京開発ラーニングセン ノシー「サステナ」代表), 大 21 年 9 月 16 日	
セミナー・シンボ・ジ 名 場所 講師・バネリスト 氏名(職名) セミナー・シンボ・ジ 名	国立新美術館 DA シンポジウム「ウガンダのエイズ孤児」 ティストに出会う」 国立新美術館 講堂 宮島達男・現代美術家/東北芸術工科大等 小山薫堂(放送作家),マエキタミヤコ 界銀行 東京事務所 広報担当官) DA 日本資料専門家欧州協会(EAJRS)第14 [次総会 セインズベリー日本芸術研究所(ノリッ	聴講学長), (クリエイテ	者数 221 <i>J</i> 石田俊輔(世界 ディブエージェン	、 界銀行 東京開発ラーニングセン ノシー「サステナ」代表),大	
セミナー・シンボ・ジ 名 場所 講師・パネリスト ⁶ 氏名(職名) セミナー・シンボ・ジ	国立新美術館	聴講学長), (クリエイテ	者数 221 <i>J</i> 石田俊輔(世界 ティブエージェン 日 平成	、 界銀行 東京開発ラーニングセン ノシー「サステナ」代表), 大 21 年 9 月 16 日	
セミナー・シンボ・ジ・名 名 場所 講師・パネリスト 氏名(職名) セミナー・シンボ・ジ・名	国立新美術館 カム シンポジウム「ウガンダのエイズ孤児」 ディストに出会う」 国立新美術館 講堂 宮島達男(現代美術家/東北芸桥工科大学 小山薫堂(放送作家),マエキタミヤコ 界銀行東京事務所 広報担当官) カム 日本資料専門家欧州協会(EAJRS)第14 [次総会 セインズベリー日本芸術研究所(ノリッミ (英国))	聴講学長), (クリエイテ	者数 221 <i>J</i> 石田俊輔(世界 ティブエージェン 日 平成	、 界銀行 東京開発ラーニングセン ノシー「サステナ」代表), 大 21 年 9 月 16 日	
セミナー・シンボ・ジ・ 名 ・場所 講師・バネリスト ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ジネ・ジンボ・ジ ・ 名 ・ 場所 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	国立新美術館 カム シンポジウム「ウガンダのエイズ孤児」 ディストに出会う」 国立新美術館 講堂 宮島達男(現代美術家/東北芸桥工科大学 小山薫堂(放送作家),マエキタミヤコ 界銀行東京事務所 広報担当官) カム 日本資料専門家欧州協会(EAJRS)第14 [次総会 セインズベリー日本芸術研究所(ノリッミ (英国))	聴講学長), (クリエイテ	者数 221 <i>J</i> 石田俊輔(世界 ティブエージェン 日 平成	、 界銀行 東京開発ラーニングセン ノシー「サステナ」代表), 大 21 年 9 月 16 日	
セミナ・・シンボ・ジ 名 場所 講師・バネリスト等 氏名(職名) セミナ・・シンボ・ジ 名 場所	国立新美術館 DA シンポジウム「ウガンダのエイズ孤児」 ディストに出会う」 国立新美術館 講堂 官島達男(現代美術家/東北芸術工科大学 小山薫堂(放送作家),マエキタミヤコ 界銀行 東京事務所 広報担当官) DA 日本資料専門家欧州協会(EAJRS)第14回 次総会 セインズペリー日本芸術研究所(ノリッミ (英国)) 平井章一(国立新美術館主任研究員)	聴講学長), (クリエイテ	者数 221 / 石田俊輔(世野・イブエージェ)日 平成者数 /	、 界銀行 東京開発ラーニングセン ノシー「サステナ」代表), 大 21 年 9 月 16 日	

名			
場所	ソウルブラザホテル 他(韓国)	聴講者数	人
講師・パネリスト等の 氏名(職名)	[参加者]林田英樹(国立新美術館長),西野	· 華子(国立新	美術館主任研究員)
セミナー・シンポ [°] シ [°] りム 名	ATRO3 周年記念トークセッション 「六本木アート・トライアングル:ネクスト 国立新美術館,サントリー美術館,森美術 館 六本木は東京のアートの拠点になったのか?」	開催日	平成 22 年 1 月 17 日
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	
講師・パネリスト等の 氏名(職名)	二(美術史家・明治学院大学教授),南雄介(モデレーター:後藤繁雄(編集者/クリエイテ 司会:イーデン・コーキル(ジャパンタイムス	国立新美術館 イブディレク (学芸部記者)	ター / 京都造形芸術大学教授)
セミナー・シンポジウム 名	「ロシアにおける日本美術」シンポジウム	開催日	平成 22 年 2 月 1 日
場所	国立ブーシキン美術館付属青少年美術教育センター「ムセイオン」(モスクワ(ロシア))	聴講者数	- 人
講師・パネリスト等の 氏名(職名)	ガリーナ・ボリソブナ・シシキナ(国立東洋美 リャコフ(ロシア国立人文大学教授),南雄介		 員),アレクサンドル・ニコラエピッチ・メシェ 館学芸課長)他
セミナー・シンポ [°] シ [°] ウム 名	シリーズ 美術雑誌と戦後美術 創り手たち の証言 第1回 激動と転換の60年代末 宮澤壯佳 氏(元『美術手帖』編集長)		
場所	国立新美術館 研修室	聴講者数	50人
講師・パネリスト等の 氏名(職名)	宮澤壯佳(元『美術手帖』編集長)		da.
セミナー・シンポジウム 名	全国美術館会議 第 25 回学芸員研修会	開催日	平成 22 年 3 月 12 日
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	人
講師・パネリスト等の 氏名(職名)	鴨木年泰(東京富士美術館),水谷長志(国立 原暢(財団法人渋沢栄一記念財団 実業史研究 (国立新美術館主任研究員)他	Z美術館情報企	 画室長・東京国立近代美術館情報資料室長),茂 ,野口玲子(東京都現代美術館),室屋泰三

我が国の作家,美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力

ア 東京国立近代美術館

(本館)

ドイツ・ドレスデンのザクセン州立美術館銅版画館が国際交流基金との共催で平成 21 年 10 月 15 日から平成 22 年 1月 18 日まで開催した「紙/神 静と動 現代日本の美術」展に、当館職員がキュレーターとして参加、作品調査、企画立案ほか運営全般に協力し、また所蔵作品を多く貸し出した。日本の現代作家がまとまった形で紹介されるのは旧東独圏のドレスデンでは初のことであり、日本の現代作家 13 人の作品を展示する同展は、好評のうちに 13,000 人の来館者を得た。

(工芸館)

「文化庁委託 平成 21 年度文化発信戦略に関する調査研究事業」に基づき、当館所蔵作品を中心にした近代工芸に関する展覧会企画等のニーズ調査を実施し、イギリス(大英博物館、オックスフォード大学付属アシュモリアン美術館、セインズベリー日本藝術研究所)、フランス(パリ日本文化会館、ニース・アジア美術館)、ドイツ(ミュンスター・漆工芸博物館、ハンブルグ工芸美術館)、イタリア(ローマ日本文化会館、フィレンツェ国立美術館)の美術館等と連携・協力を図った。

(フィルムセンター)

平成 20 年度から 21 年度にかけて,ミュンヘン市博物館・映画博物館(ドイツ・ミュンヘン,FIAF 会員)との共同主催により,先にシネマテーク・ケベコワーズ(カナダ・モントリオール,FIAF 会員)との共同主催により開催した「アニメの源へ - 日本のアニメーション映画(1924~1952)」で上映した 53 本に,共催者が選定した近年の作品 2 本を加え,上映会「日本アニメーション映画史」を開催した(会期は平成 21 年 3 月 3 日から 5 月 5 日まで)。

ロカルノ国際映画祭,トリノ国立映画博物館(イタリア,FIAF会員)との共同主催により,「MANGA IMPACT」展「日本の初期アニメーション映画」部門を開催した(会期は,平成21年8月6日から9月19日までの4日間)。

イ 京都国立近代美術館

当館で開催した「野島康三展」を基に平成23年にイタリア・モデナの写真美術館で開催する「写真家・野島康三」展開催のための具体的な調整および作品研究の作業に入った。

3)国内外の美術館等における修理・保存処理の充実に寄与すること。	(3)国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ等との保存・修復に関する情報交換	
(3) 国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ 等と保存・修復に関する情報交換を図りながら、修復・保存活動の充実に寄与する。 がら、修復・保存活動の充実に寄与する。 機関及び国内映像関連団体並びに研究 機関等と情報交換を図りながら、映画フィルム等の保存・修復活動を行う。	ア 東京国立近代美術館 フィルムセンターでは,アメリカ公文書館が原版を所管し,広島市映像文化ライブラリーが入手した『EFFECTS OF THE ATOMIC BOMB ON HIROSHIMA AND NAGASAKI』完全版のデューブネガから,プリント及び日本語字幕を作成するにあたり,広島市映像文化ライブラリーとの間で,緊密な情報交換を行った。 イ 京都国立近代美術館 イタリア,モデナ市のジュゼッペ・パニーニ写真美術館,ローマ市の国立グラフィック研究所等との共催で「ローマ追想・19世紀写真と旅」展を開催する機会を生かし,これらの機関との間で19世紀写真作品の展示方法および保存に関する技術的問題について情報交換し,将来の当館の写真作品の保存・修復にも有益なものとなるよう配慮した。 ウ 国立西洋美術館 J・P・ゲッティ美術館との共催による国際シンポジウム「美術・博物館のコレクションの地震対策」を国立西洋美術館講堂で開催した。	
4)国内の公私立美術館への所蔵作品の貸与については、所蔵作品の展示計画、作品保存に十分配慮しつつ限り積極的に取り組むこと。		
(4)所蔵作品については、その保存状況を勘案 (4)所蔵作品について、その保存状況や展	(4)所蔵作品の貸与等 作品の貸与	
しつつ、国内外の美術館・博物館その他こ	館 名 貸出件数 貸出点数 特別観覧件数 特別観覧点数	
れに類する施設に対し、貸与等を積極的に 貸与等を積極的に実施する。 東京国立近代美術館では、作品の状態	東京国立近代美術館(本館) 69 230 163 270	
行う。	東京国立近代美術館(工芸館) 31 265 24 102 京都国立近代美術館 65 1,195 96 391	
館の「元永定正展」、損保ジャパン東郷	STATE	
青児美術館の'没後80年 岸田劉生 肖像画をこえて,展、川崎市岡本太郎美	国立国際美術館 23 119 12 24	
術館の「開館 10 周年企画 岡本太郎の 絵画 展などに貸与予定である。	計 197 1,825 384 1,145	
東京国立近代美術館フィルムセンター では、最新の保存・復元の成果を広く紹	東京国立近代美術館本館では,作品の貸与のほか引き続き写真閲覧制度(ブリントスタディ)を実施した(利用件数 12件,	
介するために、所蔵日本映画を中心にパ	閲覧者数 172 人,閲覧作品数 408 点)。また,工芸館では,文化庁企画『「日本のわざと美」—重要無形文化財とそれを支える 人々』展の巡回開催をはじめ,市川市芳澤ガーデンギャラリーでの秋山逸生展と滋賀県立近代美術館等での森口華弘・邦彦父子	
ッケージ化し、地方及び海外の同種機関 を中心に共催等による上映会の開催を	展の遺作回顧展の大量の作品を貸与し協力した。兵庫県陶芸美術館他「ハンス・コバー展」や江別市セラミックアートセンター	
行う。 京都国立近代美術館では、砺波市立美	他「小森忍 日本陶芸の幕開け」展,ふくやま美術館他「北大路魯山人展」等,巡回展への長期貸出が重なった。	
術館及び喜多方市美術館へ所蔵作品約1 40点を貸与し「ユージン・スミス写真展」を	京都国立近代美術館では,砺波市美術館「アイリーン・ スミス・ コレクションによるW.ユージ ン・ スミスの写真」展(会期 21 年 7 月 11 日 ~ 8 月 30 日)に 170 点,喜多方市美術館「アイリーン・ スミス・ コレクションによるW.ユージ ン・ スミスの写真」展(会期 21 年 9 月 12 日 - 10 月 25 日)に 170	
開催する。静岡市のフェルケール博物館 に池田満寿夫版画作品約180点を貸与	ロ)に 170点、音をプロ学術館 「777-76: 4870 - 727-76: 200 ラ具)版(云射 21 年 9月 12 日 - 1 1 月 13 日 - 1 1 月 1 日 - 1 1 月 1 日 -	
し、「池田満寿夫版画展」を開催する。	博物館「特別展 池田満寿夫の版画」(会期 21年 9月 12日~10月 12日)に 122点の作品の貸出を行った。	
国立国際美術館では、作品の状態や同 館での活用計画を踏まえ、借用依頼に積	国立西洋美術館では,海外美術館への貸出 2 件 (マドリードのティッセン美術館主催による「エロスの涙」展および「モネと	
極的に対応する。名古屋市美術館の「だま し絵展」、滋賀県立近代美術館の「開館25	抽象」展),国内美術館への貸出7件(ひろしま美術館・神奈川県立近代美術館「白樺派の愛した美術」等),あわせて9件・	
周年記念展」、尼崎市総合文化センターの	16 点の作品貸出を行った。 国立国際美術館では,八王子市夢美術館・足利市立美術館「氾濫するイメージ・反芸術以後の印刷メディアと美術 1960's-	
「白髪一雄展」などに貸与予定である。	70's」、保本市現代美術館「花・風景展 モネと現代日本のアーティストたち・大巻伸嗣・磐川実花・名列略・」、字都宮美術	
	館「『白樺』誕生 100 年 白樺派の愛した美術」などに,あわせて 23 件・119 点の貸出を行った。	
	映画フィルム等の貸与	
	種別 (貸出 特別映写観覧 複製利用 作数 点数 件数 点数	
	Fix Six Fix Fix Six Fix Fi	
	種別 貸出 特別観覧	
	件数 点数 件数 点数	
	映画関連資料	
	権した「MANGA IMPACT」展「日本の初期アニメーション映画」部門に対し 28 本,ミュンヘン市立博物館/映画博物館(ドイ	
	ツ)との上映会「日本アニメーション映画史」には 53 本 , 川喜多記念映画文化財団 , 独立行政法人国際交流基金との共同開	
	催による「川喜多かしこ生誕 100 年記念 日本映画海外巡回特集上映」では、香港電影資料館での上映に、4本のフィルムを	
	提供した。通常の貸与は,23 件であった。 国内への貸与のうち,共同主催事業では,京都国立近代美術館との間で開催した「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films@Goethe」	
	に対し,『東洋の秘密』(1928 年),『石川五右ヱ門の法事』(1930 年)等,日本映画及び外国映画のフィルム 19 本を提	
	供,同じく京都国立近代美術館との間で開催した「無声映画時代ソビエト映画ポスター展」に関連する上映会に対し,『母』	
	(1926年)等,外国映画フィルム3本を提供した。また,巡回上映事業について,「生誕百年 映画監督 マキノ雅弘」では	
	全7会場に17本を、「生誕百年 映画監督 山中貞雄」では全6会場に3本の日本劇映画のフィルムを提供した。通常の貸	
	与では , 52 件 , 131 本のフィルムを提供した。 映画関連資料については , 国内の展覧会主催者 2 機関に ,海外についてはカナダのシネマテーク・ケベコワーズ (モントリ	

(5)-1 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとして、全国の小・中学化等や公私立美術館における教育普及活動の充実に資するため、先導的・先駆的な教材やプログラムの開発を行う。 (5)-2 全国の小・中学校等における鑑賞教育や、全国の美術館における教育普及活動の活性化を図るため、指導にあたる人材の育成を目指した全国レベルの教員、学芸員等の研修を実施する。	(5)美術教育の一翼を担うナショナルセンターとして、次の事業を行う、小中学校の教員や学芸員が、学校や美術館で活用できる鑑賞教育用教材の普及を図る、台地域の学校と美術館の関係の活性化を図るともに、子どまたちに対する鑑賞教育の充実に資するため、台地域の経費を表見等が一堂に会し、グループ討議等を行う「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修。を国立美術館の研究の元実の行の元果に努める。あわせて、法人ホームページでの実施を規定・12年3月3日-5日 4日 東京国立近代美術館、国立新美術館、工程21年8月3日-5日 会場、東京国立近代美術館、国立新美術館	プショナルセンターとしての人材育成					В	・「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」は、教員免許状更新講習と兼ねたためもあって受講を断るほど感況であった。しかも、研修終了後、冊子にさる。・反面、今後の日本における能力の高い学芸員・美術職員の養成について、法人全体としての計画・目標の策定が不十分である。 【よりよい事業とするための意見】・ ・法人全体としての意見】・ ・法人全体としてのお適である。 【よりよい事業とするための意見】・ ・対のよりを表してのができまり、研究では、まりまい。 「はいまれる。」 ・法人全体としてのまる。 「はりよい事業とするための意見」・ ・法人全体としてのある。 「はりよい事業とするための意見」・ ・法人全体としてのある。 「はりまれる。」 ・ はいまれる。 「はいまれる。」 ・ はいまれる。 ・ できるに、まれる。 ・ できるに、まれる
6) 大学等との機関とも積極的に提携しながら、今後の (6) 大学院生等を対象としたインターンシップ 等の事業を進め、今後の美術館活動を担う 中核的人材を育成する。	美術館活動を担う中核的な人材の育成を (6)インターンシップ等の事業を次のと おり実施する。 東京国立近代美術館工芸館・フィ ルムセンターにおいて、大学生の学芸 員資格取得のための博物館実習を実 施する。 国立西洋美術館において、大学院 (東京大学大学院人文社会系研究科) と連携して西洋美術に関する教育を行う。	図ること,	(6)美術館活動を担う中核的人材(館 名)東京国立近代美術館 京都国立近代美術館 国立西洋美術館 国立国際美術館 国立新美術館	D育成 本館 工芸館 フィルムセンター	インターンシップ受入数 5 5 1 0 6 7 7 31	博物館実習受入数 		

(7)全国の美術館等の運営に対する援助、助言を行うとともに、関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努め ること。で (7)全国の美術館等の運営に対する援助、助 (7)公私立美術館の学芸担当職員を (7)全国の美術館等との連携・人的ネットワークの構築 言を適時行うとともに、企画展の共同主催やそ 対象としたキュレーター研修を実施 企画展・上映会等の共同主催と共同研究 し、その専門的知識及び技術の向上を れに伴う共同研究及びその他の研修制度を通じ 共同主催件数 共同研究件数 図る て、関係者の情報交換・人的ネットワークの形 成等に努める。 東京国立近代美術館(フィルムセンター) 京都国立近代美術館 国立西洋美術館 国立国際美術館 国立新美術館 3 18 17 計 特記事項(共同研究によって特に得られた成果等) (ア)東京国立近代美術館 (フィルムセンター) ・「日本・ブルガリア外交関係再開 50 周年記念 ブルガリア映画特集」:ブルガリア共和国大使館と協議しながら上映作品 の選定を行った。 ・「EU フィルムデーズ 2009」:欧州連合駐日欧州委員会代表部と協議し,近年の EU 加盟各国の映画動向や作品の評価を踏 まえながら作品選定を行った。 ・「日本インディペンデント映画史シリーズ ぴあフィルムフェスティバルの軌跡 vol.2」: ぴあ株式会社と協議しな がらぴあフィルムフェスティバルの 1987 年(第 10 回)から 97 年(第 20 回)を対象に、同時代の評価と現在の評価の双方 を踏まえながら作品選定を行った。 ・「第 31 回びあフィルムフェスティバル」: PFF パートナーズと協議し, 招待作品部門の作品選定を行った。 ・「川喜多かしこ生誕 100 年記念事業 川喜多賞受賞監督作品選集」: 川喜多記念映画文化財団, 国際交流基金と協議し, 川喜多賞受賞監督の作品から上映作品の選定を行った。 ・「ドキュメンタリー作家 土本典昭」展:土本監督の製作母体である映画同人シネ・アソシエの特別協力を得て,同監督 の生涯の作品歴を踏まえつつ展示品の選定を行った。 ・「生誕百年 映画女優 田中絹代」展:田中絹代の遺品を管理している下関市および NPO 法人芸游会の特別協力を得て、監 督としての絹代に照準を当てるなど新たな視点を加えた形で展示品の選定を行った。 ・京都国立近代美術館での「無声時代ソビエト映画ポスター展」:同美術館との共催事業として実施し,関連上映会におい ては作品選定やトークイベントなどの面で協力した。 (イ)京都国立近代美術館 渋谷区立松濤美術館と写真家・野島康三の工芸家たちとの交流について,書簡など新しい資料を駆使した調査・研究 を行った。東京国立近代美術館フィルムセンター(NFC)と協力し,NFC所蔵映画の定期的上映を実現した。 (ウ)国立西洋美術館 「ル・コルビュジエと国立西洋美術館」展でフランスのル・コルビュジエ財団と共同研究を行った。 (工)国立国際美術館 「杉本博司 歴史の歴史」では金沢 21 世紀美術館と , 「やなぎみわ 婆々娘々!」では東京都写真美術館と , 「慶 應義塾創立 150 年記念 関連企画展 慶應義塾をめぐる芸術家たち」では慶應義塾と , 「ルーヴル美術館展 美の宮殿の 子どもたち」ではルーヴル美術館,国立新美術館と、「長澤英俊展 オーロラの向かう所」では埼玉県立近代美術館, 神奈川県立近代美術館などと共同研究を行った。 とりわけ特筆すべきは、慶應義塾アートセンターとの共同研究により開催された「慶應義塾創立 150 年記念 関連企 画展 慶應義塾をめぐる芸術家たち」は、大学との共同研究の成果が結実したものであり、今後の大学との共同研究の 方向性を示すものである。 キュレーター研修 受入人数 東京国立近代美術館(本館・工芸館) 京都国立近代美術館 国立西洋美術館 国立新美術館 計

(8)フィルムセンターにおいては、国際的に我が国を代表する映画文化振興の中枢となる総合的な機関として、国内外 の映画関係団体等との連絡を密接に図り、その連携・調整について役割を果たすこと。また、より機動的かつ柔軟な運 営を行うため、本東京国立近代美術館から独立した一館となることを検討すること。 ・我が国の映画文化の中核として、少な (8)-1 フィルムセンターは我が国の映画文化振 (8)-1 東京国立近代美術館フィルムセンタ フィルムセンター (8) 我が国の映画文化振興の中核的機関としてのフィルムセンターの活動 い人員、予算の中、フィルム・アーカイ 即の中枢的機関として 国際フィルム・アー ーでは、我が国の映画文化振興の中枢的 の取組状況 国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAF) の正会員としての活動 ヴ、鑑賞機会の提供、映画諸団体との連 カイブ連盟(FIAF)の正会員として、引 機関として次のとおり宝施する 【定性的に評価】 ・フィルムセンター主幹が, 平成 21 年 5 月 30 日に FIAF 会長に就任した。 携、研究調査の点で本年度は特に優秀な 国内外で宝施される各種映画祭や大 き続き国際的な事業等に取り組む。また、「 **学等の映画・映像に関する研究会等に** 活動を展開したことは極めて高く評価で 日本映画情報システム」の運営に主体的に関 ・第65回FIAF会議に主幹と研究員が出席し、主幹がシンポジウムのアジア部門のパネルと司会をつとめた。 協力する。 わるとともに、「所蔵映画フィルム検索シス ・ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」の記念特別イベントとして「『幸福』特別上映会:シルバー・カラーの復元」を開催し きる。 映画関係団体や大学等との連携協力 テム」を拡充する等、各種情報の収集・発信 を推進するための会議等を年間2~3回 た。 を行う。さらに、映画関係団体や大学等が行 程度主要する ・時代の要請にこたえ、メディア芸術の 日本映画情報システムの運営 う各種取組について連携・調整の役割を積極 映画の保存事業等について助言を求 情報発信の役割を十分果たしている点も 的に果たすため 当該団体等との連絡会議を 文化庁が実施する「日本映画情報システム」については、会議への出席並びに資料提供、当館公開データベースへの接続に めるとともに、当該事業に関連した人材 評価できる。 年に2~3回程度主宰する。 育成の在り方について検討を進めるた 関する協力を行った。 (8)-2 フィルムセンターが、より機動的かつ柔 め、識者や関係者を集め会議を開催す 所蔵映画フィルム検索システムの拡充 軟な運営を行うため、東京国立近代美術館の 【よりよい事業とするための意見】 文化庁が宝施する映画関連の事業 「所蔵映画フィルム検索システム」については、日本劇映画のレコード 354 件を新たに公開し、公開件数を 5.146 件とし 映画部門から、同館、京都国立近代美術館、 ・フィルムセンターが、より機動的かつ に、施設の提供等で協力する。 国立西洋美術館、国立国際美術館等とならぶ 文化庁が実施する「日本映画情報シス 柔軟な運営を行うためには、国立近代美 独立した一館となることを検討する。 映画関係団体等との連携 テム」事業に協力する。 術館の一部門ではなく、他の国立美術館 相模原市及び独立行政法人宇宙航空 ・国内では、福岡市総合図書館(FIAF会員)、山口情報芸術センター、東京国際映画祭、山形国際ドキュメンタリー映 と並列の独立した機関として機能する方 研究開発機構との文化事業等協力協定 画祭,東京国際レズビアン&ゲイ映画祭,京都国際学生映画祭,ヒロシマ平和映画祭,キューバ映画祭,TOHOシネマ に基づき、資源及7階報等を活用し、文 向を検討すべきである。 化事業を連携・協力して行う。 ズ等へ映画フィルムの貸与を通じて協力を行った。国外では、ミュンヘン市博物館・映画博物館及びロカルノ国際映画祭 第65回国際フィルム・アーカイブ連盟 との間で開催した日本の初期アニメーション映画特集に際し、フィルムセンター研究員が上映会に参加し、解説及び研究 ・メディア・アート作品、動画像作品、 (FIAF)会議に研究員が出席し、シンポシ 者や観客とのディスカッションを行った。また,韓国映像資料院,ドイツ映画博物館,フィルモテカ・エスパニョーラ, ウム等で発表を行う. そしてフィルムセンターの映画という対 チネテカ・ディ・ボローニャ,オランダ映画博物館,ノルウェー映画協会(以上FIAF会員),台北金馬影展,オーバ 象領域の定義やガイドラインは法人とし 一ハウゼン国際短篇映画祭(ドイツ),香港国際映画祭等へ映画フィルムの貸与を通じて協力を行った。加えて,ギリシ て明確化し、各館の活動と照合する必要 (8)-2 東京国立近代美術館フィルムセンタ -では、より機動的かつ柔軟な運営を行う ャ国立フィルム・アーカイブ,中国電影資料館,日本学術会議,早稲田大学演劇博物館,神戸映画資料館,全国コミュニ がある。 ため、国立美術館内における独立した一館 ティシネマ会議,映画保存協会,サイエンス映像学会,映画の保存と復元に関するワークショップ等が主催するシンポジ となることを含むさまざまな独立の可能性を ウム,講演会,授業等に研究員が参加し,研究成果の発表やディスカッションを通じて協力した。 探るべく、その機能拡充について、文化庁 が推進する「メディア芸術の国際的な拠点 ・加盟する国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の活動や諸事業に関しては、フィルムセンター主幹がその会長に就任した の整備に関する検討会」の進展状況を踏ま こともあり、第65回プエノスアイレス会議への出席、同シンポジウムへの参加、運営委員会の開催(トゥールーズ)をはじ えつつ、より深い検討を行う。 め、これまで以上に積極的に取り組んだ。 ・川喜多記念映画文化財団,国際交流基金との共同主催により「川喜多かしこ生誕100年記念事業 川喜多賞受賞監督作品 選集」を開催し、フィルムセンターを含む3機関が所蔵する英語字幕付き日本映画の上映会を行った。 ・「日本映画海外普及連絡会の会合」を開催した。 第1回: 平成22年3月29日(月) ・「東京国立近代美術館フィルムセンター大学等連携委員会」を設置し,会議を開催した。 第1回: 平成21年12月18日(金) ・「東京国立近代美術館フィルムセンター・アーカイブ事業等検討委員会」を実施した。 第1回: 平成21年9月25日(金) ・文化庁の芸術選奨選考試写のため施設を提供した。 平成22年1月6日(水)~8日(金) 相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構との文化事業等協力協定に基づき,資源及び情報等を活用し,文化事 業を連携・協力して行った。 「こども映画鑑賞会と施設探検ツアー」平成21年7月24日(金),25日(土) 「さがみ風っ子文化祭」親子映画鑑賞会平成21年10月31日(土) フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立の検討 「メディア芸術の国際的な拠点の整備に関する検討会」の「国立メディア芸術総合センター(仮称)設立準備委員会」にオ ブザーバーとして出席し,検討を行った。 第1回: 平成21年7月2日(木) 第2回: 平成21年7月8日(水) 第3回: 平成21年7月10日(金) 第4回: 平成21年7月17日(金) 第5回: 平成21年8月6日(木) 第6回: 平成21年8月21日(金) 1 S:特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。) 2 F:評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を行う必要がある。(客観的基準は事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断さ れた場合に限りFの評定を付す。 実績:2回 連絡会議の開催 2回以上 1 📵 状況 (前年度実績:2回)

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

評定 A

中期計画通り、または中期計画 を上回って履行し、中期目標に向 かって順調、または中期目標を上 回るペースで実績を上げている。

評価のポイント

業務の効率化について、法人の努力は評価できる。美術館の本来業務を妨げないよう留意すべきである。

中期目標				評価準			主な実績及び自己評価				評定	評価委員会によるコメント				
中賠価	年度個	評価組	S	Α	В	С	F									
	業務運営の効率化に関する事項 運営費交付金を充当して行う業務については、事務手続きの簡素化や、競争入札等の推進により一層の業務の効率化を進め、中期目標の期間中、一般管理費 15%以上、業務経費 5%以上の業務の効率化を図ること。ただし、退職手当、特殊要因経費はその対象としない、 た、「行政改革の重要方針」(平成 17年 12月 24 日閣議決定)を踏まえ、平成 18 年度から 5年間において、国家公務員に準じた人件費削減の取組を行うとともに、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを進めること。								١,							
1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の 安全性の確保及び入館者へのサービスの向上 を考慮しつ、運営費交付金を充当して行う 事業については、国において実施されている 行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化 を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につ き新規に追加される業務、拡充業務分等を除 き5年期間中に一般管理費15%以上、業務 経費5%以上の業務の効率化を図る。 具体的には下記の措置を調する。 (1)各美術館の共通的な事務の一元化による 業務の効率化	職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の 全性の確保及び入館者へのサービスの向上 考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う 薬については、国はわいて実施されている 放コストの効率化を踏まえ、業務の効率化 進め、中期目標の期間中、毎事業年度につ 新規に追加される業務、拡充業務分等を除 方年期間中に一般管理費 15 %以上、業務 費 5 %以上の業務の効率化を図る。 体的には下記の措置を講ずる。 多 各美術館の共通的な事務の一元化による 業務の効率化 2 を			長のトップマネージメントの下,各館の事務組織が有っるところである。今年度においてはこれに加え,これに行う仕組みを構築するとともに,同様に各館で行っところである。また,法人内で採用している VPN (Virェア及びテレビ会議システムを導入し活用することで係るセキュリティのあり方と情報資産の安全な運用等立美術館情報資産安全管理規則」を策定した。 (2)使用資源の削減 省エネルギー(5年計画中1年に1.03%の減少)使用量,使用料金の削減割合(対前年度			高局長を置き,本部事務局の企画立案機能の充実を図るとともに,事務局が有機的に連携し,効果的・効率的な業務を遂行しうる体制を整備していこれまで各館で実施していた研究職員の選考等について法人として一体的行っていた出版物のうち年報について法人本部において一元的に実施した(Virtual Private Network:暗号化された通信網)を用いてグループウとで,業務の効率化と経費の削減を図った。なお,法人が保有する情報に用等について検討を行い,「国立美術館情報資産安全対策基本方針」「国			備してい て一体的 実施した ープウ る情報に	A	・グループウェア及びテレビ会議システムの導入・活用は、情報の共有化、出張賞等の削減、役職員の時間の有効利用などの事務の効率化につながる。今後さらなる有効活用が望まれる。 ・研究職員の選考等や年報の発行などの事務の一元化は、推進されていると認められる。 ・省エネルギー化の定量的な評価はCであり、また廃棄物も増加している。それぞれ特殊な要因があるようであるが、削減のための着実な努力が必要である。 ・リサイクルの推進は実施されていると判断できる。 ・セキュリティの強化について検討を行い				
(排出量を5年期間中5%減少) ・リサイクルの推進					館	名	電象		使用量 ガ ス	合計	電気	使用料3 ガス	合計			、方針・規則を策定していることは評価できる。
			東京国立近	丘代 美 術 館	官本館		4.5% .2%)	111.1% (75.3%)	103.8%	82.4% (90.5%)	87.3% (95.9%)	83.9% (92.2%)			・前年度に引き続き人件費の削減は順調に実施されていると判断している。また、新	
			東京国立近	丘代 美 術 館	官工芸館	-	5.2% .9%)	- (-)	95.2% (97.9%)	79.8% (86.8%)	- (-)	79.8% (86.8%)			規採用や人事交流による職員の若返り等も 実施されており、組織全体が活性化につな がる取組と認められる。	
			東京国立近	丘代 美 術 館	宮フィルムセング	9 – 10 (114	2.3%	- (-)	102.3% (114.6%)	84.8% (102.6%)	- (-)	84.8%			・民間委託の推進については、「東京国立近代貴秀館本館及び工芸館の包括管理業務	
			京都国立近	丘代美術館	Tr.		9.3% .3%)	85.8% (58.6%)	87.5% (67.8%)	86.1% (84.3%)	72.6% (79.7%)	82.5% (83.2%)			」(市場化テスト)をはじめ、新たな外部 委託を行っていると認められる。	
			国立西洋美	美術館		16	1.9%	102.6%	121.6%	109.5%	79.0%	97.1%			・実物資産の保有の必要性・適切性については、減損もなく、特に指摘すべき点はない。	

国立国際美術館	91.7%	-	91.7%	89.3%	-	89.3%
	(89.3%)	(-)	(89.3%)	(95.9%)	(-)	(95.9%)
国立新美術館	98.8%	105.1%	101.9%	81.1%	82.9%	81.6%
	(9 .6%)	(96.0%)	(93.7%)	(85.1%)	(82.9%)	(84.5%)
法 人 全 体	105.6%	104.3%	105.0%	86.9%	81.8%	85.6%
	(93.5%)	(90.6%)	(92.1%)	(89.9%)	(90.6%)	(90.1%)

東京国立近代美術館工芸館・フィルムセンター及び国立国際美術館は,ガス設備を設置していない。 使用量の合計は,電気 1kwh あたり 3.6MJ,ガス 1 ㎡あたり 44.8MJ(資源エネルギー庁「エネルギー源別標準発熱量表」による。)に換算して合計したものである。

国立新美術館の下段括弧書きは,平成19年度がフルオープンであるため,対平成19年度比で計上している。

特記事項(増減の理由等)

省エネルギーについては、展覧会場における空調使用や美術作品収蔵庫における一定温湿度維持等、業務の性質上、削減が難しい事情があるものの、従来から引き続き、美術作品のない区画においての空調設定温度への配慮(夏季28 , 冬季20)、夏季における職員の服装の軽装化、不使用設備機器類のこまめな停止等、個々の意識の啓発によりエネルギーの削減に努めた。また、国立新美術館においては、BEMS (Building and Energy Management System)を設置し、細かな建物使用エネルギーや室内環境の把握が可能となったことにより、定例的に省エネルギー推進会議を開催し、省エネルギー対策に取り組んでいる。

当事業年度における主な増減理由は使用量については京都国立近代美術館の収蔵ラック増設等工事に伴う休館による減少ならびに国立西洋美術館新館の工事完了によるフルオープンによる増加が要因である。また、使用料金については価格改定の影響を受け、前年度より減少となっている。

なお、対平成17年度(国立新美術館においてはフルオーブンが平成19年度のため、対平成19年度)と比較すると、東京国立近代美術館フィルムセンターにおいては上映回数が平成17年度751回に対し、当事業年度876回と16.6%の増加があるため、使用量ならびに使用料金の増加となっているが、国立美術館全体では対平成17年度と比較して、使用量は7.9%、使用料金は9.9%と削減が図られている

廃棄物減量化(排出量を5年期間中5%減少)

排出量,廃棄料金の削減割合(対前年度比(下段括弧書きは対平成 17 年度比))

给 夕		排出量		廃棄料金		
館名	一般廃棄物	産業廃棄物	合計	一般廃棄物	産業廃棄物	
東京国立近代美術館本	105.1%	102.3%	104.1%	184.0%	272.9%	
館	(50.6%)	(84.0%)	(59.0%)	(70.9%)	(122.2%)	
東京国立近代美術館工芸館	115.4%	70.5%	106.6%	202.0%	139.8%	
	(97.8%)	(78.9%)	(94.8%)	(136.9%	(114.8%)	
東京国立近代美術館フィルムセンター	89.4%	84.5%	86.7%	89.4%	84.5%	
	(32.3%)	(26.0%)	(28.6%)	(27.0%)	(15.1%)	
京都国立近代美術館	679.1%	146.6%	276.8%		167.8%	
	(120.0%)	(68.1%)	(92.0%)	(-)	(64.2%)	
国立西洋美術館	95.8%	132.9%	107.5%	95.8%	132.9%	
	(114.5%)	(127.8%)	(119.4%)	(76.5%)	77.2%)	
国立国際美術館	98.7%	65.7%	98.7%	100.0%	65.7%	
	(102.4%)	(-)	(102.4%)	(100.0%)	(3.2%)	
国立新美術館	98.3%	111.6%	101.0%	115.1%	421.4%	
	(85.0%)	(53.5%)	(75.2%)	(68.7%)	(181.9%)	
法 人 全 体	116.0%	118.9%	116.9%	121.5%	236.9%	
	(86.0%)	(63.5%)	(76.9%)	(71.5%)	(87.3	

京都国立近代美術館は,一般廃棄物の処理を清掃業者に一括して委託しているため,廃棄料金が算出できない。 国立国際美術館の産業廃棄物は、平成 19 年度に数量の計上方法が変更となっているため、対平成 17 年比較の記載ができない。

国立新美術館の下段括弧書きは,平成19年度がフルオープンであるため,対平成19年度比で計上している。

- ・施設及び敷地等の実物資産は、法人の業務を遂行するために一体的に保有しており、快適な観覧環境の形成や施設の利用推進を図る観点から様々な取組を行い、入館の大部り、有効に活用されているものと判断できる。
- ・実物資産を管理するための維持管理経費は、比較的多くの面積を占めている展示施設に係る経費が多額となっているが、官民競争入札の導入等による管理業務の効率化を図り、経費の節減に努めている。光熱外量については、前年度実施工事による休館の影響等により、平成21年度は前年度に比べて増加しているものの、中期的な期間にわたる継続的な節減の努力は認められる。
- ・高額な機械装置や工具器具備品等は、保 有数及び稼働状況を把握して管理され、施 設の運営に必要な資産として活用されてい るとの報告を受けており、特に指摘すべき 点はない。
- ・法人が定める契約に係る規程類については、国と同様の契約基準としていることから特段問題はないものと判断できる。また、契約事務の執行体制や内部のチェック体制についても、整備されていると認められる。
- ・契約監視委員会を設置し、定期的な点検 を実施することにより、数多くの競争性の ない随意契約や一者応札契約がチェックの 対象となったことは、契約手続きのよりへ 層の透明性及び競争性の確保を図るうえで 、有効であると判断できる。今後も、他の 審査・監視体制と連携しながら、適切な実 施体制を整備し、効果的な運用をしていく ことが望まれる。
- ・随意契約等見直し計画の中で、競争性の ある契約に移行するとされていた案件につ いては、平成21年度に全て競争契約へ移行 済みとの報告を受けており、その努力は評 価できる。
- ・昨年度と比較して、一者応札の件数及び一般競争入札全体に対する件数割合は減少したものの、金額及び金額割合は増加となっている。これは、業務の複数年契約(3年)が一者応札となったことが主な要因であると報告を受けているが、今後とも要因の分析を怠ることなく、一者応札に対する改善方策に取り組み、一層の競争性・透明性の確保に努めることが望まれる。
- ・人事院勧告を踏まえた補正値で算出する と、平成21年度の人件費の削減率は平成17 年度決算額の比して4%にとどいていないた め、現在取り組んでいる人件費抑制の取組 等によって、今後更なる人件費の削減に努

(3)施設有効使用の推進 ・美術館施設の利用推進

特記事項(増減の理由等)

廃棄物の減量化については、開館日数や来館者数の増減により影響を受けるのが現状であるが、電子メールやグループウェアによる通知文書の発信やサーバ保存文書の共同利用、両面印刷の促進や裏紙の再利用等によるペーパーレス化ならびに用紙の節減に努めた。また、リサイクルの古紙の分別回収を進めることにより、廃棄物の削減を図った。

しかしながら,京都国立近代美術館における収蔵庫改修のための倉庫整理による廃棄物の増加や国立新美術館における 蛍光灯の廃棄等の理由により,法人全体では前年度と比べ,排出量および廃棄料金が増加となった。

なお、対平成 17 年度 (国立新美術館においてはフルオープンが平成 19 年度のため、対平成 19 年度)と比較すると、国立西洋美術館においては、来館者が平成 17 年度 824,336人に対し、当事業年度 1,268,141人と 53.8%の増加となったことや、京都国立近代美術館ならびに国立新美術館においては上記の理由により排出量の増加があったが、国立美術館全体では対平成 17 年度と比較して、排出量は 23.1%、廃棄料金は 12.7%と削減が図られている。

リサイクルの推進

古紙含有率 1 0 0 %のコピー用紙の利用,古紙の裏面利用による再利用,廃棄物の分別,OA機器等トナーカートリッジのリサイクルによる再生使用を引き続き行い,更なるリサイクルの推進に努めた。

また,当事業年度から国立新美術館のレストランにおいては,使い捨て食器から再利用食器へ変更を行い,リサイクルの推進に努めた。

(3)美術館施設の利用推進

外部への施設の貸出

各館の貸出施設名	貸出日数
東京国立近代美術館本館(講堂)	29日
東近美フィルムセンター(小ホール)	13日
東近美フィルムセンター(会議室)	15日
京都国立近代美術館(講堂)	2日
京都国立近代美術館(会議室)	5日
国立西洋美術館(講堂)	20日
国立西洋美術館(会議室)	6日
国立国際美術館(講堂)	79日
国立国際美術館(会議室)	15日
国立新美術館(講堂)	85日
国立新美術館(研修室A)	67日
国立新美術館(研修室B)	56日
国立新美術館(研修室C)	42日
計	434日

特記事項

外部への施設の貸出については、館の事業に差し支えない範囲で、会議室、講堂、研修室の外部への貸出を行い、共催者から提案のあった講演会やイベント等への貸出ならびに展示室やロビー、エントランス等においてのイベントの開催等にも可能な限り対応を行った。

特に講堂については,利用促進 P R のための利用案内をホームページに掲載するなど積極的に利用の推進を図り,フィルムセンターの小ホールについても,可能な限り外部への貸出を行った。

実物資産の概要

・有形固定資産 142.335 百万円

(内訳:建物 57,791百万円、構築物 1,190百万円、機械装置 371百万円、車両運搬具 8百万円、工具器具備品 702百万円、土地 29,047百万円、美術品・収蔵品 53,129百万円、建設仮勘定 95百万円)

・無形固定資産 25 百万円(内訳:ソフトウェア 21 百万円、電話加入権 3 百万円、特許権仮勘定 1 百万円)

める必要がある

- ・法定外福利費としては、職員健康診断及 び永年勤続表彰のみが支給されており、レ クリエーション経費及び娯楽費等の支給は ないと報告を受けていることから、社会 般的に理解の得られるもの判断できる。
- ・主任研究員手当及び管理職手当について は国と異なる手当であるが、前者は、勤務 の特殊性から超過勤務を命じることが勤務 形態にそぐわない美術館活動の高度な調査 研究を独立して行うものに対して時間外勤 務手当に相当する手当として支給するもの であり、後者は、組織の管理又は監督の地 位にある役職に対して国家公務員の俸給の 特別調整額と同様の制度として支給対象を 囲・支給額とれているものであることから、 受当であると認められる。
- ・年齢のみを勘案した給与水準の対国家公務員指数は100を超えて国家公務員を上回っているが、その要因は5館のうち3館の美術館が東京都特別区内に所在して地域与支給割合の大きい地域に勤務する職員の比率が高いことであると考えられ、地域を勘案した場合の対国家公務員指数は100を下回っていることから、給与水準は適正であると認められる。
- ・現在保有している知的財産はないが、国立西洋美術館において現在特許出願中とのことであり、美術館における必要性を確認のうえ対応を検討しているものと認められる。
- ・内部統制の整備・運用状況は、有効に機 能を発揮していると判断される。
- ・法人の重要事項については、理事長の指示が着実に遂行されるよう、具体的な審議等を行う各種会議を設置し、理事長のマネジメントを補佐する体制を構築しているほか、法人内の役職員に対して経営理念等を記載した法人概要を配布したり、役職員との定期的なコニケーションの場を設けて意見交換を行ない対処方針等の周知を図るための環境が整備されていると判断できる。
- ・理事長は、内部監査による監査結果等の 報告や監事・会計監査人との意見交換を通 じて、法人の統制機能の現状を把握すると ともに、是正等が必要な場合は、館長会議 等で対応策の検討を行い各館への通知を行 うなど、改善を図る取組を適切に実施して いると認められる。

(4)民間委託の推進

- ・一般管理部門を含めた組織・業務の見直 しを行い、民間開放をさらに積極的に進
- ・館の広報・普及業務について民間委託を 推進する。

(5)競争入札の推進

・契約業者の競合を一層推進することにより、経費の効率化を図る。

主な実物資産は建物9施設(東京国立近代美術館(本館、工芸館、フィルムセンター(本館、相模原分館)、京都国立近代 美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館、国立新美術館)、土地(フィルムセンター本館の一部、フィルムセンター相模原 分館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館の一部、国立新美術館の一部)、美術品・収蔵品(国立新美術館を除く4館)な らびに建物に附随する構築物ならびに機械装置等である。なお、遊休している建物および土地等の固定資産はなく、稼働率は 100%となっている。また、整理合理化計画等において、個別に指摘された資産の見直しはない。

(4)民間委託の推進

一般管理部門を含めた組織・業務の見直しと民間委託の推進

次の外部委託を行い業務の効率化を図った。

(ア)会場管理業務,(イ)設備管理業務,(ウ)清掃業務,(エ)保安警備業務,(オ)機械警備業務,(カ)収入金等集配業務,(キ)レストラン運営業務,(ク) アートライブラリ運営業務,(ケ)ミュージアムショップ運営業務,(コ)美術情報システム等運営支援業務,(サ)ホームページサーバ運用管理業務,(シ)電話交換業務,(ス)展覧会アンケート実施業務

平成 21 年度において主な民間委託の推進としては、「独立行政法人整理合理化計画(平成19年12月24日,閣議決定)」、(別表)「各独立行政法人について講ずべき措置」中の「【民間競争入札の適用】 東京国立近代美術館等の管理・運営業務(展示事業の企画等を除く。)について、民間競争入札を実施する。」のとおり、「東京国立近代美術館本館及び工芸館の包括管理業務」を「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律」に則り、平成21年4月から実施した。

また,平成21年度の新たな外部委託としては,京都国立近代美術館における常駐警備業務の外部委託,国立西洋美術館における設備管理業務の外部委託ならびに国立新美術館における展覧会アンケートならびに顧客満足度調査等の外部委託を行うことにより,業務の効率化を図った。

広報・普及業務の民間委託の推進

(ア)情報案内業務,(イ)広報物等発送業務,(ウ)交通広告等掲載,(エ)ホームページ改訂・更新業務,(オ)インターネット検索サイト,(カ)ラジオCM等を利用した総合的な広報宣伝業務,(キ)雑誌「びあ」広告掲載年間契約及びチケット販売委託,(ク)講堂音響設備オペレーティング委託を行った。

(5)競争入札の推進

一般競争入札の実績

- ア. 契約件数及び契約金額(少額随契を除く) 224件,13,058,655,650円
- イ.契約種別毎の年間契約数

競争契約 78件(34.8%),2,688,104,238円(20.6%)

【内訳】

・一般競争入札 78件,2,688,104,238円

随意契約 146件(65.2%), 10,370,551,412円(79.4%)

【内訳】

- ·同一所管公益法人等 2件,7,391,621,939円
- ・同一所管公益法人等以外の法人等 144件,2,978,929,473円 (うち美術作品の購入に関する随意契約 87件,1,851,459,907円)
- ウ、公益調達の適正化(財計第2017号)等に即した実施状況

公共調達に関する問い合わせの総合窓口の設置に向け検討中

特記事項

当事業年度において,随意契約の占める割合は,件数では全体の65.2%,金額では全体の79.4%となっている。このうち,同一所管公益法人等の契約(2件,7,391,621,939円)については,国立新美術館における土地購入ならびに土地借料である。また,同一所管公益法人等以外の法人等の契約(随意契約総件数146件,10,370,551,412円うち144件,2,978,929,473円)の中には,本法人特有の業務である美術作品の購入に関する随意契約(87件,1,851,459,907円)が含まれている。これらの理由により,本法人の随意契約の割合比率は高くなっているが,これらの特殊な事由を除く比率で比較すると,随意契約の比率は件数で全体の42.2%,金額は全体の29.5%となる。また,随意契約見直し計画で競争性のある契約に移行することとしていた案件は当事業年度において全て競争契

・法人としてアクションブランはとりまとめていないが、人場者数や自己収入の増加、人件費の削減など、目標達成のために法人全体で管理すべき事項については、目標値の設定や具体的な計画を策定しているほか、定期的に法人本部の担当部署において、目標に対する達成度等の確認を行い、今後の対応策や次年度以降の年度計画等に反映していることから、一定の統制機能が整備されているものと認められる。

- ・監事監査及び内部監査に係る規程及び体制はそれぞれ整備されていると認められる。
- ・監事監査においては、内部監査と連携しながら、中期計画や年度計画に照らして、展覧事業等の企画内容や目標値等の適切性及び達成状況の確認を行うとともに、美術館業務特有のリスクにおける対応状況の確認を行うなど、業務の特殊性に着目した統制機能について監査を実施しているもした、判断できる。また、監査に報告をでい、その措置状況については理事長から報告を受けて把握する仕組みが構築されており有効であると認められる。
- ・監事監査では、実地監査のほか、重要な 会議への出席等による意見聴取や会計監査 人等との意見交換などを通じて、理事長の 対応や指示内容を把握したうえで、総体的 に業務の統制機能の監査を実施しているも のと判断できる。
- ・内部監査については、監事や会計監査人 と連携して、監査事項や実施状況等の情報 を共有して実施していると認められる。

【よりよい事業とするための意見】

- ・業務の効率化が人員削減実施に直結する 目下の局面は、非常に課題が多く、法人内 での慎重な対応が求められる。美術館では 研究者の経験や学識が直接に組織の活動を 支えており、国内外との交流も人的次元で の信頼関係に支えられているからである。
- ・古紙の裏面利用による再利用は、機密保持の観点からは好ましくないとため、リサイクルの推進にあたっては、そういったリス・白留意したうえで取り組むことが望まれる。
- ・セキュリティ機能については、今後はIT 監査を実施して、セキュリティの弱点があ れば強化・改善することが望まれる。

約へ移行済みとなっており、当事業年度において新規に発生した案件に関しても、真にやむを得ない場合を除き、全て一般競争契約や公募、企画競争等の競争性のある契約を行っている。

契約に係る規程類

(1)契約に係る規程類等

独立行政法人国立美術館会計規則

独立行政法人国立美術館会計規程の特例を定める規程

独立行政法人国立美術館契約事務取扱細則

独立行政法人国立美術館随意契約公表基準

独立行政法人食堂売店等貸付規程

独立行政法人国立美術館における「企画競争・公募」ならびに「総合評価落札方式」の取扱いについて

国の契約基準と異なる規程の有無

「独立行政法人等における契約の適正化について(通知)」(平成20年12月3日付、20文科会第583号)を受け、国と同様の契約基準としたため、国の契約基準と異なる規程はない。

法人内の役職別契約従事者数

法人本部 室長1名、会計担当係 係長1名、主任・係員1名

東京国立近代美術館 室長1名、会計担当係 係長1名、主任・係員1名(法人本部職員兼務)

京都国立近代美術館 会計担当係 係長1名、主任・係員2名

国立西洋美術館 室長1名、会計担当係 係長1名、主任・係員3名

国立国際美術館 会計担当係 係長1名、主任・係員2名 国立新美術館 会計担当係 係長1名、主任・係員1名

内部のチェック体制

各館に分任契約担当役を設置し、各館において契約処理ならびに適正な契約が行われているかをチェックする体制を整備している。特に随意契約の場合、契約が適正かを十分に精査し、契約を行うよう本部から指導の徹底を行っている。

内部でのチェック対象案件の抽出方法

各館において契約された契約のうち、契約金額や案件等から抽出した契約にかかる書類等を監事監査ならびに内部監査においてチェックを実施し、適正な契約処理が行われているか等の確認を実施している。

個々の契約の合規性等

(1)監事、内部監査等による個々の契約のチェックプロセス

各種監査等において対象となる契約の抽出については、会計検査院の他法人等への指摘事項等を参考として(平成21年度においては外部資金に関する案件を重点項目とした。)監査等を実施し、適正な契約等が行われていることを確認した。

(2)競争性のない随意契約理由

土地及び美術品・収蔵品の購入等所有者が1者となる契約が主な随意契約理由である。

(3)関連公益法人との随意契約について

平成21年度において、独立行政法人会計基準第127「関連公益法人等の範囲」に該当する関連公益法人はない。

(4)再委託のある契約一覧と再委託率

再委託の実績:なし

一括再委託の禁止に係る措置の状況

特に対象案件が現在無いが、契約書または内部規程において文部科学省発注工事請負等契約規則別記第二号「製造請負契約基準」における一括委任又は一括下請負の禁止の規程を準用している。

再委託の状況の把握に係る措置の状況

契約書または内部規程において文部科学省発注工事請負等契約規則別記第二号「製造請負契約基準」の準用を規定しており、再委託については原則禁止にしているが、現在のところ対象案件は無い。なお、契約書において、例外的に再委託をする場合については事前に承認を得る事を要件と記載している。

再々委託の把握に係る措置の状況

特に対象案件がないが、対象案件が発生した場合は、上記 の再委託と同様に処理を行う。

(5)一般競争入札における一者応札率:

- ・平成21年度 一般競争入札 78件、26.9億円
- うち-者応札件数 25件(32.0%)、金額 21.1億円(78.4%)
- ・平成20年度 一般競争入札 82件、24.3億円
 - うち一者応札件数 29件(35.3%)、金額 14.0億円(57.7%)

- ・知的財産等実物資産の保有の必要性については、状況の変化に応じて再確認・再検討しながら常に必要性を意識した上で取り組んでいくことが望まれる。
- ・外部有識者の評価に伴う具体的な改善事 項及び職員の研修等を通じた具体的な効果 の記載が望まれる。
- ・民間委託を推進すると同時に、今後は業 務委託に伴う人件費削減等の効果を検証し つつ、業務の効率化を図ることが望まれる
- ・競争入札の推進に伴う経費削減などの価格面と質的な面での効果を把握することが望まれる。
- ・競争性のない随意契約については、昨年度と比べると、契約全体の金額割合は減少したものの件数割合が増加しており、その主な要因は美術作品の購入等の契約による影響が大きいと考えられることから、やむを得ないものと考えられる。引き続き、マニュアルを整備している総合評価方式の導入や複数年契約の拡大等について工夫して取り組みつつ、競争契約の推進を図ることが望まれる。
- ・再委託の実績もなく、また、再委託に係る規程も整備しているが、今後においては、整備された規程の実効性について担保すべく、内部監査等において運用の実態を確認するなどの対応が望まれる。
- ・ホールや研修施設については、全体的に 稼働日数が少なく稼働率が低くなっている ことから、法人の事業において更な有効 活用を図るとともに、外部への貸出がより 一層促進されるよう、周知方法を工夫し て改善に努めることが望まれる。
- ・現在、各部署が業務の遂行を通じて個別 業務のリスクに対応しているとのことであ るが、今後は、引き続き、法人全体のリス クを洗い出す作業を行い、把握したリスク の優先順位付けを行うなど、より一層、リ スクへの対応を図ることが望まれる。
- ・事業仕分けで指摘を受けた「施設内店舗 用地の賃借」についても、展覧環境の質に 十分配慮した上で順次企画競争を導入する など更なる努力をお願いしたい。

2 外部有識者も含めた事業評価を年1回以上 実施し、その結果を組織、事務、事業等の改 善に反映させる。また、研修等を通じて職員 の理解促進、意識や取り組みの改善を図って

一者応札の件数は平成20年度と比較して4件減少したが、金額は7.1億円増加した。これは、国立新美術館における 「運営管理業務(3年契約。契約額 14.7億円)」の一般競争入札を行った結果、一者入札となったためであるが、必 要最小限の競争参加資格要件、十分な準備期間ならびに公告期間の確保、ホームページでの公告の掲載等適正な調達 を行った結果、一者となった案件である。

(6) 一者応札、一者応募に対する対応

平成21年7月31日付で「一者応札、応募にかかる改善方策について」を法人で定め、対応を図ることにより、従 来よりも競争性の確保に努めた。

【改善方策の主な内容】

- ・競争参加資格要件については、調達目的を確実に達成するための必要最小限のものとすることを徹底する。
- ・一者応札、一者応募となっている契約については、業務等の内容に応じ、早期執行に努めるとともに、契約(落札決 定)後の準備期間を考慮したうえで入札時期を設定するなど、履行期間及び準備期間の十分な確保を図る。
- ・現在、国の規則に準じて10日以上としている公告期間について、過去に一者応札、一者応募となった契約について は、原則として20日以上の公告期間を確保することとする。
- ・物品・役務の調達については、入札公告等の時点で調達内容が把握できるよう、原則として仕様書等についてもホー ムページから閲覧可能とし、競争参加手続の効率化に努めることとする。

2 事業評価及び職員の研修等

外部有識者による事業評価

ア 本部

2 外部の有識者による評価及び職員の

運営委員会及び外部評価委員会に

会計・人事等の研修を通じて職員の 意識改革と資質の向上を図り、あわせて

人事評価制度の見直しについて、国

及び他の独立行政法人の制度を分析のう

よる業務の実績に関する評価を組織。事

務、事業等の改善に反映させる。

組織の活性化を図る.

え、制度設計の検討を行う。

意識改善

独立行政法人国立美術館運営委員会を2回(平成21年7月23日及び平成22年3月10日)開催し,平成20年度事業実績 並びに,平成21年度事業の実施状況及び22年度事業計画(案)について説明聴取の上,意見交換を行った。

また,独立行政法人国立美術館外部評価委員会を3回(平成21年4月15日,5月27日及び6月18日)開催し,平成20 年度事業実績について説明聴取の上,審議し評価報告書を取りまとめた。

イ 東京国立近代美術館

評議員会(美術・工芸部会)を2回(平成21年7月7日及び平成22年3月2日),評議員会(映画部会)を2回(平成 21年7月15日及び平成22年3月2日)開催し,平成20年度事業実績,平成21年度事業の実施状況及び平成22年度事 業計画(案)について説明聴取の上,意見交換を行った。

ウ 京都国立近代美術館

評議員会を1回(平成21年11月25日)開催し,平成20年度事業実績,平成21年度年度計画及び事業実施状況,平成 22年度事業計画等について説明聴取の上,意見交換を行った。

工 国立西洋美術館

評議員会を1回(平成21年10月26日)開催し,平成20年度事業報告及び平成21年度事業計画について説明聴取の 上,意見交換を行った。

オ 国立国際美術館

評議員会を1回(平成22年3月5日)開催し,平成21年度事業報告及び平成22年度事業計画について説明聴取の 上,意見交換を行った。

カ 国立新美術館

評議員会を1回(平成21年8月20日)開催し,平成20年度事業実績,平成21年度事業実施状況及び平成24年度以降 の公募展事業について説明聴取の上,意見交換を行った。

契約監視委員会

- 1.契約監視委員会名簿(平成21年度)
- ・黒田 亮子(独立行政法人国立美術館監事)
- ・鈴木 清(独立行政法人国立美術館監事)
- ・宝木 範義(明星大学教授)
- ・藤井 宏昭(森アーツセンター理事長)

2. 実施状況

- (1)実施回数 2回
- (2)実施対象契約案件

- ・平成20年度における契約(随意契約、一者応札・応募)の点検見直し ・平成19年度以前における複数年契約(一者応札・応募)の点検見直し

・平成21年度契約事前点検結果(前回競争性のない随意契約、前回一者応札・応募、新規案件)の状況、点検

(3)実施対象契約件数

3 国立美術館が管理する情報の安全性向上の ため、必要な措置をとる。

国立美術館が管理する情報の安全性 の向上のため、コンピュータウィルスに関連 する情報を職員に周知し、情報セキュリテ への音譜向上に怒める

4 人件費については、前年度に比べ概ね

1%削減するとともに、 組織の見直し、

人員の削減等に努める。

4 「行政改革の重要方針」(平成17年12 月24日閣議決定)を踏まえ、人件費につい ては、平成22年度にいて、平成17年度に 比較して、5%以上削減する。ただし、今後 の人事院勧告を踏まえた給与改定分について は削減対象より除く。また、削減対象の「人 件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬(給与)、賞与、その他の手当の合計額とし、 退職金、福利厚生費は含まない。

また、民間賃金との地域差、給与カーブの フラット化、勤務実績の給与への反映を内容 とする国家公務員の給与構造改革を踏まえて 、給与体系の見直しに取り組む。

- ・平成20年度競争性のない随意契約 119件、9.955.158,248円
- ・平成20年度競争契約のうち一者応札、一者応募 29件、1,404,496,928円
- (4)監視委員会の評価結果(点検前に既に移行したものを含む。)
- ・平成20年度競争性のない随意契約のうち競争性のある契約に移行すべきもの 9件、36.990.167円 (内訳:一般競争に移行6件、21,116,867円、企画競争に移行2件、12,118,500円、公募に移行1件、3,754,800円)
- ・平成20年度一者応札、一者応募のうち条件の見直しを実施するもの 28件、1,324,365,690円 (内訳:公告期間の見直し 28件、1,324,365,690円)

3 管理情報の安全性向上

個人情報の保護については、個人情報保護に関する説明会への参加や情報漏えいの事例等の通知を行うとともに、個人情報フ ァイルの保有状況調査の実施等にあわせ、重要書類は鍵のかかる保管庫に納めること、個人情報を取り扱う業務中に離席する際 は、当該書類やパソコン画面を他の職員等から見られないような措置を講じること、廃棄する際はシュレッダーにかけることな ど,厳格に書類管理を行っている。ウィルス対応ソフトウェアの導入の徹底や最新のプログラムへの更新を随時行うなど,電子 メール等による外部からのウィルス進入を回避する安全策を講じた。

また,独立行政法人国立美術館保有個人情報管理規則第50条に基づき,当法人の保有個人情報の管理状況について,平成 21年10月28日に監事による監査を実施した。

4 人件費の抑制,給与体系の見直し

人件費決算

決算額 967,616 千円 (対平成 20 年度比較 99.1%)

・人件費は常勤職員を対象とし,退職金,福利厚生費を含まない。

退職者の後任不補充,新規採用や人事交流による職員の若返り等により,前年度と比較して0.%減少した。なお、 「行政改革の重要方針」(平成 17 年 12 月 24 日閣議決定)による人件費の削減への取り組みについては、平成2 1 年度 は、基準年度に比べ 4.8%(純減率)を達成している。

1 . 経過年数に応じた達成状況

行革推進法、「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)による人件費削減の取組

中期目標において、平成18年度から5年間、国家公務員に準じた人件費削減の取組を行うとともに、国家公務員の給 与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを進めることとしている。

中期計画において、人件費については、退職手当、福利厚生費及び今後の人事院勧告を踏まえた給与改定分を除き、 平成22年度において、平成17年度予算額(1,074,071千円)に比較して、5%以上削減することとしている。 総人件費改革の取組状況

年 度	基準年度 (平成 17 年度)	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
給与、報酬等支給総額(千円)	1,016,067	1,016,276	1,023,008	976,216	967,616
人件費削減率(%)		0.0	0.7	3.9	4.8
人件費削減率(補正値)(%)		0.0	0.0	4.6	3.1

2 . 達成するために実施した取り組み内容

退職者の後任不補充、人事交流による職員の若返り等により、前年度と比較して0.9%減少した。

3. 今後の取り組み

引き続き、定年退職者の後任不補充を行うことにより、平成22年度の給与、報酬等支給予定額は、平成17年度の実績 額(1,016,067千円)に対して、5%以上の削減を達成できる見込みである。

給与体系の見直し

国家公務員の給与等を考慮して,平成18年4月から俸給表の水準を全体として平均4.8%引下げるとともに,級の構 成の見直し,きめ細かい勤務実績の反映を行うため号俸の4分割を行ったほか,調整手当を廃止し,地域手当を新設す るなど,国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行った。

また,国立美術館の職員が行う職務は,国の行政職俸給表(一)又は研究職俸給表の適用を受けるものと同等の職務 であるとみなし、給与についても一般職給与法に準拠した給与制度で支給してきていることを前提に、これらとの比較 を行った(「独立行政法人の役職員の給与等の水準(平成20年度)」平成21年7月27日総務省公表資料を参照。)。

ア 一般職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

<国との比較>

項目	国	国立美術館
平均年齢	41.1歳	38.6歳
学歴 (大学卒の割合)	44.7%	77.1%
調整手当支給率 1	41.0%	1 0 0 %

1 1級地,2級地及び4級地の支給地の割合

<他の独立行政法人との比較 > 20年度年間給与額

項目	項 目 全独立行政法人	
給与総額	7,306千円	6 , 1 5 2 千円
平均年齢	43.4歳	38.6歳
ラスパイレス指数 2	107.0	103.7

2 国の行政職俸給表(一)適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

イ 研究職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

<国との比較>

項目	国	国立美術館	
平均年齢	44.8歳	43.6歳	
学歴 (大学卒の割合)	96.4%	1 0 0 %	
調整手当支給率 3	41.0%	1 0 0 %	

3 1級地,2級地及び4級地の支給地の割合

<他の独立行政法人との比較 > 20年度年間給与額

項目	全独立行政法人	国立美術館
給与総額	9 , 0 4 0 千円	8,285千円
平均年齢	45.0歳	43.6歳
ラスパイレス指数 4	100.8	95.6

4 国の研究職俸給表適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

ウ 常勤役員の年間報酬

項目	全独立行政法人	国立美術館	
法人の長	18,605千円	19,304千円	
理事	15,495千円	17,815千円	

平成21年度の役職員の報酬・給与等について

給与水準の適正化

1.職員の給与水準

国家公務員(行政職(一)) 105.1 対国家公務員(研究職) 95.8 対他法人(事務・技術職員) 98.7 対他法人(研究職員) 95.4

2 . 国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由

事務職員の給与水準については、年齢のみを勘案した対国家公務員指数は105.1と国家公務員を上回っている。これは、本部事務局及び5館の美術館のうちの3館が東京都特別区内に所在し、1級地に勤務する事務・技術職員の割合が国を大きく上回る(国立美術館:81.4%,国:23.0%)ため、国家公務員を上回った。

3.適切性の検証

職員数が少ないことから、特に級号俸の高い職員の異動等に伴う給与支給額の変動等が、法人全体の給与水準に及ぼす影響は大きい。

俸給表等の給与体系は国家公務員に準拠しており、地域勘案の対国家公務員指数は 100 を下回っていることから、国からの財政支出の割合は大きいものの、平成 2 1 年度の事務職員の給与水準は適切なものであると認識している

福利厚生費と諸手当

1.法定外福利費の支給状況とその理由、今後の必要な見直し計画

法廷外福利費として平成21年度に執行されたのは1,952,433円であり、その内訳は職員健康診断(1,857,421円)および永年勤続表彰(95.022円)である。

レクリエーション経費、娯楽費等の執行はない。

2. 国と異なる諸手当の支給状況とその理由、今後の必要な見直し計画

国と異なる諸手当の支給状況

主任研究員手当

支給内容:高度の知識経験に基づき困難な研究を独立して行う主任研究員に対し、時間外勤務手当として支給

支給額:俸給月額に100分の12の割合を乗じて得た額

平成21年度の支給実績:受給者数35人、金額18,835,624円

今後の必要な見直し計画

社会一般の情勢に適合したものとなるよう、国家公務員の給与水準を十分考慮して、必要に応じ適宜見直していく。

内部統制体制の整備・運用状況

- 1.監査規程の整備状況
- (1) 監事監査

独立行政法人国立美術館監事監査要綱(平成13年4月2日制定 国立美術館規程第4号)

独立行政法人国立美術館監事監査実施基準(平成13年4月2日制定 国立美術館規程第5号)

独立行政法人国立美術館監事等監査要領(平成13年4月2日制定)

(2) 内部監査

独立行政法人国立美術館内部監査実施要領

監査事項及び監査手順の準用

監事等監査要領第二監査の目的及び着眼点2.会計の監査を準用(第5条)・・・監査事項

監事監査実施基準第3条の規程を準用(第6条)・・・監査手順

監査計画

内部監査実施要領等を参照し、その都度監査員により作成する

- (3) 独立行政法人国立美術館職員倫理規則(平成18年3月31日制定国立美術館規則第26号)
- 2.監査体制の整備状況
- (1) 監事監査

監事(文部科学大臣任命) 2名(専任:非常勤2名)

監査の事務補助(監事監査要綱第6条) 平成21年度実績 3名

兼務: 局長1名・室長2名(独法移行後、毎年3~4名体制)

(2) 内部監査

監査員(内部監査要領第4条) 職員のうちから1名以上

平成21年度実績 7名(兼務:室長1名・係長2名・係員4名)

総括及び調整等(内部監査要領第11条) 総括及び調整:事務局長

- 3. 監査実績 (実施項目、実施時期、監査手法 等)
- (1) 監事監査の実績

監事監査の概要

独法移行後(平成13年4月以降)各年度において、館長会議(隔月1回)その他重要な会議に出席するほか、役職員から 事業の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、本部において、

財務及び業務についての状況を調査した。さらに、会計監査人から会計監査人の監査方法及びその結果について説明を受け、会計帳簿等の調査を行い、財務諸表、事業報告書及び決算報告書

について検討を加え、いずれも適正であることを確認するとともに、業務の執行に関する法令遵守等の状況についても確認 した。

定期監査スケジュール、報告書、指摘事項等

監事監査計画作成(4月) 提出先:理事長

定期監査(6月)

業務監査(毎年度1回) 監査結果報告書(提出先:理事長) 会計監査(年度決算時) 監査結果報告書(提出先:理事長) 監査結果報告については、運営管理会議、館長会議で結果を報告することとしており役職員に対して具体的に周知して い

る。また、監査で指摘を受けた事項の措置状況については、法人全体の取組として学芸課長会議、運営管理会議、館長会 議

に諮り改善提案を「監査結果報告書の監査意見に対する措置状況について(通知)」として監事に報告している。

その他の監査

館長会議その他重要な会議への出席。聴取、意見交換等,重要な書類等の回付(監事監査要綱第13条),出納計算内訳表等(月末)の回付,必要に応じた臨時監査(関係役職員からの聴取等)

会計監査人との連携

会計監査人からの監査計画の報告(3月頃),会計監査人からの監査報告(6月)

「独立行政法人、特殊法人等監事連絡会」総会及び第9部会への参加

会計検査院実施によるセミナー等 公会計監査フォーラム(8月)など年間数回参加

(2) 内部監査の実績

内部監査の概要

内部監査実施要領に基づき平成13年度から実施した。平成20年度においては京都国立近代美術館及び国立国際美術館を対象として、契約方法の妥当性、見積徴収方法、旅費・諸謝金の

取り扱い等について、2人の監査員が監査に当たった。

監査スケジュール、報告書、指摘事項等

内部監査計画の通知:平成21年8月29日

実地監査実施 : 平成21年9月9日(フィルムセンター)

平成21年10月28日(工芸館)

平成21年11月18日(京都国立近代美術館)

平成21年11月19日(国立国際美術館)

内部監査報告書の提出:監査実施後1か月以内

4. 監査結果概要

監査意見に対する措置状況について(平成21年6月18日館長会議附議)

- ・国立西洋美術館の教育普及事業について、研究資料センターについて
- ・京都国立近代美術館の収蔵施設について、職員の残業時間について、建物等の改修について
- ・法人として、一体的な機能性について、長期的な展望に立った計画案の策定について、美術品の収蔵方針について

5 . 監事監査報告書

独立行政法人国立美術館監査要綱(平成13年国立美術館規程第4号)第10条第2項に基づく平成21年6月30日,平成21年11月27日及び平成21年12月18日付けの監査結果報告書

6. 上記以外の内部統制の体制

体制の構築

法人として5館の連携協力を推進しつつ、各館が特色を活かした活動を実施でき得るよう、次の体制を構築している。

- ・法人全体:館長会議(年5回)、館長懇談会(年8回)、学芸課長会議(年5回)、運営管理会議(年5回)
- ・各 館 : 定例会、企画会議等の会議(月1~2回)

チェック体制

・管理運営:監事監査(一般的な事項のほか、美術館における特殊業務である、美術作品購入手続き、現金の取扱い、美術作品の保全等に関する監査(再掲))

運営委員会 (理事長の諮問に応じて重要事項について審議し、理事長に対して助言を行う)

外部評価委員会(各事業年度の事業の実績に関する評価を行う)

評議員会(各館の管理運営に関する重要事項について、館長に助言する)

監査法人(各事業年度の財務諸表及び決算報告書についての監査)

- ・作品購入:外部の専門家等で構成する購入選考委員会(購入の適否)及び購入等評価員会(価格評価)の開催(翌年度に購入作品・選考委員・評価員の公表を行うこことしている。)
- ・執行関係:会計検査院による検査(年1回)、財務省関東財務局による共済検査(適宜)
- ・その他 : 各館における来館者アンケート (展覧会の内容、開館時間・入館料等観覧者サービス等)

法人の長のマネジメント (留意事項関係)

・館長会議の運営 : 法人全体にかかる案件については、各館の定例会等の会議で協議を行った上で、運営管理会議及び 学芸課長会議を経て館長会議で決定を行い、理事長が最終決裁を行っている。

併せて同会議を活用し、職員への周知を徹底している。

	- 韓国銀製人の運営・名韓国に対すて四東国の帝田の	ひにきのはも を始の細胞等の物理 松上休養が某るのせた オナケー	
		D伝達のほか、各館の課題等の把握、総人件費改革への対応、独立行	
	政法人の見直しの動き、国家補		
	その対処方針等について各館長に指示。併せて、各館		
	・監事との意見交換:監事と理事長、理事及び館長に		
	対応について運営管理会議で協		
	〔特に作品管理、会場管理、労務管理などを中心に意	(見交換)	
	・監査法人との意見交換:財務諸表及び決算報告書の	の監査に際して、理事長としての経営方針、内部統制等の現状につ	
	いて協議・意見交換を実施した	た。	
	・展覧会終了ごとに PDCA サイクルを意識した事業報	告書を提出させ、結果を次の業務の計画に反映させることとしてい	
	ర .		
	事業のスキーム		
		ひび企画展を企画・立案し、法人の年度計画として館長会議で決定す	
	3.	O E I M C E I E M C M M C M C M C M C M C M C M C M C	
		。 易げる各館の収集方針に基づき、購入又は寄贈受入候補作品を選定	
	し、各館長があらかじめ選考委員会及び評価員会の		
	7 . その他	ン思元で物VIC、 時八寸で八足する。	
		2 = 40 = 1	
	理事長、理事及び館長と監事の意見交換 (平成 22 年	3 H 10 E)	
	[議題]		
	・国立美術館におけるリスク管理について		
	・研究員の採用等について		
	・各館との情報共有について		
	運営管理会議(平成 22 年 3 月 29 日)(上記の意見交	交換を受けて開催することとなった)	
	〔議題〕同上		
	1 S:特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に設け	fす、法人の業務の特性に応じて評定を付す。) 要がある。(客観的基準は事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断	
	2 F:評価委員会とUC業務連合の改善その他の働音を行う必要された場合に限りFの評定を付す。)	安かのの、(各観的基準は争削に取けり、耒務以普の側古が必安と判断	
・一般管理者の当時		実績:831,834千円、削減率 5.8%	,
: 拨兒		前年度実績:一般管理費 880,812千円、削減率 0.2%)	/!
[参考指標		,	/
		実績:1,941,543千円、削減率 12.9%	/ ;
	削減率 5%以上 (前年度実績:業務経費 2,126,675千円、削減率 4.6%)	/
【参考指標			/
省エネルギー化	1 【1.03%以上【0.72%以上【0.72%未満】 2 実	実績:対前年度削減率 5.0%	[
(文前)年度消息率)		前年度実績:対前年度削減率 10.5%)	c :
「定量的に評価		対平成17年度削減率∶7.9%)	
		実績: 81.8t、削減率 16.9%	/;
		前年度実績: 70t 削減率 35.2%)	/ :
外音路平面の閉鎖を		(対平成17年度削減率:23.1%) 実績:13回(前年度実績:14回)	
・ 外部を削削して対象	1 1回以上 - 0回 2	天謨・13四(刑千及夫謨・14四)	
数			A
	亚武 2.2年 年 1 年 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		½
八仟貴の別別大人		美績:人件費 967,616十円、削減率 3.1% 前年度実績:人件費 976,216千円、削減率 4.6%)	/ <u>:</u>
	(平成17年度の実績額に対して、 5%+人事院勧告反映分 1.7%)	では、大阪・八仟貝 310,410 J、例外学 4.070)	/ :
			/

財務・人事・施設整備に関する目標を達成するためにとるべき措置

評定 A

中期計画通り、または中期計画 を上回って履行し、中期目標に向 かって順調、または中期目標を上 回るペースで実績を上げている。

評価のポイント

苦しい予算・人員の中で最大限の努力は評価できる。

中期目標			評価基準					主な実績及び自己評価			評定	評価委員会によるコメント
中期间	年島恒	評価則	S	Α	В	С	F					
財務内容の改善に関する事項 税制措置も活用した寄付金や自己収入の確保、予算の:	効率的な執行等に努め、適切な財務内容の	実現を図ること。										
1 自己収入の増加 積極的に外部資金、施設使用料等、自己収入の増 また、自己収入額の取り扱いにおいては、各事業年 こと、 2 固定的経費の節減 管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営	F度に計画的な収支計画を作成し、当該収支											
予算(人件費の見積もりを含む)、収支計 画及び資金計画 収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部	1 外部資金の活用、自己収入の増大に向けた定量的な目標を策定する。	財務の状況【定性的に評価】	予算(人件費の見積もりを含む),収支計画及び資金計画等 1 予算(単位:千円)						А	・制度上、予算設定時に見込めない施設 整備関係の乖離については、特に問題は		
収入面に関しては、美績を樹条しフラ、外部 資金等を積極的に導入することにより、計画的					区分			計画額	実 績 額	増 減額		ないと判断している。
な収支計画による運営を図る。 また、管理業務の効率化を図る観点から、各 事業年度において、適切な効率化を見込んだ予 算による運営に努める。 1 予算(中期計画の予算) 別紙のとおり	2 予算(年度計画の予算) 左記のとおり。		展示寄附施設	金収入整備費補	入(注1) 助金(注			5,773,106 984,737 - 9,938,856 1,050,000 17,746,699	5,773,106 1,297,350 16,948 7,205,403 1,049,458 15,342,266	0 312,613 16,948 2,733,453 541 2,404,432		・予実の比較においては、展覧会の入館 者数の増加が展示事業等収入の増加につ ながっている。しかし、前年度実績と比 較すると若干展示事業等収入は減少して いる。これは、京都国立近代美術館及び 国立西洋美術館の減少によるものである 今後も、入館者数が増加する良い企画 を期待している。
			管事施	事理うう業うううう設業部ちち部ちちちち整費門人一門人展調教備:	(費管費費事研普補) (理 (業究及助 注費事事金	注4) 費 (注5) 費 (注5)	金	6,757,843 1,804,981 339,843 1,465,138 4,952,862 815,554 3,076,621 157,827 902,860 9,938,856 1,050,000	6,587,575 1,812,926 346,293 1,466,632 4,774,649 843,113 2,735,154 197,703 998,677 7,149,543 1,049,458	170,268 7,945 6,450 1,494 178,212 27,559 341,466 39,876 95,817 2,789,312 541		・現預金24億円の内訳は、運営費交付金債務、施設整備費補助金や寄附金等の預り金、ならびに平成21年度末における未払金であるが、展覧事業等の事業経費及び支払等を目的として保有しており、保有の必要があるものと認められる。なお、運用を行っている金融資産等は保有していないが、現預金残高24億円の管理には十分に留意する必要がある。 ・債権及び知的財産等の保有の必要性等については、その内容から特に問題はないと判断している。

	計	17,746,699	14,786,578	2,960,120	【よりよい事業とするための意見】
	収支差引		555.688	555,688	・法人内の5館の事業規模からみて
	収支差別 主な増減理由	-	333,000	000,000	館者数は毎年上昇するわけではなく 定数を想定するのが現実的であるこ
	(注1)入場料収入等の増加による。				た数を想定するのが現実的であると
	(注2)前年度繰越工事の完了ならびに当	4年度工事未完により次期へ繰越し	たことによる。		おくべきであると考える。また、新
	(注3)前年度繰越の退職手当支出相当客				などとの共催展運営は、我が国のほどの公立・私立美術館にはあてはま
	(注4)支出経費の見直しならびに業務を	・達成の運営費交付金の繰越による	•		い特異な方式で、今後とも継続して
	(注5)支出経費の見直しによる。 金額は切り捨てのため,合計等が合致し	ない場合がある。			されるとは思われず、おおよそ一定 準で経過してゆく国立美術館として
	特記事項				務状況を確認し、文化行政としての
	運営費交付金を充当して行う業務では、				も加味し、財務的にも着実な中期的
	た運営費交付金により退職手当を支出した				ョンを持つべき局面を迎えている。
	集に係る運営費交付金を次事業年度に繰走 展示事業等収入は,展覧会の入館者数が				・毎年予算が減額され、自己収入の
	新美術館の公募展事業収入が収入の増加は				を求められる厳しい状況下において 現状を打破するための戦略のひとつ
	入増となった。				て、CSR(企業の社会的責任)に積
	施設整備費補助金は前年度に工事が未見				に働きかける取組や工夫を検討する である。
	立近代美術館収蔵ラック等増設工事(第2 事が未完となった東京国立近代美術館相相				Coos.
	事が未元となった東京国立近代美術館相称 京国立近代美術館工芸館外壁等補修工事を				
	の支出の減少となった。		00,040 1300407(07/1/02)		
	寄附金については,59件,16,948千円	を獲得した。うち 11,866 千円を当	年度の収益とし,残りの) 5,082 千円を次年度以降	
·	に繰り越して執行する予定である。				
収支計画 3 収支計画	2 収支計画(単位:千円)				
	区分	計画額	実績額	増 減額	
		計画額	実績額	増 減額	
	区分	計画額	実績額 5,701,027	增 減額	
	区 分 費用の部				
	区 分 費用の部 経常経費	5,945,863	5,701,027	244,836	
	区 分 費用の部 経常経費 管理部門経費	5,945,863 1,861,352	5,701,027 1,839,939	244,836 21,413	
	区 分 費用の部 経常経費 管理部門経費 うち人件費 (注1)	5,945,863 1,861,352 339,843	5,701,027 1,839,939 346,293	244,836 21,413 6,450	
	区 分 費用の部 経常経費 管理部門経費 うち人件費 (注1) うち一般管理費 (注2)	5,945,863 1,861,352 339,843 1,521,509	5,701,027 1,839,939 346,293 1,493,646	244,836 21,413 6,450 27,863	
	区 分 費用の部 経常経費 管理部門経費 うち人件費 (注1) うち一般管理費 (注2) 事業部門経費	5,945,863 1,861,352 339,843 1,521,509 3,948,862	5,701,027 1,839,939 346,293 1,493,646 3,689,145	244,836 21,413 6,450 27,863 259,717	
	区 分 費用の部 経常経費 管理部門経費 うち人件費 (注1) うち一般管理費 (注2) 事業部門経費 うち人件費 (注1)	5,945,863 1,861,352 339,843 1,521,509 3,948,862 815,554	5,701,027 1,839,939 346,293 1,493,646 3,689,145 843,113	244,836 21,413 6,450 27,863 259,717 27,559	
	区 分 費用の部 経常経費 管理部門経費 うち人件費 (注1) うち一般管理費 (注2) 事業部門経費 うち人件費 (注1) うち展示事業費 (注3)	5,945,863 1,861,352 339,843 1,521,509 3,948,862 815,554 2,091,621	5,701,027 1,839,939 346,293 1,493,646 3,689,145 843,113 1,668,745	244,836 21,413 6,450 27,863 259,717 27,559 422,876	
	区 分 費用の部 経常経費 管理部門経費 うち人件費 (注1) うち一般管理費 (注2) 事業部門経費 うち人件費 (注1) うち展示事業費 (注3)	5,945,863 1,861,352 339,843 1,521,509 3,948,862 815,554 2,091,621 154,827	5,701,027 1,839,939 346,293 1,493,646 3,689,145 843,113 1,668,745 188,316	244,836 21,413 6,450 27,863 259,717 27,559 422,876 33,489	
	区 分 費用の部 経常経費 管理部門経費 うち人件費 (注1) うち一般管理費 (注2) 事業部門経費 うち人件費 (注1) うち展示事業費 (注3) うち調査研究事業費 (注4)	5,945,863 1,861,352 339,843 1,521,509 3,948,862 815,554 2,091,621 154,827 886,860	5,701,027 1,839,939 346,293 1,493,646 3,689,145 843,113 1,668,745 188,316 988,971	244,836 21,413 6,450 27,863 259,717 27,559 422,876 33,489 102,111	
	区 分 費用の部 経常経費 管理部門経費 うち人件費 (注1) うち一般管理費 (注2) 事業部門経費 うち人件費 (注1) うち展示事業費 (注3) うち調査研究事業費 (注4)	5,945,863 1,861,352 339,843 1,521,509 3,948,862 815,554 2,091,621 154,827 886,860	5,701,027 1,839,939 346,293 1,493,646 3,689,145 843,113 1,668,745 188,316 988,971	244,836 21,413 6,450 27,863 259,717 27,559 422,876 33,489 102,111	
	区 分 費用の部 経常経費 管理部門経費 うち人件費 (注1) うち一般管理費 (注2) 事業部門経費 うち人件費 (注1) うち展示事業費 (注1) うち展示事業費 (注4) うち教育普及事業費 (注4) 減価償却費	5,945,863 1,861,352 339,843 1,521,509 3,948,862 815,554 2,091,621 154,827 886,860	5,701,027 1,839,939 346,293 1,493,646 3,689,145 843,113 1,668,745 188,316 988,971	244,836 21,413 6,450 27,863 259,717 27,559 422,876 33,489 102,111	
	区 分 費用の部 経常経費 管理部門経費 うち人件費 (注1) うち一般管理費 (注2) 事業部門経費 うち人件費 (注1) うち展示事業費 (注3) うち調査研究事業費 (注4) うち教育普及事業費 (注4) 減価償却費	5,945,863 1,861,352 339,843 1,521,509 3,948,862 815,554 2,091,621 154,827 886,860 135,649	5,701,027 1,839,939 346,293 1,493,646 3,689,145 843,113 1,668,745 188,316 988,971 171,943	244,836 21,413 6,450 27,863 259,717 27,559 422,876 33,489 102,111 36,294	
	区 分 費用の部 経常経費 管理部門経費 うち人件費 (注1) うち一般管理費 (注2) 事業部門経費 うち人件費 (注1) うち及尿事業費 (注3) うちち調査研究事業費 (注4) うち教育普及事業費 (注4) 減価償却費	5,945,863 1,861,352 339,843 1,521,509 3,948,862 815,554 2,091,621 154,827 886,860 135,649	5,701,027 1,839,939 346,293 1,493,646 3,689,145 843,113 1,668,745 188,316 988,971 171,943	244,836 21,413 6,450 27,863 259,717 27,559 422,876 33,489 102,111 36,294	
	区 分 費用の部 経費 管理部門経費 うち人件費 (注1) うち一般管理費 (注2) 事業部門経費 うち人件費 (注1) うち及展示事業費 (注3) うちち裏査研究事業費 (注4) うち教育普及事業費 (注4) 減価償却費	5,945,863 1,861,352 339,843 1,521,509 3,948,862 815,554 2,091,621 154,827 886,860 135,649 5,945,863 4,722,449 984,737	5,701,027 1,839,939 346,293 1,493,646 3,689,145 843,113 1,668,745 188,316 988,971 171,943 5,882,951 4,296,827 1,348,104	244,836 21,413 6,450 27,863 259,717 27,559 422,876 33,489 102,111 36,294 62,912 425,622 363,367	
	区 分 費用の部 経費 管理部門経費 うち人件費 (注1) うち一般費 うち一門経費 うち人件費 (注1) うち展示事門費 (注3) うち展示事業費 (注4) うち教育普及事業費 (注4) 減価償却費 収益の部 経常費用 運営費乗で付金収益 (注3) 展示事業等の収入 (注5) 資産見返運営費交付金戻入	5,945,863 1,861,352 339,843 1,521,509 3,948,862 815,554 2,091,621 154,827 886,860 135,649	5,701,027 1,839,939 346,293 1,493,646 3,689,145 843,113 1,668,745 188,316 988,971 171,943 5,882,951 4,296,827 1,348,104 155,706	244,836 21,413 6,450 27,863 259,717 27,559 422,876 33,489 102,111 36,294 62,912 425,622 363,367 44,078	
	区 分 費用の部 経常経費 管理部門経費 うち人件費 (注1) うち一般管理費 うち一般費 うち門経費 うち展示事業費 (注1) うち展示研究事業費 (注4) うち教育普及事業費 (注4) 減価償却費 収益の部 経常費用 運営費交付金収益 (注3) 展示事業等の収入 (注5) 資産見返審附金戻入	5,945,863 1,861,352 339,843 1,521,509 3,948,862 815,554 2,091,621 154,827 886,860 135,649 5,945,863 4,722,449 984,737 111,628	5,701,027 1,839,939 346,293 1,493,646 3,689,145 843,113 1,668,745 188,316 988,971 171,943 5,882,951 4,296,827 1,348,104 155,706 1,544	244,836 21,413 6,450 27,863 259,717 27,559 422,876 33,489 102,111 36,294 62,912 425,622 363,367 44,078 1,544	
	区 分 費用の部 経費 管理部門経費 うち人件費 (注1) うち一般費 うち一門経費 うち人件費 (注1) うち展示事門費 (注3) うち展示事業費 (注4) うち教育普及事業費 (注4) 減価償却費 収益の部 経常費用 運営費乗で付金収益 (注3) 展示事業等の収入 (注5) 資産見返運営費交付金戻入	5,945,863 1,861,352 339,843 1,521,509 3,948,862 815,554 2,091,621 154,827 886,860 135,649 5,945,863 4,722,449 984,737	5,701,027 1,839,939 346,293 1,493,646 3,689,145 843,113 1,668,745 188,316 988,971 171,943 5,882,951 4,296,827 1,348,104 155,706	244,836 21,413 6,450 27,863 259,717 27,559 422,876 33,489 102,111 36,294 62,912 425,622 363,367 44,078	

			T T	1	J
		経常利益		181,924	
		臨時損失		2,763	
		臨時利益		17,979	
		当期純利益		197,140	
		前中期目標期間繰越積立金取崩額		5,647	
		当期総利益		202,787	
		(注1)前期繰越予算により退職手当を支出 (注2)施設整備費補助金による費用への計 (注3)計画に基づく美術品・収蔵品を収集 (注4)支出経費の見直しを行ったことによ (注5)人場料収入等の増加ならびに補助金 (注6)当事業年度未完の施設整備費補助金金額は切り捨てのため,合計等が合致し 当期総利益 202,787,866円 (1)発生要因:自己収入(主として入場料収入)の増による 147百万円、臨時損益によるもの 15百万円、前中期 (2)目的積立金を申請しない理由:平成21年度にプレヤ(平成18年7月21日(平成19年7月2定の基準」,「経営努力認定の対象案件の利益の前々年度の実績を下回っている場合には、その理由	上が減少したことによるできなかったことから過る。 等収益,受託収入等の意を繰越したことによる過ない場合がある。 3もの329百万円、緊切目標期間繰越積立金の平成20年度よりも利益4日改訂)総務省行前年票額が原則として前年度を合理的に説明すること		修繕等によるもの 円 2行政法人の経営努力認 2行政法人の経営努力認 ただし、前年度実績が
	4 資金計画	ることが難しいため、目的積立金の申請を行わない	こととした。		
資金計画		3 資金計画(単位:千円) 区分	計 m 55	実績額	+ A
			計画額		增 減額
		資金支出 業務活動による支出(注1)	17,746,699 6,755,768	14,538,643 6,680,398	3,208,056 75,370
		投資活動による支出(注 2)	10,990,931	7,857,614	3,133,317
		財務活動による支出	10,330,331	630	630
		資金収入	17,746,699	15,198,550	2,548,149
		業務活動による収入	7,807,843	7,340,241	467,602
		運営費交付金による収入	5,773,106	5,773,106	-01,002
		展示事業等による収入(注3)	984,737	1,411,291	426,554
		文化芸術情報電子化推進費補助金による	1,050,000	155,844	894,156
		収入(注4)	.,000,000	100,0-14	334,100
		投資活動による収入	9,938,856	7,858,308	2,080,548
		施設整備補助金による収入(注2)	9,938,856	7,858,308	2,080,548
		資金に係る換算差額	2,000,000	1,760	2,000,040
		資金増加額		658,147	
		資金期首残高		1,777,306	
		資金期末残高		2,435,453	
		主な増減理由 (注1)活動内容の見直しによる。 (注2)前期繰越工事の完了および当期工事 (注3)入場料収入等の増加による。		_,,	
		(注4)未収入金計上のため当期の実績が減 金額は切り捨てのため,合計等が合致しな			
		・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 	いりあ古かのる。		

	4 貸借対照表(単位:千円))				
	資産の	部	負債及び純資産	の部		
	資産の部		負債の部			
	流動資産	3,691,886	流動負債	2,681,346		
	固定資産		固定負債	1,084,849		
	1 . 有形固定資産	142,334,594				
	2 . 無形固定資産	24,880	負債合計	3,766,195		
	固定資産合計	142,359,475				
			純資産の部			
			資本金	81,019,148		
			資本剰余金	59,804,776		
			利益剰余金	1,461,240		
			純資産合計	142,285,165		
	資産の部合計	146,051,361 合計額が合致しない場合が	負債及び純資産の部合計	146,051,361		
	金融資産の保有の必要性・適面・平成21年度末における本流保有していない。なお、当該資産は次期に繰走円)ならびに平成21年度末に計算に必要な資産運用状況・当法人の資金は預金のみであり債権の種類と金額平成22年3月31日現在なお、未収入金について度補正予算において予算打る。 (2)関連法人に対する貸付金の該当なし (3)回収計画あよび運用方針の当法人は資金等の保有の必要性等・現在保有している特許権等の保なの、取状では特許取得の目処は近、現状では特許取得の目処は近	E性 法人の金融資産は、現金およびをした運営費交付金債務・	(金 882,567千円、当期未処分利益 にび預金(2,435,453,718円)のみであ (572,399,907円)や施設整備費補助金 79円)の支払等を目的として保有して 用実績はない。 36,845,337円、立替金 1,820,346円と 段整備費補助金に係る予算の未収入(3 子化推進費補助金に係る予算の未収入(4 で後に積立金ならびに未処分利益を国庫 (1)を計上しているが、これは国立西洋 は平成18年度に出願を行い、これま 5。しかしながら、本装置を本法人で係 会、規制等を受けることが懸念されるが	り、運用を行っている金融資産は や寄附金等の預り金(65,701,568 いる金融資産であり、本法人の運 になっている。 27,493,706円)ならびに平成21年 (893,614,490円)が主な要因であ がまな要因であ において現在特許出願中ではで特許庁と協議を行ってきている を関することはもとより、全国の博	5	
短期借入金の限度額 期借入金の限度額は、 1 2億円。 期借入金が想定される理由は、運営費交付金の受入れに遅延が生じた場合である。	5 短期借入金 実績なし				А	特になし
重要な財産の処分等に関する計画 要な財産を譲渡、処分する計画はない。	6 重要な財産の処分等 実績なし				A	(再掲) ・実物資産の保有の必要性・適切いては、減損もなく、特に指摘するない。

・施設及び敷地等の実物資産は、法人の 業務を遂行するために一体的に保有して おり、快適な観覧環境の形成や施設の利 用推進を図る観点から様々な取組を行い 、入館者数や入場料収入等の自己収入の 増加を図っており、有効に活用されてい るものと判断できる。 ・剰余金の活用実績がないため、使途の 7 剰余金 決算において剰余金が発生した時は、次の購入等に充てる。 (1) 当期未処分利益の処分計画 問題はないが、予算額を上回る自己収入 1 美術作品の購入・修理 があったにもかかわらず、剰余金として 区分 金額(円) 2 調査研究、出版事業の充実 活用することができないのは残念である 3 企画展等の追加実施 当期未処分利益 202.787.866 4 入館者サービス、情報提供の質的向上、老朽化対応のための整備の充実 当期総利益 202,787,866 【よりよい事業とするための意見】 (2)利益の生じた主な理由 事業仕分けで収集活動の充実、ただし 予算額を上回った自己収入があったことによる。 国庫に負担をかけない範囲で、という判 特記事項 断が下されたことを考慮すれば、法人努 国立新美術館及び国立国際美術館の両館で開催された「ルーブル美術館展 - 美の宮殿の子どもたち - 」において両館合 力で得た剰余金は、作品収集予算の上積 みとして国のコレクションの一層の充実 わせた目標入館者数 330,000 人に対して 481,779 人,国立西洋美術館で開催した「ルーブル美術館展 - 17 世紀ヨーロッパ 絵画 - 」及び「古代ローマ帝国の遺産 - 栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイ - 」において両展を合わせた目標入館者 に充当すべきであり、また、将来的にさ まざまな美術館活動の拡充に備えて、雇 460,000 人に対して 829,975 人の入館者数があったことなどにより,収入予算額を上回る収入を得ることができた。 用経費などにも使用可能な道を開くべき (3)目的積立金の使用状況 である。あらためて国の政策と関連して 検討し、改善を望みたい。現状ではイン 今中期期間における目的積立金の承認がないため,実績はない。 センティヴなき組織になりかねない以上 、人材の開発はもとより、美術館として (4)積立金(通則法第44条第1項)の状況(単位:円) の活動・業務に齟齬が生じかねない。 使途の内訳 期首残高 当期増加額 当期減少額 期末残高 積立金 675,723,670 206,844,009 882,567,679 前中期目標期間 5,647,320 381,532,745 375,885,425 繰越積立金 「独立行政法人の経営努力認定について(平成18年7月21日(平成19年7月4日改訂)総務省行政管理局)」の(3) 「独立行政法人の経営努力認定の基準」、「経営努力認定の対象案件の利益の実績が原則として前年度実績額を上回ること (ただし、前年度実績が前々年度の実績を下回っている場合には、その理由を合理的に説明することが必要。)。」に対する合 理的な説明が不足したことにより、通則法 44条第3項による目的積立金の申請を行わなかった。 また、前中期目標期間繰越積立金の当期減少額はファイナンスリース損益に係る影響額(前期修正分を含む)である。 その他業務運営に関する重要事項 人事管理(人件費、意識改革等)、人事交流の適切な実施により、内部管理事務の改善を図ること。また、効率的かつ効果 的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用すること。 ・少ない人員の中、最大限の努力がうか 人事に関する計画 1 人事に関する計画 8 人事に関する計画 がえる。 Α 職員の研修計画 (1)方針 人事の状況 職種別人員の増減状況(過去5年分) 職員の意識向上を図るため、次の職員研 国家公務員制度改革や類似独立行政法人 修を実施する。 ・近年に比べ積極的に研修の機会を設け 【定性的に評価】 等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつ (単位:人) ア 新規採用者・転任者職員研修 た点は評価できる。 つ、職員の能力や業績を適切に反映できる イ 接遇研修 17年度 18年度 19年度 20年度 2 1 年度 人事・給与制度を検討し、導入する。 外部の研修に職員を積極的に派遣し、そ 人事交流を促進するとともに、職員の資 の資質の向上を図る。 【よりよい事業とするための意見】 定年制研究系職員 60 61 61 61 61 質F向上を図るための研修機会の提供に努め ・中期計画に則して進捗しているが、委 る。また、効率的かつ効果的な業務運営を 定年制事務系職員 70 70 70 70 70 託、競争入札に連動して、職員の人材確 行うため、非公務員化のメリットを活かし 保に不安がないわけではない。 た制度を活用する。 「公務員の給与改定に関する取扱について(平成18年10月17日閣議決定)」に基づき, (2)人員に係る指標 ・フィルムセンターの独立を考える場合 公務員の例に準じて措置,対処している。 常勤職員については、その職員数の抑制を 、人員増は必要不可欠である。 図る。 (参考1) 人事交流の推進 1)期初の常勤職員数 131人 事務系職員については、文化庁、国立大学法人及び他の独立行政法人との間で定期的な人事交流を行い、組織の効率化と 2)期末の常勤職員数の見込み 131人 (参考2)中期目標期間中の人件費総額見込額 個々の職員の能力の発揮とその向上を考慮して人事配置を行った。 5,220百万円 但し、上記の額は、役職員に対し支給す

る報酬(給与)、賞与、その他の手当の	職員の研修等	
合計額であり、退職金、福利厚生費を含		
まない。	ア 東京国立近代美術館	
	・文部科学省主催「平成 21 年度博物館長研修」(1名)	
	・人事院主催「平成 21 年度関東地区新採用職員研修」(2名)	
	・法務省主催「平成 21 年度人権に関する国家公務員等研修会」(2名)	
	・国立大学協会主催「平成 21 年度関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修」(1名)	
	・国立大学協会主催「平成 21 年度関東・甲信越地区及び東京地区実践セミナー(人事・労務の部)」(1名)	
	・日本博物館協会主催「第57回全国博物館大会」(2名)	
	・第58回全国美術館会議総会(3名)	
	・全国美術館会議 教育普及研究部会 第2回フォーラム・連続公開インタビュー(1名)	
	・第5回アジア次世代美術館キュレーター会議(1名)	
	・国立情報学研究所主催「平成 21 年度学術ポータル担当者研修」(1名)	
	・国立情報学研究所主催「平成 21 年度ネットワークセキュリティ対策技術研修」(1名)	
	・国立美術館「平成 21 年度接遇・クレーム研修」(8名)	
	・オーストラリア大使館カルツュアル・ビジターズ・プログラム(日豪学芸員交流事業)として派遣(1名)	
	・文部科学省学芸員等在外派遣研修生として海外へ派遣(1名)	
	・防災訓練(平成 21 年 6 月 24 日)	ļ
	p)及MinA (T/M, 21 中 0 / 2 年 日)	
	イ 京都国立近代美術館	
	・人事院主催「平成 21 年度第 2 回近畿地区セクシュアル・ハラスメント防止研修」(1 名)	ļ
	・日本博物館協会主催「第5 7 回全国博物館大会」(1名)	ļ
	・全国美術館会議討論会(1名)	
	・国立美術館「平成 21 年度接遇・クレーム研修」(2 名)	
	· 避難誘導訓練・消火訓練(平成 21 年 9 月 28 日)	
	AZAMAN TANAMIN	
	ウ 国立西洋美術館	
	・人事院主催「平成 21 年度関東地区新採用職員研修」(1名)	
	・国立文化財機構東京文化財研究所主催「平成 21 年度博物館・美術館等の保存担当学芸員研修」(1名)	
	・大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館主催「平成 21 年度アーカイブズ・カレッジ史料管理学研	
	修会」(1名)	
	· 第5 8 回全国美術館会議総会(1名)	
	・全国美術館会議 第 25 回学芸員研修会(1名)	
	・全国美術館会議 教育普及研究部会 第2回フォーラム・連続公開インタビュー(1名)	
	・全国美術館会議 教育普及研究部会「からだのワークショップ ERG特別パージョン~5 時間、全身で視る」(3名)	
	・全国条が館会議 情報・資料研究部会 企画セミナー	
	「美術情報・資料の活用法 展覧会カタログから Web まで」(1名)	
	・全国美術館会議討論会(2名)	ļ
	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ļ
	・財団法人日本産業廃棄物型理振興センター土権 「平成 21 年度特別管理産業廃棄物管理責任者に関する講習会」(1名)	ļ
		ļ
	・国立大学協会主催「平成 21 年度関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修」(1名)	ļ
	・文部科学省主催「第4回研究機関における公的研究費の管理・監査に関する研修会」(2名)	ļ
	・人事院主催「第41回関東地区係長研修」(1名)	ļ
	・平成 21 年度国立美術館接遇・クレーム研修(2 名)	ļ
	- 消防訓練(平成 21 年 11 月 9 日)	ļ
	・台東区主催「上野駅周辺滞留者対策訓練」(2名)	
	工 国立国際美術館	
	・大阪大学主催「平成 21 年度大阪大学係長研修(新任)」(1名)	
	・全国美術館会議討論会(5名)	ļ
	・第4回アジア美術館長会議(1名)	ļ
	・第4回アジア夫州指依云磯(「石)・第5回アジア次世代美術館キュレーター会議(1名)	ļ
		ļ
	・国立美術館主催「平成 21 年度新任職員接遇・クレーム研修」(2名)	ļ
	・近畿管区行政評価局主催「政策評価に関する統一研修」(1名)	ļ
	・文部科学省学芸員等在外派遣研修生として海外へ派遣(1名)	

			・消防訓練(平成 21 年 10 月 19 日) オ 国立新美術館 ・文部科学省主催「大学等における省エネルギー対策に関する研修会」(2名) ・国立情報学研究所主催「目録システム講習会」(1名) ・全国美術館会議 情報・資料研究部会 企画セミナー 「美術情報・資料の活用法 展覧会カタログから Webまで」(1名) ・全国美術館会議討論会(1名) ・平成 21 年度国立美術館「接遇・クレーム研修」(8名) ・独立行政法人工業所有権・情報研修館主催「知的財産権研修(初級)」(1名) ・自衛消防訓練(業者含む。平成 22 年 1 月 26 日)		
2 業務の目的・内容に適切に対応するため長期的視野 2 別紙のとおりの施設整備に関する計画に沿った整備を推進する。	に立った施設・設備の整備計画を作成する。 2 施設・設備に関する計画 施設・設備の整備を計画的に推進する。	たと。 施設整備の状況 【定性的に評価】	9 施設整備に関する計画 東京国立近代美術館工芸館石垣補修等工事、東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館映画フィルム等収納設備工事、京都国立近代美術館空気調和設備改修(2 年計画の 1 年次目)ならびに京都国立近代美術館建物等改修工事については新規事業として、また、国立新美術館土地購入については平成 19 年度からの継続事業として,平成 22 年度予算において、施設整備費補助金が計上された。	A	・少ない予算の中で、適正な整備状況である。
		関連公益法人【定性的に評価】	10 関連公益法人 該当なし。	A	・これまで関連公益法人として整理されていた法人と国立美術館との取引内容、資金の流れや人員の異動等について、今後とも常時把握する必要がある。